

(6) 彼等は年數千パーセントの率で未來福利を「割引」するのである(第三編第五章三参照)。印度に於ては又程度は劣るが愛蘭に於ても、實に直接享樂を排し多大の自己犠牲を行つて多大の額を貯蓄しながら葬式婚禮の豪華な儀式に一切貯蓄を以て果して了ふ人々を見る。彼等は近い將來のために間歇的準備を行ふが、遠い將來のために永久的準備を殆んど行はぬのである。大機械工場は彼等よりも遙かに自己否定的資源を著しく増進したのであるが、これら工場は彼等よりも遙かに自己否定的でない英吉利人種の資本によつて主として興されたのである。

即ち富の蓄積を支配する諸原因は國の異なり時代の異なるに従つて非常に相違する。これらの諸原因は何れの二人種間に於ても全然同一であることはなく、恐らく同一人種中の何れの二社會階級間に於てさへさうでない。これらの原因は著しく社會的・宗教的制裁に依存する。慣習の拘束力が何等かの程度に於て弛緩した場合に、個人性格の相違は同様の状態の下に育つた近隣人をして幾多の點に於て互に相違せしめるが、この相違は殆んど如何なる他の點に於けるよりも浪費或は節儉の習性に於て最廣且つ最頻繁に現れ來るは著しいことである。

とである。

四 貯蓄の一條件としての保障。

貯蓄の一條件としての保障

往時の不節儉は將來のために準備した者が之を享樂する保障が缺けてゐたことに基く所が多い。既に富者たりし者のみは自己の貯蓄したものを保有するだけに強かつた。勤勉な自己否定的な農民は僅小の富の貯藏高を貯へ上げても強い手によつて奪ひ去られるのを見るのみで、かゝる農夫は絶えず隣人を警戒せしめ享樂し得る時に快樂と安息とを享樂せしめたのである。英蘭と蘇格蘭との間の國境地方は侵掠の絶え間がなかつた間は殆んど進歩しなかつた。佛國農民の貯蓄は十八世紀に於ては非常に僅かであつた。當時彼等は貧乏に見せなければ徴稅官の強奪を免れ得なかつたのである。又愛蘭のコティアーは領主の無法な地代の要求を避けるために、多くの所領に於ては四十年前に於てさへ同一の行動に出なければならかつた。

この種の不安固は文明世界から殆んど一掃された。併し英蘭に於ては、十九

世紀初頭に救貧法が行はれて労働階級に新形式の不安固を齎し、吾々は依然救貧法の結果に苦しんでゐる。蓋し救貧法の規定によれば、労働階級の賃銀の一部分は結果に於て貧民保護金の形式で與へねばならず又この保護金は勤勉節儉先慮に逆比例して配分されたのであつて、多くの人々は將來のために準備するを愚であると考へるに至つたからである。この有害な經驗によつて養はれた傳統と本能とは今に於てさへ労働階級進歩の一大障害であつて、少くも名目上現在救貧法の基礎を成す原理、即ち國家は困窮のみを考慮すべきで美點を全然考慮すべきでないとの原理も力こそ弱いが右と同一方向に作用するのである。

この種の不安固も亦た減少しつつある。國家及び私人の對貧民義務觀は啓發され發達し、この發達は自ら助け自ら將來のために準備する努力をした者は怠惰無思慮な者よりも一層よく社會の保護を受くべきことを日毎に眞ならしめる傾がある。併しこの方向に向ふ進歩は未だ緩慢であつて、爲すべきことが未だ多く残つてゐる。

五

貨幣經濟の發達は濫費への新誘惑を與へる。併しそれは企業才幹なき人々をして貯蓄の果實を收めるを得せしめた。

貨幣經濟の發達は濫費への新誘惑を與へる

貨幣經濟と近代的企業習性との發達は、元より贅澤生活に傾く人々に新誘惑を與へて富の蓄積を妨げる。昔は若し人が住むべき良い家を欲すれば自ら之を建築しなければならなかつた。今は家賃を拂つて借りるべき良い家が豊富にある。以前は若し彼が上等麥酒を欲するならば優良な醸造所を持つてをらねばならなかつた。今は彼は自ら醸造するよりも安價に一層優良な麥酒を購入し得る。今や彼は書籍を購入せずして圖書館から借り得る。彼は代金支拂を爲す以前に住居に家具を備へることさへ出来る。かくて近代的賣買制度、貸借制度は新欲望の發達と相待つて多くの點に於て新たな贅澤を招來し、將來の利害を現在の利害の從たらしめるのである。

併し貯蓄が

併し他面に於て貨幣經濟は人が自身の將來の支出を配分し得る使途の多様

將來の所要
を眞實準備
するといふ
新しい確
た性をも
與へ

性を増加する。原始的社會状態に於て未來必要のために若干の物を貯藏する人は、結局彼の貯藏しなかつた物程にこの物を必要とせぬことを見出すことがある。又財の貯藏によつて直接に豫備すること不可能な多くの未來欲望もある。併し資本を蓄積して之から貨幣所得を引出す者は、彼の必要の起るに従つてこの必要に應ずるものを何でも買ひ得るのである(7)。

(7) 第三編第五章二参照。

又企業才幹
なき人々を
して貯蓄の
全幅果實を
せしめるを
得

更に近代的企業方法は安全な資本投下の機會を伴つた。そしてこの資本投下は何れの企業にも—土地が或る條件の下に於て信賴すべき貯蓄銀行の作用をなす農業にさへも—從事する好機會を持たぬ人々に收入を與へるやうに行はれる。これらの新機會は若干の人々をして老後のために何物かを準備せしめたのであつて、これらの人々はこれらの機會がなければさうはしなかつたであらう。又富の増殖の上に之よりも遙かに大なる結果を持つたこととして、人が自分の死後妻子に確實な所得を豫備することが遙かに容易になつたことである。蓋し家族的愛情は結局に於て貯蓄の主要動機だからである。

六 貯蓄の主要動機は家族的愛情である。

自身のため
に貯蓄する
者は少い

元より若干の人々は富の死藏高が自分の手の下に増大するを見ることに強烈な愉快を感じ、自己或は自己以外の者がその使用によつて得る幸福については殆んど何等の考をも持たない。彼等は一には追求本能により、對敵を凌駕せんとする願望により、蓄財能力を示し富の所有によつて權勢と社會的地位とを得んとする野心によつて動かされてゐる。又時には彼等が眞實貨幣の必要に迫つてゐた際に起つた習性の力が一種の反射作用によつて、彼等にそれ自體のために蓄財する人爲的不合理的快樂を與へたのである。併し家族的愛情がなかつたならば、今日勤勉に作業し細心に貯蓄する幾多の人々は、自身の生活のための快適な年金を確保する以上に努力せぬであらうし、保險會社から年金を購入するか、或は引退後彼等の資本の一部と一切所得とを年々費消する途を定めるかに止まるであらう。後の場合には彼等は死後に残すべき何物をも持たず、前の場合には希望老年期間中早死に切り取られて残つた年數に對する豫備のみ

之に反して
貯蓄の主要
動機は家族
的愛情であ
る

を残すに過ぎぬ。人間が主として家族のために勞働し貯蓄することは次の事實によつて示される。即ち彼等は引退後その貯蓄から來る所得以上を費消すること殆んどなく、集積富には手を觸れずして之を家族に残さうとするとの事實である。他方英國のみでも、年二千萬磅は保險證券の形式に於て貯蓄され、之は貯蓄者の死後に於てのみ用をなすものである。

人を精力と敢爲とに刺戟するものは多いが、生活上の地位を高め彼の家族をして彼自らの出立點よりも高い社會階段から出立せしめやうとする希望以上の強い刺戟を人は持ち得ない。この希望は彼に壓倒的熱心を與へることさへあつて、この熱心は安易を求め一切通常快樂を求め願望を無意味ならしめ、時には彼の内にある優美な感覺性と高貴な憧憬とを破壊することさへある。併し現在の世代に於ける米國の富の驚くべき増殖が示す通り、この希望は彼を富の力強い生産者たらしめ蓄積者たらしめる。但し彼が富の與へる社會的地位を捉へるに餘りに急がないとしてある。何となればこの場合には彼の野心は冗費を來し、その冗費は無思慮な耽溺的氣質によつて生ずると同じ程度に大

だからである。

最大の貯蓄は次のやうな人々によつて行はれた。即ち貧弱な資力によつて養育されて痛ましい苦痛作業に従ふ人々であり、企業上の成功を收めたにも拘らず簡素の習性を失はぬ人々であり、外見的支出を賤しみ死に當つて人が思ふ以上に富んでゐやうとの願望を養ふ人々である。この型の性格は舊いながらに活力的な諸國の邊鄙な部分に多く、佛國戰役と之に續いた重税との壓迫を受けて後の一世代以上に亘つて英蘭の田舎地域に於ける中産階級には甚だ普通であつた。

七 蓄積源泉。公共蓄積。協同組合。

次に蓄積源泉についてある。貯蓄力は所得が必要支出を超過する部分に依存し、この超過部分は富者の間に最大である。英國に於ては、大所得の大部分は主として資本から生ずるが、小所得は單に一小部分のみが主として資本から生じてゐる。又十九世紀初頭英蘭の商業階級は田舎地主或は勞働階級よりも

蓄積源泉は
所得その
つてその
あつてそ
餘りから
資本から
生ずると

支拂に充てられた場合に全然損失となるものでないといふ點である(9)。

(9) さりながら認めねばならないのは、公共財産の名で通つてゐる物が往々單に將來の公共歳入を抵當として借入れた私有富に過ぎぬことである。例へば市營瓦斯工場は一般に公共蓄積の結果ではない。これらは私人によつて貯蓄され公共計算に於て借入れられた富で建てられたものである。

八 現在充足と延期充足との選擇。若干の待望即ち充足延期は一般に富の蓄積に伴つてゐる。利子はその報償である。

吾々は現在
使用と延期
に於ける間
に物の配分
に立歸らぬ
ばならぬ

以上貯蓄方法と富の蓄積との發展を見て來た。そこで吾々は現在充足と延期充足との關係の分析に立歸りたい。この分析は吾々が需要の研究に際して他の一視點から始めたものである(10)。

(10) 上記第三編第五章。

その所で明かになつた通り、數多の用途に充用し得る一貨物の或る保有高を持つ人は、この貨物をこれら一切用途に配分して最大満足を得るやうに努める。

若し彼がこの貨物の若干を一の用途から他の用途に移すことによつて、一層の満足を求め得ると考へるならば、彼はさうするであらう。従つて若し彼が彼の配分を正しく行ふならば、彼は或る一點に於て數多の各用途にこの貨物を充用することを止める。その點といふのは彼が數多の各用途に對して辛うじて行つた充用から等量の善利を收める如き點である(言ひ換へれば彼はこの貨物の各用途に於て同一の限界利用を持つ如くにこの貨物を各種の用途の間に配分する)。

なほ吾々は次の點を明かにした。即ち一切用途が現在のであらうと或は若干用途が現在のであつて他は延期されるものであらうと、右の原理は同じであること、併しこの後の場合には若干考察點が加はつて來ることこれである。この考察點中の主なものは、第一に、一充足の延期は必然にこの充足の享樂に關して若干の不確實性を招來すること、第二に、人間本性の構成上、常にではない迄も一般に、一現在充足はそれと等しいと期待され且つ人間生活に於て有り得る限りの確實性を持つ充足よりも好まれることこれである。

人は未だ現充
足るを採
在るに於て
つては、貯蓄
するがこと
あるが、貯蓄
人は、貯蓄
資力を増す
なすに、貯蓄
は加ふこと

慎重な人がその生活の一切階段に於て等量の資力から等量の充足を収めると考へるならば、彼は恐らくその資力を彼の全生涯に均等に配分しやうと努めるであらう。若し彼が彼の所得収得力が将来に於て減ずる恐れありと考へたならば、彼は確かにその資力の若干を将来の日のために貯蓄するであらう。彼は單に彼の貯蓄が彼の掌裡に於て増加すべしと考へたからかうするのではなく、その貯蓄が減少すべしと考へる場合に於てさへさうするであらう。彼は少數の果實及び鶏卵を冬期迄保存しておくであらう。何となればこれらは保存によつて優良とはならぬ迄も、冬期になれば稀少となるからである。若し彼がその収入を生産業或は貸附に投下してこの収入から利子或は利潤を収める途を知らぬとすれば、彼は吾々自身の祖先達の或る者の例に倣ふであらう。彼等は僅かのギニーを蓄積して、活動生活から引退する際に之を田舎に持つて行つた。彼等は貨幣が急速に手に入つて來る際に數ギニーの費消増加から求め得る満足増量が、老後にこの數ギニーをもつて買ひ得る快適に比し彼等にとつて奉仕性が少いものと計算したのである。彼等はこれらのギニーの保管のため

従つて思考
上子に於て
利子が負へ
場合に於て
若し貯蓄
か行はれぬ
かも知れぬ

に多大の煩勞を費す。疑もなく彼等は、如何なる種類の危険をも感ぜしめずしてこの煩勞を除いて呉れる何人かに若干の僅少な料金を悦んで支拂つたであらう。

従つて吾々は次のやうな事態を想像し得る。即ちそこでは蓄藏富を殆んど善用し得ず又多くの人々は將來のための豫備を行はうと欲し、他面財を借りやうと欲する者は將來に於てその財或は等價財を返還する安全な保障を殆んど興へ得ぬといふ状態である。かゝる事態に於ては、享樂の延期及び享樂の待望は報償を受ける行爲と言ふよりは寧ろ罰を受ける行爲であらう。人は自己の資力を他人に引渡して保管を託しても、單に貸附額よりも若干少い額の返還を確實に約束して貰ふことを期待し得るのみであつて、貸附額以上の返還を約束して貰はぬ。その利率は負となるであらう(11)。

(11) 利率が思考上負量となることがあるとの暗示はフォクスウェル Foxwell が一八八六年一月銀行集會所に於ける報告論文 Some Social Aspects of Banking に於て論究した。

併し處罰あ
かゝる事態は思考し得る。併し人々が作業に熱心であつて作業許可を得る

る場合にさ
へ若干の作
業が行はれ
るも同様に
真である

従つて吾々
は利子を待
望の報償と
呼んでいい

制慾の報償
ではない

一條件として若干の所罰を甘受するといふことも亦た思考し得ることであり又殆んど同様に蓋然的である。蓋し自己の若干資力の消費の延期は慎重な人がそれ自體のために欲することであると同様に、若干作業を爲すことは健康者にとつてそれ自體として望ましい對象だからである。例へば政治囚は一般に僅少の作業を許されることを有難く思ふのである。そして人間本性の現狀に於ては、報償がなければ多くを貯蓄する人は少いのであるから、吾々は資本利子をもつて物質資本享樂の待望に伴ふ犠牲の報償であると言つて正しい。恰かも報償がなければ苦しんで作業する人は少いから、吾々が賃銀をもつて労働の報償であると言ふと同じである。

將來のためにする現在快樂の犠牲は經濟學者によつて制慾、abstinenceと呼ばれて來た。併しこの用語は誤解されて來た。蓋し富の最大蓄積者は非常の富者であつて彼等の中の或る者は奢侈生活を營んでをり、節用の轉換用語の意味に於ての制慾を確かに行つてゐないからである。經濟學者が言はうとした所はかうである。即ち人が將來に於て資力を増加する目的をもつて彼の消費力

内にある何物かの消費を制慾する場合には、この特定消費行爲の制慾は富の蓄積を増大するといふことである。さりながらこの用語は誤解され易いから、吾々は之を避けて、富の蓄積は一般に享樂延期の結果或は享樂待望の結果であると言ふ方がいい(12)。或は更に言ひ換へれば富の蓄積は人間の期望性、prospectiveness に依存する。即ち將來を實感する彼の才幹に依存するのである。

(12) カール・マルクス Karl Marx 及びその追隨者はロスチャイルド男の制慾から生じて來る富の蓄積を論評するを得意とした。彼等はこの制慾を一労働者の浪費と對照せしめる。彼は一週七志をもつて七人の家族を養ひ、彼の全幅所得を生活に使ひ盡して經濟的制慾を全然行はないのである。一生産要素として利子によつて報償されるものは制慾に非ずして寧ろ待望であるとの論究はマクゼイン Macvein, Harvard Journal of Economics, July 1887 によつて試みられた。

蓄積の『需要價格』とは、即ち周圍の事情が人をして作業により又將來のための待望によつて收めるを得せしめる未來快樂であるが、この需要價格は多くの形態を取る。併しその實體は常に同一である。一農夫が風雨に堪へる農舎を建築した場合には、農舎建築に彼程勞働を充用しなかつた隣人の家に雪が吹

込むに對し家屋の用益から快樂増量を得る。この快樂増量は彼の作業と欲望とによつて得られた價格である。遠い害惡に對し或は未來欲望の満足のための豫備として賢用された努力の生産性、*Productiveness*は直接満足の衝動的把捉から生ずる生産性よりも大であつて、右の快樂増量は即ちこの生産性増量を表すものである。即ち引退醫師は資本を工場或は鑛山に貸付けその機械の改良を得せしめてその資本から利子を收めるが、右の快樂増量は一切の基本的の點に於てこの利子に似てゐる。そして利子は數字的明確性を持つ形式で言ひ表されてゐるから、吾々は利子をもつてそれ以外の諸形態に於ける富の用益の典型であり又之を表すものと見ていゝのである。

その人の欲望する享樂力は殆んど一切享樂の本源的源泉たる労働によつて直接彼の取得したものであるか、或は交換により相續により合法の營業により或は緻密な形式の投機により掠奪により詐欺によつて他人から取得したものであるが、それは吾々の當面の目的の關する所ではない。今茲で吾々が問題とする唯一の點は次の點である。即ち富の増殖は人が(正當或は不正當に)直接現

在に於て支配力内に持つてゐる快樂の計慮的待望を一般に伴ふこと、及び彼がかく待望せんとする願意は彼が將來を如實に實感し將來のために準備する習性に依存することこれである。

九 報償が高ければ高い程原則として貯蓄率も大である。併し例外がある。

併し吾々は次の叙述を一層精細に見て見やう。その叙述とは即ち人間本性の構成上、一定の現在犠牲によつて確保し得る未來快樂の増大は一般に人々の行ふ現在犠牲量を増大するであらうといふ叙述である。例へば村人が農舎の建築のために森から材木を出さねばならぬと假定する。森が遠ければ遠い程材木搬出の各日作業から得られる未來快適の收穫は小であり、各日作業によつて蓋然的に蓄積される富から生ずる未來利得は小であらう。一定現在犠牲によつて得られる未來快樂の收穫がかく小であることは、人々をして農舎の大きさを増すを妨げしめる傾があり、又恐らく彼等が材木の取得に費す労働量を大體

現在の犠牲か
率が大なる程
ば大なる程
貯蓄は往々
大とならな
あらう

併し常に必ずしもさうではない

に於て減少せしめる傾がある。併しこの原則には例外がないではない。蓋し若し慣習上彼等が一定式の農舎のみに親しんでゐるとすれば、彼等が森から遠ければ遠い程、一日作業の生産物から得る用益が小なれば小なる程、彼等は一層多くの日を作業に投ずるからである。

同様に利率が高ければ、高き程原則はもと大である

同様に若し或る人がその富を自身用ひずして利子を取つて他に貸付けやうと期待するならば、利率が高ければ高い程彼の貯蓄の報償も大である。若し確實な投資の利率が四歩であつて、彼が今百磅に當る享樂を放棄するならば、彼は四磅に當る享樂の年金を期待してゐる。併し利率が三歩ならば、彼は僅かに三磅に當る享樂を期待し得るに過ぎぬ。又利率の低下は一般に限界を低めるであらう。限界とは或る人が自身の資力の若干を貯蓄して確保すべき未來快樂のために現在快樂を放棄しても丁度收支償はぬと思ふ點である。従つて利率の低下は一般に人々をして今の消費を少しく増加せしめ未來享樂のための準備を少からしめる。併しこの原則には例外がないではない。

併しこの原則

ジョサイア・チャイルド卿 Sir Josiah Child は二世紀以上前にかう言つた。即ち

期には例外がある

利率の高い諸國に於ては商人は『多大の富を得れば事業から引退し』利子を取つてその貨幣を貸附ける。『その利得は容易確實多額である。然るに利率の低い諸國に於ては彼等は引續き何代も商人であり自身と國家とを富ましめる』。又多くの人々が、未だ略ぼ生命の最盛時にあり、人間と物とについての彼等の知識が今や能率ある企業指導を得せしめる際に事業から引退するのは、當時に於ける如く今も眞である。更にサーガント *Sargent* の指摘した通り、若し或る人が自身の老後のため或は死後の妻子のために年四百磅の保險を附すると假定すれば、現行利率が五歩の場合には彼は僅かに八千磅を貯蓄し或は八千磅の生命保險を附するを要するのみであるが、現行利率が四歩の場合には一萬磅を貯蓄し或は一萬磅の生命保險を附しなければならぬ。

然らば利率の連續的低下が世界の資本年増加高の連續的增加を伴ふことも可能である。併しそれにしても、將來のための一定勞働量待望量によつて得る遠い福利の低下が大體に於て人の將來のための準備を減少する傾あること、或は一層近代的の辭句をもつて言へば、利率低下が富の貯蓄を阻止する傾あるこ

併し例外はあつても利率の低下は然らざる場合は、合に於ける貯蓄よりも少からしめる傾がある

とは真である。蓋し例へ人間の自然資源支配力の増大に伴つて人間が低い利率をもつてしてさへ依然多額の貯蓄を續けるとしても、なほ人間本性が現状を維持する間は恐らく利率が低下する毎に然らざる場合に於けるよりも貯蓄を減ずる人の數が多くなるからである(13)。

(13) なほ第六編第六章をも見よ。さりながら茲に言つておきたいのは、資本増殖が「未來財」の高い評價に依存することは昔の經濟學者によつて過大視された觀があつてボエーム・パーゾルクが論じたやうに過小視されたのでないといふことである。

一〇

暫定的結論

富の蓄積及び利率に對する蓄積の關係を支配する諸原因は經濟科學の多様の部分と幾多の接觸點を持つてをり、ためにこれらの原因の研究は吾々の探求の一部分には容易に一括し得ない。又本編に於て吾々は主として供給側を取扱つてゐるのではあるが、資本需要と資本供給との一般關係の若干を茲に暫定的に指示しておくのが必要であるやうに思はれた。そして吾々は次の點を明

かにした—

富の蓄積は非常に多様の原因によつて支配される。慣習により克己及び將來を實感する習性により、分けても家族的愛情の力に支配される。保障はその一必要條件であり、知識と知性との進歩は多くの點に於て之を助成する。

資本に對して提供される利子の率即ち貯蓄の需要價格の騰貴は貯蓄額を増大せしめる傾がある。蓋し自身或は家族のために或る確定額の所得を確保しやうと決した人々の中には、利率の高い時にその低い時よりも少く貯蓄する人々も少數はあるが、この事實あるにも拘らず、利率の上昇が貯蓄願望を増大し又往々貯蓄力をも増加し、或は寧ろ往々吾々の生産的資源の能率増進の指示者であることは略ぼ普遍的原則だからである。併し昔の經濟學者が貸銀を犠牲とする利子(或は利潤)の騰貴は常に貯蓄力を増大すると暗示したのは餘りに言ひ過ぎた。彼等は國民的視點から見れば、勞働者の兒童の内への富の投下が馬匹或は機械の内への富の投下と同様に生産的なるを忘れたのである。さりながら記憶せねばならぬのは、富の年投下高は既存の富保有高の一小部

運輸の改善、新國の開發その他の諸原因は、土地の中で農業に用ひられる部分の名目價値を低下せしめた。又これらの原因は貨物をもつて言ひ表す貨幣購買力を英蘭に於けるよりも相對的に高めた。十九世紀初頭に於ては佛國獨逸に於ける二十五法は英蘭に於ける一磅よりも多くの物、殊に労働階級の必要する物を一層多く購買したであらう。併し今はこの利益は反對となつた。之が原因となつて佛獨の近時の富の増殖は、英蘭の富の増殖に比し實質上然るよりも相對的に大なるかの觀を呈するに至つたのである。

この種の事實を考慮し、又利率の低下が所得の資本還元に當つて年買の年數を長からしめ従つて一定所得を生ずる財産の價値を増大する事實を考慮すれば、吾々は國民富の評定はその基礎をなす所得統計の精確な場合に於てさへ甚だ誤解に導き易いことを知るのである。併しなほかゝる評定も全然無價値ではない。

ギッフェン卿の『資本増殖』 Sir R. Giffen, Growth of Capital 及びキオザ・マネー氏の『富と貧乏』 Chiozza Money, Riches and Poverty は左表の數字の多くについて暗示多い論究を載せてゐる。

國 及 び 評 定 者	土 地 家 屋 其 他 農 場 資 本 其 他 の 富 全 部 富 一 人 當 り の 富
	百 萬 磅 百 萬 磅 百 萬 磅 百 萬 磅 百 萬 磅 百 萬 磅 百 萬 磅

一六七九年 (Petty).....	一四四	三〇	三六	四〇	二五〇	四二
一六九〇年 (Gregory King).....	一八〇	四五	二五	七〇	三三〇	五八
一八一二年 (Colquhoun).....	七五〇	三〇〇	一四三	六五三	一八四六	一八〇
一八八五年 (Giffen).....	一,三三三	一,七〇〇	三八二	三〇二二	六四二七	三二五
英 王 國						
一八一二年 (Colquhoun).....	一,一〇〇	四〇〇	二三八	九〇八	二,七三六	一六〇
一八五五年 (Ealleston).....	一,七〇〇	五五〇	四七二	一,〇四八	三,七六〇	一三〇
一八六五年 (Giffen).....	一,八六四	一,〇三一	六二〇	二,五九八	六,一三三	二〇〇
一八七五年	二,〇〇七	一,四二〇	六六八	四,四五三	八,五四八	二六〇
一八八五年	一,六九一	一,九二七	五三二	五,八九七	一〇,〇三七	二七〇
一九〇五年 (Money).....	九六六	二,八二七	二八五	七,三三六	一一,四一三	二六五
北 米 合 衆 國						
一八八〇年 (國勢調査).....	二,〇四〇	二,〇〇〇	四八〇	四,二〇八	八,七二八	一七五
一八九〇年	一三,二〇〇	二〇八
一九〇〇年	一八,八六〇	二四七
佛 蘭 西						
一八九二年 (Le Foville).....	三,〇〇〇	一,七〇〇	四〇〇	四,〇〇〇	九,四〇〇	二四七
伊 太 利						

一八八四年 (Pantaleoni).....

一六〇

三六〇

一九一〇

六五

併しこれらの数字の不一致は一切のかる評定の多大の不確實性を示してゐる。マネー氏の土地即ち農耕地と附屬農場建築物との評定は恐らく餘りに低い。ギッフェン卿は公共財産の價値を五〇〇百萬磅と評定し、國內に保有される公債を省略した。私有財産の項目の下に貸方に記入されると同じ高が公共財産の項目の下に借方に記入されて公債の記帳は相互相殺するといふ根據に基くのである。併しマネー氏は公共道路公園公共建築物・橋梁・下水・點燈水道電車その他の總價値を一、六五〇百萬磅と計上し、之から公債一、二〇〇百萬磅を差引いて残り四五〇百萬磅を公共財産の純價値とし、かくて氏は國內保有公債を私有財産の項下に計算し得た。氏は英王國內に保有される外國取引所證券その他の外國財産を一、八二一百萬磅と評定する。これらの富の評定は主に所得の評定を基礎とするものであつて、所得統計についてはボーリー氏の著書 Bowley, *National Progress since 1882* 及び論文 *The Economic Journal*, Sept. 1904 の有益な分析に注意を向けられた。

ギッフェン卿は一九〇三年の英帝國の富を左の如く評定した (*Statistical Journal*, Vol. 66, p. 524)。

英 王 國

一五〇〇〇百萬磅

加 奈 陀	一、三五〇
オーストラレーシア	一、一〇〇
印 度	三、〇〇〇
南 阿	六〇〇
その以外の帝國領土	一、二〇〇

英蘭の各部分の相對富の變化史の試みはローチアリス Rogers が數縣の課稅額算定から演繹して之を行つた。ダヴネル子爵の名著『財産經濟史』 *Le Vicomte d'Avonell, L' Histoire Economique de la Propriété, &c. 1200-1800* には佛國に關する豊富な資料がある。佛國その他の諸國民の富の増殖の比較はルヴッスール Levasseur ルロア・ボーリウ Leroy Beauhien ネイマーク Neymarck 及びド・フォギーエ de Foville によつて行はれた。

クラモンド Cramond 氏は一九一九年三月銀行集會所の講演に於て、英王國の國民富を二四、〇〇〇百萬磅、國民所得を三、六〇〇百萬磅と評定した。氏は英王國の外國投資の純價値は一、六〇〇百萬磅に減じたと算定した。英王國は近時一、六〇〇百萬磅に達する證券を賣り拂ひ一、四〇〇百萬磅を借入れた。計算表の上では英王國は二、六〇〇百萬磅の額だけ債權者であるかに見える。併しこの額の大部分は十分に保障されたものとして計上し得ないのである。

第八章 産業組織

一 組織は能率を増進するとの學説は古いが、アダム・ミスは之に新生命を與へた。經濟學者と生物學者とは生殘競争が組織に及ぼす影響を共に檢し來つた。その最殘忍の特徴は遺傳によつて緩和される。

組織は能率を増進する
古の學説は

プラトール以來社會科學上の著述家は好んで勞働が組織から收める能率増進を説いて來た。併しこの場合に於ても他の場合に於けると同じく、アダム・ミスは一舊學説に新しい一層の意義を與へた。それは彼が之を説明するに當つての哲學的透徹により之を例證するに當つての實際的知識による。彼は先づ分業の利益を主張し、この利益が如何に増加人口をして有限の領土上に快適生活營むを可能ならしめるかを指摘する。そして論ずるには、人口が生活資料

生物學者と經濟學者と
は生殘競争に及ぼす影響を
研究し來つた

に加へる壓迫は組織の缺如によるか或は何等かその以外の原因によつて生活場所の利益を最も有利に利用し得ぬ人種を滅亡せしめる傾がある。

アダム・ミスの書が未だ多數讀者を持たなかつた前、既に生物學者は高等動物と下等動物とを分つ組織上の相違の實質的本質を理解することに向つて大進歩を始めつゝあつた。それから二代を経ぬ内にマルサスの人間生存競争史論はダーウインをして動植物世界に於ける生存競争の結果に關する攻究に向はしめ、この攻究によつて彼は生存競争が不斷に營む淘汰作用を發見するに至つた。その時以來生物學は自己の負債を返却して餘りがあり、反つて經濟學者が幾多の深遠な類同性に負ふ所あるに至つた。この類同性は一方に於て社會組織殊に産業組織と他方に於て高等動物の肉體組織との間に發見されたものである。元より少數の場合には外見的類同性が仔細な研究によつて消滅したこともある。併し一見して最も空想的に見えた諸類同性の中には、漸次他の類同性に補はれ遂に物理世界と精神世界との自然の諸法則の間に於ける作用上の基本的統一性をよく例證する迄に確證されるに至つたものも多い。この中

心的統一性を示すものは次の一般原則である。即ち有機體——社會的有機體たると自然的有機體たるとを問はぬ——の發達は、一面に於てその各部分間の機能細分を増加せしめ他面に於てその各部分間の密接な關係を増加せしめるとの一般原則であつて、この原則には左程多くの例外は存しない(1)。各部分の自足の程度は愈々減じ、その福祉のために他の諸部分に依頼する程度は愈々増加し、ために高度に發達した有機體の何れかの部分の何等かの秩序壞亂は他の諸部分にも關係を及ぼすであらう。

(1) ヘッケルの名論文 Häckel, Arbeitstheilung in Menschen- und Thierleben 及び シェンフェル—Schwefle, Bau und Leben des sozialen Körpers を見よ。

分化と集化

この機能細分の増進即ち所謂『分化』differentiation は産業については分業、特化熟練・知識機械の發達の如き形式に於て現れる。之に對して『集化』integration 即ち産業有機體の各部分間の關係の親密性・堅固性の増進は、商業信用の安全の増進、及び海路道路により鐵道・電信により郵便・印刷機による交通手段・交通習性の増進の如き形式に於て現れる。

吾々が右に用ひた辭句の意味に於て最高度に發達した有機體は即ち生存競争に於て恐らく最も生殘するものであるが、この學説はそれ自體發展の過程にあるものである。この學説はその生物學上の關係或はその經濟學上の關係の何れに於ても未だ完全に考へ盡されてはゐない。併し吾々は進んで、生存競争は自己の環境から福利を引出すに最適者たる有機體を増殖せしめるとの法則の經濟學上に於ける主要な意義を考察したい。

該法則は細心に解釋するを要する。蓋し一物がその環境に福利を與へるとの事實はそれ自體に於ては、物理世界或は精神世界の何れに於ても、その物の生殘を保障せぬからである。『最適者生殘』の法則は、自己の目的のために自己の環境を利用するに最適者たる有機體を生殘せしめる傾があると言ふ。環境を最も利用する有機體は往々自己の周圍にある有機體に最も福利を與へるものである。併し時にはそれらの有機體は有害である。

反對に生殘競争は多大の福利を與ふべき有機體を存在せしめぬことがある。經濟世界に於ては何等かの産業施設に對する需要は、その需要が該施設に對す

生殘競争の
法則は細心
に解釋する
を要する

る單なる一願望或は一必要たる以上に何物かでない限り、必ずしも供給を喚起するものではない。その需要は一實効需要でなければならぬ。即ちそれは之が供給者に十分の對價或は何等か他の福利の提供によつて實効を持たねばならぬ(2)。被傭者がその作業してゐる工場の經營及び利潤に參與せんとする單なる願望或は怜悯な青年が優良専門教育に對して感ずる必要は、供給は自然に且つ確實に需要に追隨すると言ふ場合に用ふる用語の意味に於ての需要ではない。之は一の冷酷な真理のやうに見える。併しその最残忍な特徴は次の事實によつて緩和される。即ち種屬所屬員が直接報償を貪らずして互に奉仕を致す如き種屬は、單にその時として恐らく最も繁榮するのみならず、彼等の有益な習性を相續する多數子孫をも亦た恐らく最も多く養ふものであるとの事實である。

(2) 之と同種類の他の一切學說と同様右は次の事實に照して解釋するを要する。即ち一購入者の實効需要は彼の欲望に依存すると共に彼の資力に依存するとの事實である。一富者に於ける一小欲望は世界の企業施設を制御する上に於て往々一貧民の一大欲望よりも一層の實効力を持つことがある。

該法則の最
殘忍の特
は遺傳的
は遺傳的
該法則の
殘忍の特
は遺傳的
は遺傳的

二

兩親の保護
が種の生
及ぼす影
響に及ぶ

植物世界に於てさへ、自己の種子の利害を顧みぬ植物の種は成長が如何に旺盛であつても、やがて地球上から死滅し去るであらう。動物王國に於ては家族的種屬的義務の標準は往々高い。食肉獸の中には吾々が残忍の典型と言ひ慣らしてをり、凶暴に環境を利用しその代償として環境のために何事をも爲さぬものがあるが、これらの食肉獸もなほ個體としてはその子孫の福利のために努力することを欲せねばならぬ。家族の狭い利害を出で、種屬の利害に至れば、蜜蜂蟻の如き所謂社會的動物の間に於ては、個體が直接利得を要求せずして社會のために多様の奉仕を盡す點に於て最も精力的な種屬が生殘するのを知るのである。

併し理性と言語とを賦與された人類となると、氏族的義務の念が氏族を強固ならしめる影響は一層多様な形式を取る。粗野な人間生活階段に於ては、個人が他人のために致す奉仕の多くが殆んど蜜蜂蟻の奉仕と同様遺傳的習性と非

人間の場
合に自己
の種屬
に於て
は計慮
の必要
な計慮
の必要
な計慮
の必要

條理な衝動によつて起るのは眞である。併し計慮的な従つて道徳的な自己犠牲はやがて現れて来る。それは豫言者僧侶立法者の遠大な指導によつて養成され、寓話・傳説によつて教へ込まれる。非條理な同情は下等動物の間に芽を發して、漸次その範圍を擴大し、行爲の一基礎として計慮的に採用されるやうになる。氏族的愛情は狼の群或は山賊團の間に行はれる程度以上に殆んど出てゐない水準から出發し、漸次高貴な奉公心に發達し、宗教的理想は向上し純化する。これらの素質を最高度に發達せしめてゐる人種は、他の事情等しい限り、必ず戦争に於て又饑饉疾病との争闘に於て、他人種よりも強く、終極に於て優勢となるに相違ない。即ち生存競争は個人が周圍の人々の福利のために一身を犠牲とするを最も欲する如き人種、その結果共同的に環境を利用するに最も適應せる人種を結局に於て生殘せしめるのである。

さりながら不幸、一人種をして他人種よりも優勢ならしめる素質が必ずしも悉く全體としての人類に福利を與へるものではない。好戰的習性は往々半野蠻人種をして凡ゆる平和的美徳の上に於ての優秀人種を屈從せしめるが、この

併し善惡と
善利とは混
在する

事實を非常に重視するのは疑もなく不當であらう。蓋しかゝる征服は漸次世界の肉體的生活力と偉業を成す力量とを増し、終極に於て恐らく危害以上の善利があつたからである。併し一人種はそれが他人種の中央に或は表面に繁榮するとの單なる事實によつて世界に存在する資格を得來るものではないのであつて、この叙述には右の如き限定は少しも存せぬ。蓋し生物學及び社會科學は共に、一人種の上に榮える寄生體が時に意外の點に於て該人種に福利を與へることを示してゐるとは言へ、なほ多くの場合に於てこれらの寄生體は何等優良な對價を與へずして該種族の特異性を自身の目的のために利用するものだからである。東部歐洲及び亞細亞に於ては猶太系及びアルメニア系の貨幣取引商の奉仕に對する經濟的需要があり、或はカリフォルニアに於ては支那勞働に對する經濟的需要があるが、この事實はそれ自體に於てはかゝる事態が全體としての人間生活の品質を向上せしめることを證明するものでもなく、又かく信ずる非常に有力な根據ともならないのである。蓋し全く自己の資力に依頼する人種は最重要の社會的美徳を相應に具備しない限り殆んど繁榮し得ないに

殊に寄生人
種に於て然

ものである。かゝる諸例は主として軍事的勝利によつて進歩した諸國民の間に於て、辛棒強い産業に對し抑壓的態度を採り之を輕蔑する傾向に見出される。又更に諸商業國民の間に於て富を偏重し之を衒示の目的に用ふる傾向に見出される。併しその最も著しい例は組織に關する事項に見出される。世襲階級制度には大缺點——その主たるものはその峻嚴性と社會の利害のため或は寧ろ社會の特殊急迫事情のために個人を犠牲とすることゝであつた——があつたにも拘らず、該制度の果すべかりし特殊任務に良く順應してゐたために隆昌し得たのである。

中間階段を飛び越して直ちに西洋の近代的組織となれば、吾々はこの組織が世襲階級制度と著しい對照を示すと共にそれに劣らぬ著しい類似點を持つつてを知る。一方に於て、峻嚴性に代つて變通性があり、當時固定的に定まつてゐた産業方法は今日は目眩しい速さをもつて變化する。階級間の社會關係及び自階級内に於ける個人の地位は、當時は傳統的規準によつて嚴然と固定してゐたが、今日は完全に可變的であり變化し行く時の事情に伴つてその形式を變ずる

近代西洋各種に於ける階級間關係も同様に同じくである。

に至つた。併し他方に於て物質富の生産に關して個人が社會の急迫事情のため犠牲となることは、或る點に於て隔世遺傳の一場合なるが如く、世襲階級制度が行はれてゐた遠い昔の普通の状態に祖先返りしたとも見える。蓋し各種産業層の間、及び同一層内の個人の間、分業は甚だ徹底的且つ非妥協的であつて、ために生産者は自身の作業が物質富の總體生産に加へる増加部分を増大せしめんとして反つて彼の實質的利益が時に犠牲に供せられる危険にあるからである。

四 アダム・スミスは注意深かつたが、彼の追隨者の多くは自然的組織の經濟を誇張した。使用による才幹の發達、早期教育又恐らくその他の途によるこれら才幹の傳承。

アダム・スミスは彼の穩健な追隨者の一部

アダム・スミスは一面に彼の時代に未曾有の速度をもつて發展しつゝあつた微細な分業と微妙な産業組織との一般利益を主張しつゝもなほ細心であつて、

該制度の失敗した多くの點と該制度に伴ふ幾多の附帶的弊害とを指示した(3)。併し彼の追隨者の多くは哲學的識見も劣り又或る場合には世界についての眞實の知識も劣つてゐたため、在るもの即ち悉く正しいと大膽に論じた。例へば彼等は、若し或る人が企業經營の才を有するならば彼は必ずその才を人類の福利のために用ふるやうに導かれて行くと論じた。又同時に他の人々も同様に自己の利益を追求し、之に導かれて彼が最も良く利用し得る如き資本を彼に使用せしめるために準備すると論じた。又彼自身の利益は彼を導いて、その雇傭する人々を巧に配置せしめ各々その能ふ限りの最高作業を營ましめその以外を營ましめぬやうにすると論じた。又この利益は彼を導いて、彼の掌中に於て世界の欲望充足資料の供給に向つて費用等價以上を寄與し得る一切の機械その他の生産補助を購入せしめ使用せしめると論じた。

(3) 上記第一編第四章八及び下記第二附録三六を見よ。

右自然的組織の學説は、十分な研究を行はずして重大な社會問題を討論する人々の理解を脱する諸學説の一であるが、この學説は殆んどその以外の何れよ

りも人道にとつて最高重要性を持つ眞理を多く含んでをり、眞剣な思慮深い精神者にとつて異様の魅力を持つものである。併し之が誇張は甚だ有害であつた。殊に最も好んでこの學説に没頭した人々に對してさうであつた。蓋し彼等の周圍に進行しつゝあつた變化の中の善利には害惡が混在してゐたが、右の學説は彼等がこの害惡を探出し除去することを妨げたからである。右の學説は彼等が次の點を攻究することを妨げた。即ち恰かも世襲階級制度がその當時として効果を持つたと同様、近代産業の廣汎な特徴さへもその多くは過渡的のものであつて、その時としては實に効果を持つてゐるが、世襲階級制度と同様主として一層幸福な時代の一層優れた施設に向ふ途へ導くに役立つものではないかといふ點である。又右の説は誇大な反動を招致して危害を及ぼした。

五

且つ又この學説は器官が使用されることによつて強固となる状態を少しも考慮しなかつた。ハーバート・スペンサーは非常に力を入れて次の原則を主張

彼等は才幹を最も良く發達せしめ得る條件に

注意を拂ふ
ことが餘り
に少かつた

した。即ち若し何等かの肉體的或は心性的習練が快樂を與へ従つて頻繁に行はれるならばその習練に於て用ひられる肉體的或は心性的器官は恐らく迅速に成長するとの原則である。元より下等動物の間に於てはこの原則の作用は最適者生殘の原則の作用と密に織り交されてゐて、兩者の區別は往々力説する要がない程である。蓋し生殘競争は動物が彼等の福祉に寄與せぬ機能の習練を多大の快樂とすることを妨げる傾があるからである。この點は先天的に推測していゝのであつて、又觀察によつて證明されたとも見えるのである。

併し人間は強い個性を具備するものであつて、一層の自由を持つ。彼はその才幹をそれ自體のために使用することを悦ぶ。時には之を高貴に用ひる。それは或は偉大な希臘的生命開花の奔放さをもつてすると、或は計慮的な着實な重要目的達成努力の制御の下に於けるとを問はぬ。時には下劣に之を用ひる。飲酒の嗜好が病的に發達する場合の如きである。産業の進歩は宗教的・徳性的・知性的・藝術的才幹に依存するものであつて、これらの才幹は才幹によつて得らるべき物のためにのみ習得されるのではない。それは才幹自體が齎す快樂・幸

福のための習練によつて發達するのである。同様に經濟的繁榮の一大因素たる秩序ある國家組織は、無限に多様な動機の産物であり、それらの動機の多くは國民富の追求と少しも直接關聯を持つてゐないのである(4)。

(4) 人間は多くの動機を持つ。彼は計慮的に一特異性の發達を助成しやうと努めることある如く、等しく他の一特異性の發達を防止しやうと努めることがある。中世に於て進歩が遅かつたのは一には計慮的に學藝を嫌厭したのによるのである。

兩親がその存命中に後得した肉體的特異性は子孫に傳はること——例へありとしても——極く稀であるのは疑もなく眞である。併し肉體的・徳性的に健全な生活を送つた者の兒童は、その同じ兩親が不健全な影響の下に成長しその影響によつて精神と肉體との強靱性を弱めてゐる場合に比して一層剛健な強靱性を持つて生れては來ぬであらうとの斷言には、結論的斷定は與へられてゐない。そして前の場合には後の場合に比して、兒童が生後恐らく營養良好であり、訓練も良好であり、一層健全な本能を得、又人類進歩の主動力たる他尊心と自尊心とを一層多く持つべきは確かである(5)。

(5) 數學附錄註解一一を見よ。この種の考察は鼯鼠のやうな單なる動物の發達には殆んど適用がない。又豌豆その他の植物の發達には全然適用がない。従つてかゝる場合の遺傳に關して—兎も角暫定的に—立證された驚くべき算術的結果は、社會科學研究者が取扱ふ遺傳の全幅の諸問題には殆んど全く何の交渉もない。又この題目についてのメンデル派の大家の若干否定的言辭は慎重を缺くやうである。この題目についての卓見は Prof. Pignon, Wealth and Welfare, Part I, ch. IV にある。

然らば次の點を丹念に探求するを要する。即ち下級産業等級が潜在的の心的才幹を用ひ、之を用ふることから快樂を得、又之を用ふることによつて之を強固ならしめる機會を増加するやうに現在産業組織を變形するのが利益ではないかといふ點である。何故かと言へば、若しかゝる變化に福利があるとすればその變化は既に生殘競争によつて行はれてゐたゞらうといふ議論は妥當せぬものとして排せねばならぬからである。人間の特權は將來を測知し次の一步への途を準備することによつて自然的發展の上に限りある—併し—實效ある調節力に及んで行くのである。

産業構造の
即ち思想と作業とにより、低級の血筋よりせずして寧ろ高級の血筋よりする

變革は人間
の發達を待
たねばなら
ずつて漸ら
ず的なるか
然らずんば
不安定なる
ざるを得な
い

人種補充に優生學の諸原理を應用するにより、又兩性の才幹の適切な教育によつて、進歩は促進されることがある。併し如何に促進されてもそれは漸進的であり相對的に緩慢でなければならぬ。それは技術及び自然力に對する人間の支配力の増大に比して相對的に緩慢でなければならぬ。この支配力は勇氣と細心、智略と着實、深い眼識と視野の廣大とを愈々要求して已まない。又新しい基礎の上に急激な社會組織の改造を行はんとする諸提案の急速な潮流と歩調を共にするには甚だしきに過ぎる程緩慢でなければならぬ。事實に於て吾々の新たな自然支配力は一面に極く近時迄物理上可能であつたよりも遙かに大なる産業組織計畫に門戸を開くと共に、社會的産業的構造の新發展の提案者の上に一層の責任を課するのである。蓋し制度は急激に變化されるかも知れぬが、なほその制度が持久すべきものならばそれは人間に適切なるものでなければならぬからである。若し制度が人間よりも甚だしく急速に變化するならば、制度はその安定性を保持し得ない。即ち進歩そのものが經濟世界に於ては『自然は飛躍せぬ』との警戒の切要さを大ならしめるのである(6)。

(6) 第一附錄一六參照。

進歩は緩慢でなければならぬ。併し單に物質的視點から見てさへ次の點を記憶すべきである。即ち生産の直接能率を極く僅かしか増加せぬ變化も、若し富の生産上に於て一層有效であり富の分配に於て一層平等な産業組織に人類を用意せしめ適せしめる變化ならば、その變化を行ふ價あること、及び下級産業等級の高級才幹を空費せしめる儘に放任する制度システムには總て重大な疑惑の餘地があることこれである。

第九章 産業組織 續論 分業 機械の影響

一 習練は完成を作る。

能率ある産業組織の第一の條件はその組織が各被傭者をその能力と教育とに従つて適所に作業せしめ、彼に最良の機械その他の作業要具を備へてやることである。分業にも、一方に於て生産細目を實行する者と、他方に於て生産一般施設を經營し生産危険を負擔する者との間の作業配分もあるが、之は今暫く別にして、吾々は種々の職工階級の間^に於ける分業のみを取扱ひ、之を殊に機械の影響に關聯して取扱ふ。次章に入つて吾々は、分業と産業地方化との相互結果を考察するであらう。更に第三の章に入つて吾々は、單獨の個人或は店の掌中への大資本の集積即ち通常言ふ大規模生産を説き、分業の利益が如何程迄之に依存するかを探究するであらう。最後に吾々は企業經營作業特化の發達を検するであらう。

本章及び以下三章の道程を以て

習練は完成
を作る

生理學的説
明

『習練は完成を作り』最初困難なやうに見えた動作も暫く経てば前よりも比較的少い努力を費しつゝ遙かに良く營み得る。之は何人にも親しい事實であり、生理學は或る程度迄この事實を説明する。蓋し生理學はこの變化が多少とも『反射的』な即ち自動的な行爲を行ふ新習性の漸時的發達に基くことを信する理由を與へるからである。睡眠中の呼吸の如き完全な反射行爲は局部神經中樞の司る所であつて、大脳中にありと推定されてゐる思考力の最高中央機關に何等の關係もない。併し一切の計慮的運動はこの主要中央機關の注意を要する。中央機關は神經中樞即ち局部機關から又恐らく或る場合には直接に感覺神經から情報を受け、局部機關に對し又或る場合には直接に筋肉神經に向つて詳細・複雑な指令を返達し、かくて彼等の行爲を協同せしめ所求の結果を實現する(1)。

(1) 例へば或る人が初めてスケートを試みるときは、彼は自分の平均を保つために全注意を注がねばならず、彼の大脳は一々の運動の上に直接支配を行はねばならず、彼は他方面に外らすべき心性的精力を餘り持たない。併し久しく練習した後には、行爲は半自動的となり、局部神經中樞は筋肉調節上殆んど一切の任務を盡し、大脳は解

放され、その人は頭の中で別な事を考へ続けるを得、彼は通路の障害物を避けるため或は微かな凹凸によつて平均を亂した場合に平均を回復するために方向を變へても、考の筋道を少しも亂さずにゐることが出来るやうになる。恰かも大脳中に在る思考力の直接指揮の下に神經力の運用が、漸次神經と神經中樞との間に一類の結合關係を築き上げ、恐らく明白な生理的變化をも伴ふ如くに見える。これらの新結合關係は神經力の一種の資本と見てもよからう。そこには恐らく局部神經中樞の組織立つた官僚政治に似た所がある。骨髓・脊柱中樞・神經・大神經節は一般に縣廳の役目を勤め、暫くの後には最高官廳を煩す迄もなく郡・村役場を治め得るやうになる。恐らく彼等は最高官廳に向つて政務の進行を通達するが、若し何等重大案件が生ぜぬならば、これらの通達は殆んど顧みられない。さりながら例へば背進江りを稽古する如く一新技を習ふ場合には差當り全思考力を必要するであらう。又普通スケートの際に神經と神經中樞との特殊スケート組織が築き上げられてゐるから、この思考力は今やこの組織の助けによつてこの助けなくしては全然不可能な事も行ひ得るであらう。

もつと高級な例を取れば、一美術家が氣乗りして畫を書いてゐる場合には、彼の大脳は全く彼の勞作で一杯になつてをり、彼の全心性力は勞作に傾倒され、緊張は餘りに大であつてこの緊張を続け様に長く持続し得ない。僅か數時間の幸福な靈感の内に彼は來るべき世代の人々の性格に著しい變化を及ぼす思想を發することもあ

知識と知性
的能力

る。併し彼の表現力は無数の時間の苦しい勞作によつて得られたものであつて、この勞作の中に彼は漸次目と手との間に密接な結合關係を築き上げ、この結合關係は十分に築かれ、彼は談笑に心を取られて手に鉛筆を持つことを殆んど意識せぬ間に於ても彼が相當に親しんでゐる物を巧みにスケッチし得るのである。

純然たる心性的作業の生理學的基礎は未だ良く理解されてゐない。併し頭腦構造の發達について吾々の僅かに知る所は、何れかの種類の思考の習練は頭腦の各部分間に新結合を發達せしめることを示すやうである。何れにしても、人は少し以前迄は最大の努力によつてさへ非常に不完全にしか取扱ひ得なかつた問題を、習練によつて何等の努力もなく迅速に解き得るのであつて、吾々は事實として之を知つてゐる。商人・法律家・醫師・科學者の精神は漸時知識の蘊蓄を貯へ直覺の才幹を具備するやうになる。之を得るには、多年に亘つて力強い思索家が多少とも狭い部類の問題に最善の努力を不斷に投ずる外に途はない。勿論精神は一日長時間に亘つて一方向に精勵し得ない。精勵な人は彼の業務に屬せぬ作業を時に保養とする。この作業は彼の業務にこそ屬してゐないが、終日之を營すねばならぬ者にとつては十分疲勞を與へるものなのである。

活動の變換
は往々保養
の一形式

元より若干社會改良家の主張し來つた所によれば、最重要の頭腦作業を行ふ者は相應の手工作業をも行つていゝのであつて、之によつて知識習得力或は難問題思索力を殺滅することはない。併し經驗の示す所によると、過勞の最良救濟策は、瞬間の氣分に應じて始め氣分が變れば止めて了ふ日課即ち通俗的本能が『氣晴し』と分類してゐるものを爲すにあるやうである。何れの日課でも、業務的となつて之を續ける時に意思の努力によつて自身を強ひねばならぬ程の日課は、神經力を要して完全な『氣晴し』とはならぬ。従つてその日課の價値が本作業に與へる大損傷を補つて餘りある程でない限り、この日課は社會共同體の視點から見て經濟的ではないのである(2)。

(2) ゼー・エ・ス・ミルはその印度局在任が哲學的探究の追求を妨げなかつたと迄主張した。併し彼が最も清新な力をかく他方向に外らせたことは彼の最善の思想の質を恐らく彼が自覺する以上に低めたやうである。又之は彼自身の世代に於ける彼の大功業を殆んど減じなかつたにしても、將來の世代の思想の進路に影響するやうな種類の業績を營む力を恐らく非常に減じたのである。ダーウインが恰かもこの種の業績をあれ迄に多く營み得たのは、彼が僅かな肉體的強力性の一々の原子をも

節用したのによるのである。一社會改良家がダーウインの餘暇の時間を搾取して社會共同體のために有益な事業を爲さしめることに成功したとしたらば、この社會改良家は重大な誤算をやつたであらう。

二 下級作業に於ては極端な特化は能率を増進するが、高級作業に於ては常に必ずしもさうでない。

最高作業部門に於ては如何程迄特化を行ふべきかは未解決の難問題である。科學上に於ては、青年時代に研究範圍を廣くし年を取るに従つて漸次之を狭めて行くのを健全な原則とするやうである。醫學者甲は常に注意を一種の病氣にのみ傾注して來たとし、醫學者乙は先づ廣い經驗によつてこれらの病氣を一般健康に係せしめて考へることを學び漸次彼の研究をこれらの病氣に集中して多大の特殊經驗と微妙な本能との豊かな蘊蓄を貯へたとすれば、甲は彼の部門の題目についてさへ恐らく後者程の賢明な助言を與へないことがある。併し單なる手工熟練を多く要する職業に於ては分業を通じて能率を著しく増進せしめ得るは疑ない所である。

高級作業に於ては極端な特化は常に必ずしも能率を増進せぬ

併し狭い範圍に於ては熟練の度によりて手工熟練の容易は習得し易い

アダム・スミスの指摘した所によると、全生涯を通じて釘の外何物をも作らぬ少年は、たゞ時々釘を作る一流鍛冶工の二倍の速さをもつて釘を作り得る。精密に同一形態の物を用ひて毎日精密に同類の工作を行はねばならぬ者は、漸次彼の指を所要の通り精密に動かすことを學ぶ。之を動かすのは殆んど自動的行爲によるのであり、その速力も一々の運動が意思の計慮的訓示を待たねばならぬ場合に可能なよりも大である。卑近な一例は綿絲工場に於て少年が行ふ糸結びに見られる。更に職工は衣料工場或は製靴工場に於て毎時毎日全く同じ大さの革片又は布片の全然同じ縫目を手によるか或は機械によつて縫ひ着けてゐるとし、他の一労働者は彼以上に遙かに敏速な目と手とを持ち遙かに高級な一般熟練を持つて、一着の服或は一足の靴全體を作ること慣れてゐるとすれば、前者は後者よりも遙かに少い努力をもつて遙かに速かに作業し得るのである(3)。

(3) 最上等最高價の衣服は高給の高度熟練裁縫師によつて作られ、各裁縫師は先づ一着の衣裳を仕立て終つて後に次の衣裳に移る。之に反し最安價最下等の衣服は餅

死賃銀を受ける不熟練女子によつて作られ、彼等は布地を自宅に持歸つて自身全部を縫上げる。併し中等の品質の衣服は工場或は工場に於て作られ、そこには人員の許す限りの分業・細分業が行はれる。この方法は上等品・下等品にも迅速に廣まつて行き、之に對立する前の方法を壓倒しつゝある。ローダーデル卿 Lord Laur'erdale (Inquiry, p. 282) はゼノフォーン Xenophon の所論を引用してゐる。それによると甲は男靴を作り乙は女靴を作るといふ場合のやうに、各人が單純な一局部に仕事を限るときは最善の作業が營まれる。或は甲は單に靴或は衣裳を縫ふだけ乙は之を裁つだけといふ場合には更にいふ。王室の料理は他の何人の料理よりも遙かによい。何となれば肉を煮るだけのもの、炙くだけの者、魚を煮るだけの者、フライにするだけの者を皆別々に使つてをり、一人の人間が一切種類のパンを作るといふこともなく特殊の品質に一々特殊の人間が置いてあるからである。

更に木材産業及び金屬産業に於ても若し或る人が同一材料片を用ひて繰返し繰返し精密に同一工作を營まねばならぬとすれば、彼はその片を精密に所要の状態に扼む習性を得、道具その他取扱ふべき物を適宜の位置に配置して工作に便にし、時間と彼自身の身體の運動の力との損失を能ふ限り最小ならしめる習性を得る。道具その他の物を常に同一位置に置き同一の順序に手に取るこ

木材産業金屬
業に於ける
幾多の過程
の一律性

とに慣れて、彼の兩手は殆んど自動的に互に調和して作業し習練を積むに従つて彼の神經力の支出は筋肉力の支出よりも迅速に減少して行くことさへあるのである。

手工労働と
機械との領
域

併し行爲がかくの如く劃一作業に化する場合には、この行爲は機械が取去り得る階段に略ぼ達してゐるのである。この場合克服すべき主要困難は、機械をして材料を堅く扼ましめ、之を扼む位置も丁度工作機が正しく材料を工作し得るやうな位置ならしめ、材料を扼むに餘り多くの時間を空費せしめぬやうにする點にある。併し之は、機械に若干の勞働失費を投じて收支償ふ場合には一般に工夫され得るのである。この場合には全工作は往々一人の職工によつて營まれ得る。彼は機械の前に坐り、木片或は金屬片を積上げた中から左手でその一片を取つて孔に當てがひ、右手で取手を押上げ或はその他の方法によつて工作機を運轉せしめ、最後に精密に一定雛形によつて截ち或は切り抜き或は孔を開け、或は削つた材料を左手で投げて別に積上げておく。かくて從來訓練ある機械工の熟練と判斷とを要して來た作業は、機械の改良と増加して已まぬ細分

業の細密性によつて單なる劃一作業に化し終つて、不熟練労働者否その妻子さへもこの作業に用ひられるに至つたのである。近代労働組合の諸報告は之に對する苦情に満ちてゐるが、それは特に以上のやうな諸産業に於てさうなのである。

三 機械が人間生活の品質に及ぼす諸影響は一部は善

利、一部は害悪である。

即ち吾々は一の一般原則に到達した。その原則はその作用の強弱こそ工業部門によつて違ひはするが、一切工業部門に當嵌るのである。その原則とは即ち或る工業的工作を一律作業に化することが出来て、之を同一状態に繰返し繰返して精密に營むやうになれば、この工作は確かに早晚機械に取去られて了ふとの原則である。それには延滞や困難のあることもあるが、若し機械によつて營むべき作業が十分の規模に營まれてゐるならば、この仕事が完成する迄貨幣と發明力とは際限なく費消されるであらう(4)。

分業と機械の關係

(4) 或る大發明家は纖維機械に關する實驗に三十萬磅を投じたといふ評判であり、彼の支出は豊かに歸つて來たと言はれてゐる。彼の諸發明中の或るものは天才者のみによつて作られ得る種類のものであつた。これらは何程必要されてもこの發明をなすべき適任者が出て來る迄待たねばならぬものであつた。彼が梳毛機一臺毎の特許使用料として一千磅を徴したのは不當ではない。又一毛糸製造業者は作業が非常に多かつたので、特許満了前僅か六ヶ月になつても一機械を追加購入し之に對する使用料を追加支拂ひしてなほ收支償つたのである。併しかゝる場合は例外である。原則として特許機械は餘り高價ではない。或る場合には之を全部一ヶ所に纏めて特殊機械によつて生産して多大の經濟を収め得たため、特許權者はこの特許機械によつて驅除された劣等機械の舊價格以下で販賣するを得策としたこともある。蓋しこの舊價格は彼に多大の利潤を與へてをり、ために更に一層價格を安くして新目的のために新市場に機械の使用を盛んならしめて收支償ふからである。殆んど凡ゆる生産業には、機械によつて容易に營み得ると良く分つてゐながら、手によつて營まれてゐる作業が多い。その機械といふのも、既にその生産業或は他の生産業に用ひられてゐるものを少し改良すればいふのであるが、之を行ふ勞費を償ふ機械の仕事が未だ十分でないといふだけの理由によつて行はれてゐないのである。かくの如く機械の改良と細分業の發達との二つの運動は相伴つて進み或る程度迄結びついてゐる。併しこの結び付きは一般に想像されてゐる程密接で

機械は純然たる手工熟練に代り

はない。細分業を來すのは市場の廣大性であり、同種品、場合によつては非常に精確な數量品に對する需要の増加である。機械改良の主要結果は、既に如何にかして細分されてゐる作業を安價にし又一層精確にすることにあり。例へば『ポールトン Boulton 及びワット Watt はソホ Soho に製作所を設立するに當つて實行し得る限りの窮極點迄分業を遂行するを必要とした。當時は未だ機械旋盤・平削機或は穿孔機等今日建造作業の機械的精確性を殆んど當然事たらしめるに至つたものがなかつた。總ては個々の機械工の目と手との精確性に依頼し、而かも當時の機械工は今日よりも遙かに熟練でなかつた。この困難を部分的に克服するためにポールトン及びワットが工夫した途は、職工の作業を特殊の種類に限定して能ふ限りそれに熟達せしめることにあつた。かくて職工は同一工具を取扱つて同一品の製作に永い習練を積み、この習練によつて著しい個人的上達の域に達した』(5)。即ちアダム・スミスの時代に至つてさへ分業の主要利益は純然たる手工的熟練を得ることにあつたが、機械は絶えずかゝる手工的熟練に代つてそれを不要ならしめるのである。併しこの影響の外に、機械

かくて分業の利益を若干減ずるが、その範圍を擴大する

は工業規模を擴大し複雑ならしめ、従つて一切種類の分業殊に企業經營上の分業の機會を増加する傾向があつて、右の影響を補つてなほ餘りあるのである。

(5) Smiles, Boulton and Watt, pp. 170, 1.

四 機械製機械は轉換部分の新時代を招來しつゝある。

機械製機械は轉換部分の新時代を招來しつゝある

機械は人間の手によつて行ふべく餘りに多くの精確性を要する作業を行ふ力を持つが、この力は轉換部分制度 system of Interchangeable Parts の急速に發展しつゝある金屬工業の若干部門に於て恐らく最も良く見られる。手は長い訓練と多大の細心労働とをもつてしなければ、一金屬片を精確に同型に或は相互に合ふやうに作り得ない。そして結局その精確性も完全ではない。併し之こそは即ち優良機械が最も容易に最も完全に爲し得る作業である。例へば若し播種刈入機を手によつて作らねばならぬとすればその最初の費用は莫大であらうし、その何れかの部分が破損した場合には多大の費用を拂つて機械を製造家の所へ送り歸すか或は高度熟練機械工を機械の所へ呼び寄せるかによつて多

大の費用を拂はなければ復舊し得ないであらう。併し實際としては、製造家は右破損部分と同型のを多数用意してをり、この部分は同一機械によつて作られ、従つて右破損部分と轉換せしめ得る。アメリカ北西部の農業家は恐らく優良な機械店から百哩も遠く離れてをりながら、なほ安心して複雑な機械を使用し得る。何故かなれば彼は機械の番號と破損部分の番號とを打電すれば、次の列車で新しい個片の送付を受け自ら之をその箇所に取付け得るを知るからである。この轉換部分の原理の重要性は最近に至つて漸く扼まれたに過ぎない。さりながらこの原理は他の何物よりも力強く機械製機械の使用を凡ゆる生産部門—家庭作業農業作業さへも含めて—に普及せしめる兆候が著しいのである(6)。

(6) この制度はその起源を大部分ジョセフ・ホイットウォース卿 Sir Joseph Whitworth の標準計規に負うてゐるが、米國に於て最大の敢爲心と徹底性をもつて遂行された。複雑な機械・建築物・橋梁その他の組立に要する物については標準化は最も助けになる。

懷中時計製

機械が近代産業の性質に及ぼす影響は懷中時計工業に於て良く例解される。

造の歴史か
らの例解

近年迄この企業的主要中心は佛蘭西系瑞西であつた。そこではその作業の大部分は多少散在的な人口によつて營まれてはゐたが、細分業は著しく行はれてゐた。約五十の時計業部門が明確に分れてゐて、各部門は作業の一小部分を分擔してゐた。これら部門の殆んど總ては高度に特化した手工的熟練を要してゐたが、判断を要することは極めて少かつた。収入は一般に低かつた。何となれば斯業の従事者が少しでも獨占らしいものを持つべく斯業は餘りに永く存續して來てをり、普通の知性を持つ兒童を斯業のために養成するに少しも困難がなかつたからである。併しこの産業は今や米國式懷中時計製造に壓倒されつゝある。米國式は機械によつて時計を製造するものであつて、特化手工熟練を要すること極めて少い。事實に於て機械は年毎に愈々自動化しつゝあつて人間の手を借りること愈々少くなりつゝある。併し機械力が繊細となればなる程、之を操縦する者の判断と細心とを要することも愈々大である。例として美しい一機械を取る。この機械は一端から自ら細鐵線を吸ひ込んで他端へ繊巧な螺旋を吐き出す。この機械は非常に多數の職工に代るのであつて、これら

複雑な機械
は判断と一
般知性と
の増加
し
需
要
を
増
加

の職工は従來實に非常に高級な特化手工熟練を習得してゐたが坐業的生活を生き、顕微鏡によつて視力を緊張せしめ、その作業には單なる手先の器用以外何等の才幹をも用ふる餘地がなくなつてゐたのである。併し機械は緻密・高價であり、之が監視者は知性と熱烈な責任感とを持たねばならぬ。これらの素質は麗しい性格を養ふに大いに役立つものであり、以前よりは普通になりはしたがなほ稀であつて非常に高い報酬率を收め得るものである。疑もなく之は極端な場合であつて、懷中時計工場内に行はれる作業の大部分は遙かに單純である。併しその作業の多くは舊式製法よりも高級な才幹を要し、之が従事者は平均して一層高い賃銀を收める。同時にそれは精確な時計の價格を既に安價ならしめて社會共同體の最貧階級も之を購入し得るに至り、又それは間もなく最高級の種類の作業を完成し得る兆を示してゐる(7)。

(7) この機械は既に完全の域に達してゐる。その完全さは次の事實が示してゐる。一八八五年倫敦に開かれた發明博覽會に於て、一英國時計工場の代表員は舊式製法を用ひてゐる英吉利代表員の面前で五十の時計を分解し、その各部分をそれぞれ積上げ、この中から順次一片を抜き出さしめた。すると彼はこれらの片を組立て、時

計側面に納め完全に出來上つた時計を返してやつた。

又は或る場合
には各種の
業の間の區
劃を弱める

一個の懷中時計の各部分を仕上げ組立てる者は常に高度特化熟練を持たねばならぬが、時計工場の用ふる機械の大部分はその以外の輕金屬工業の用ふる機械と一般性質に於て違はない。事實に於てその多くは一切機械工業に普通な廻轉旋盤と鑿削機・穿孔機・鑽孔機・平削機・成形機・旋刀精削機その他の小數機械の單なる變形に過ぎない。之は次の事實を良く例解するものである。即ち一面に細分業は絶えず増加しつつも名目上明確な各業間の分界線の多くが薄弱となり、之を通過する困難も少くなるといふ事實である。舊時は時計製造業者がその商品の需要減退に苦しんだ場合に、銃砲製造業が餘分の職工を要すると聞いても殆んど慰めとはならなかつたであらう。併し時計工場職工の大多數はその工場を離れて銃砲製造工場或はミシン工場或は纖維機械製造工場に彷徨ひ入れれば、彼等が親しんでゐた機械と非常によく似た機械を見出すであらう。時計工場は従來の作業者の儘で何等重大な損失なくしてミシン工場に轉化し得るであらう。たゞこの場合に殆んど唯一の條件は、新工場に於て何人も従來

慣れてゐた作業以上に高級な一般知性を要する作業に就かしめなさいといふことだけである。

五 印刷業からの例解。

印刷業からの例解

機械改良と生産規模の擴大とが細密な細分業を生ずる有様を示すもう一つの例は印刷業である。何人も親しく知る通り、アメリカの新拓殖地域の新聞を開拓した編輯者は、自分で論説を起草するに従つて活字を組み、一少年の手を借りて紙に刷り之を散在する近隣者に配達する。さりながら印刷の秘密が未だ新しく普及してゐなかつた頃は、印刷業者は總て之を自分で行ひ、なほその上に自身の要具を全部作らねばならなかつた(8)。これらの要具は今日は、別個の『補助』業によつて支給され、奥深い森林地方にある印刷業者さへも所要物品を悉く求め得るのである。併しかくの如く外部からの補助があるにも拘らず、大印刷工場は自工場内に各種階級の労働者を用ふる餘地を見出さねばならぬ。企業を組織し監督する者、事務所作業を爲し貯蔵品を保存する者、『校正刷』の

近代産業に於て微細な加分界線の事例

誤植を訂正する熟練『校正係』、機械技師及び修繕係、鉛板を鑄造する者及び鉛板を補正し組立てる者、倉庫係及び之を補助する少年少女、その他微細な係は言ふ迄もない。この外になほ活字を組上げる植字工と之から印刷する機械工、印刷工との二大部類がある。これら二部類の各々は多數の小部類に分れてゐる。殊に印刷業の大中心地に於てさうである。例へば倫敦に於て一種類の機械を扱ひ慣れた操機工或は一種類の作業に慣れてゐる植字工は、假りに失職しても彼の特化熟練の利益を進んで放棄しやうとはせず、斯業についての一般知識に頼つて他種の機械或は他種の作業に職を求めらう(9)。一業中の微細な細区分間のこれらの分界は、産業特化に向ふ近代的傾向を記述するに當つて往々重大な地位を占めてゐる。之は或る程度迄正しい。何となれば例へこれら分界の多くは微細で、一小區分に於て失職した者はその接續小區分の一に入つて左迄能率を損失せぬとは言へ、なほ彼は彼の舊小區分に於ける就職を暫く求めた後でなければかしくはしないのであり、従つて毎週の小景氣變動に關する限りに於てはこれらの分界も強大な分界と同じ實效を持つからである。併し中

これらの多分界線は、大分困難なく通過し得る

世手工業者は深く且つ廣い區劃によつて部類に分たれてをり、この區劃は手織職人の營業が不振になつた場合に彼等の生涯の苦痛を來したのであるが、之に比すれば右の分界は全然種類を異にしたものである(10)。

(8) 『鑄字工は恐らく印刷所から離れた最初の者である。それから印刷工は印刷機の製作を他に委ね、後インキ・印肉棒も別個の製造家に作られるやうになつた。そして茲に一階級の人々が起つて來た。これらの人々は他の業に屬しながら印刷用品の製作を専門とする人々で、例へば印刷鍛冶工、印刷指物師、印刷機械技師等である』。
(Encyclopaedia Britannica 中のサウスワード氏擔當項目 Southward, Typography)。

(9) 例へばサウスワード氏の言ふ所によると、『操機工には單に書籍印刷機或は單に新聞印刷機の操縦を解するのみな者がある。彼は『平面版印刷機或は輪轉機に』ついて全部を知つてゐることもあり、輪轉機についても一種しか知らぬこともある。全く新しい機械は新しい一技術工階級を作り出す。ウォーター Walker 印刷機を完全に扱ひこなす人であつて二色用機械或は精巧な書籍用機械の扱ひ方を知らぬ者がある。植字部では分業は更に一層微細の程度迄行はれてゐる。舊式の印刷工は貼札であらうと扉頁であらうと書籍であらうと區別なしに植字するであらう。今日では端物工・書籍工・新聞工がある。この「工」handsといふ言葉は印刷企業の本質を暗示する。端物工中には貼札のみに限られた者がある。書籍工には扉を組む者、書籍の

本文を組む者も入つてゐる。これらの内の後者には更に植字する者があり、頁を整頓する「整理工」がある』。

(10) 右の如く機械は或る方向に於て手工勞働に代り又他の方向に於て手工勞働の新雇分野を開くものであるが、この機械の進歩の有様をもつと深く辿つて見やう。それには一大新聞の多大の發行部數が數時間内に組上げられ印刷される過程を見やう。先づ初めの植字の大部分さへも往々機械で行はれるが、如何なる場合にも活字は最初平面版であつて之では大速力をもつて印刷し得ない。そこで第二段になつて紙型を作り之をシリンドラーに巻きつけ、それから之を型として新しい金屬板を作つて之を印刷機械のシリンドラーに嵌め込む。シリンドラーに固着すれば金屬板はインキ・シリンドラーと紙面とに向つて交互に廻轉する。紙は機械の底部にある大ロールに巻き付けてあつて自動的に繰り出され、最初濕紙シリンドラーを通つて次に印刷シリンドラーに至り、第一の印刷シリンドラーは一面に第二の印刷シリンドラーは裏面に印刷する。そこから斷紙シリンドラーに行つて同一の長さに切斷され、そこから折り疊み装置に行つて折疊まれて賣る許りになる。

一層近時になつて活字鑄造は新方法によつて行はれるやうになつた。植字工がタイプライターの鍵盤に似た鍵盤を打てば當該文字の母型は並んで行となる。それから間隔を取つて母型の行の上に鋸解鉛を注ぎ、之で固まつた活字の一行が出来上る。更に之が發達すれば、各文字は別々に母型から鑄造され、機械が文字の占める

場所を計算し、一行が一杯となれば止め、餘つた場所は語と語との間の小空所の數だけに等分し最後にこの一行を鑄型にとる。一人の植字工は電流によつて遠い諸都市にあるかゝる機械を同時に數臺取扱ひ得ると言はれてゐる。

印刷業に於ても時計業に於ける如く、吾々は機械的・科學的設備が之なくしては到底不可能な結果に到達してゐるのを見る。同時に又これらの設備が從來單に手工熟練と技巧とを要するのみで左迄判断を要しなかつた作業を執拗に取去り、他方これらの設備は判断の使用を要する作業部分を全部人間の手に残しこの判断を非常に需要する一切種類の新職業を開放したのも吾々の見る所である。印刷業者の設備が改善され低廉化する毎に、校正係の判断分別・文書知識に對する需要は増加し、如何にして優美な扉を組上げるか或は如何にして紙上に明暗を適切に配合して版畫を印刷するかを知る者の熟練と趣味とに對する需要も増大する。それは又天分高く高度訓練ある藝術家に對する需要を増加し、これらの藝術家は木・石・金屬の面に版畫を繪き或は彫る。それは又如何にして十分間の演説の主旨を十行の内に確報する——餘りに頻繁に行はれる故に

機械によつて高級才が需要された事例

吾々はこの知性的熟技の困難を低く見てゐる——かを知る者に對する需要を増加する。又更にそれは寫眞技師・電氣版工・ステロ版工・印刷機械製造工その他多數者の作業を増加する傾がある。彼等は印刷紙差入工・印刷紙拔取工・新聞折疊み工——これは鐵の指と鐵の腕とによつて作業を奪はれて了つた——よりも作業から一層高級の訓練を受け一層高い所得を收める者である。

六 機械は人間筋肉の緊張を救ひ、之によつて作業の單調が生活の單調を伴ふことを防ぐ。

さて吾々は進んで、機械が過度の筋肉緊張を救ふといふ結果を考察する。この筋肉緊張は英蘭の如き國に於てさへ二三代以前迄労働者過半數の共通運命であつた。機械力の最も驚嘆すべき事例は大製鐵工場にある。殊に甲鐵板製作所に於てさうである。そこで用ひられる力は非常に大であつて、人間の筋肉は何の役にも立たず、一々の運動は水平的なると垂直的なるとを問はず水壓力或は蒸氣力によつて行はれ、人間は機械の傍に立つて之を操縦し灰を掃除し或

機械は人間筋肉の緊張を救ふ

は何等か之に類する二次的仕事を爲すのみである。

この種類の機械は吾々の自然支配力を増大したが、それは直接に人間作業の性質を著しく變化しなかつた。蓋しこの種類の機械の營む所はそれなくしては人間の營み得ないものだからである。併し他の生産業に於ては機械は人間の労働を軽減した。例へば建築大工が吾々祖先の用ひたと同種の物を作る勞苦は彼等自身にとつて遙かに少い。彼等は今日仕事の中の最も愉快な最も興味ある部分を主として營んでゐる。他方到所の田舎の都會及び殆んど總ての村落には挽材鉋削線形のための蒸氣工場が出來て、近年迄大工を早老ならしめた有害な疲勞から大工を救つたのである(11)。

(11) 床板その他の大形板を削るために用ひられた鉋は心臓病を起さしめ、之がため大工は原則として四十歳にならぬ中に老人となつた。アダム・スミスは言ふ。「労働者は豊かな報酬を受ける場合には非常に過勞し易く數年の中に健康と體質とを破壊し易い。倫敦その他若干の土地の大工が最も元氣な全盛時代は八年を出ないと推定されてゐる。殆んど凡ゆる種類の技術工は特異な種類の作業を過度に行ふため若干の特定疾患に罹る」。Wealth of Nations, Book I, chapter VII.

機械は早晩工業上の一例を取去る

織維産業からの例解

新機械は發明の直後には一般に多大の細心と注意とを要する。併し附添工の作業は常に篩ひ分けられて行く。一律單調な作業は漸次機械に取去られ、かくて機械は愈々自動化し自律化し、遂に手はたゞ或る間隔を置いて材料を供給し完成工作品を取去る以外何事も爲すべきことがなくなる。それでもなほ機械が良好の状態にあるか又平滑に運轉するかを看視する責任は依然残るが、この任務さへ機械の自動的運動を用ひて故障あるとき即座に運轉を中止せしめる仕掛をすれば往々軽減されるのである。

舊時の平織製織工の職業程狭小或は單調なものはなかつた。併し今日は一人の女工も四臺或はそれ以上の織機を取扱ひその各臺は一日に舊式手機の何層倍の作業を營む。彼女の作業は以前の彼の作業よりも遙かに單調でなくなり又遙かに多くの判断を要する。故に織り上げ布地各百碼について言へば、人間によつて行はれる純然たる單調作業は恐らく以前の二十分の一にも達せぬのである(12)。

(12) 過ぐる七十年間に労働能率は製織に於て十二倍、紡績に於て六倍した。その前の

七十年間に紡績の改良は既に労働能率を二百倍せしめてゐた。(Ellison, Cotton Trade of Great Britain, ch. IV, and V. を見よ。)

かくて機械の生活の伴ふこと、単調な作業の防

この種類の事實は幾多の生産業の近時の歴史に見出される。近代産業組織が各人の作業範囲を狭くし之によつて作業を単調ならしめる傾ある状態を考察しつゝある場合には、これらの事實は多大の重要性を持つ。蓋し作業が最も細分されてゐる生産業に於ては、主たる筋肉緊張は最も確實に機械によつて取去られ、かくして単調作業の主要害悪が著しく軽減されるからである。ロッシア¹の言ふ通り、作業の単調よりも寧ろ生活の単調こそ遙かに恐るべきものであり、作業の単調は生活の単調を伴ふ場合に於てのみ最大級の害悪となるのである。今や人間の仕事は多大の肉體的操作を要求し、作業の後には彼はもはや何事をも爲すに適せぬ。彼の心性的才幹は彼の作業の中に於て用ひられぬ限り、發展の機會を殆んど持たない。併し工場の通常作業に於ては神経力は餘り多く消耗されない。兎も角過度の噪音なく労働時間が長過ぎぬ場合にはさうである。工場生活の社會的周圍は作業時間内、作業時間外に於て心性的活動を

刺戟し、外見上最も單調な職業を持つ工場労働者の多くは著しい知性と心性的智略とを持つてゐるのである(13)。

(13) 以前手によつて營まれた作業で今日機械によつて營まれてゐるものゝ最適例は恐らく纖維産業にある。その殊に顯著なのは英蘭であつて、纖維産業は五十萬に近い男性と五十萬以上の女性、即ち獨立所得を収める者の十分の一以上に雇傭を與へる。これら軟質材料を取扱ふ場合に於てさへ人間筋肉の緊張が何程軽減されたかは次の事實が示してゐる。即ちこれら百萬の職工の一人當り約一馬力の蒸氣が用ひられてゐること、即ち假りに彼等を悉く強壯者として彼等が出すべき力の約十倍の蒸氣が用ひられてゐるといふ事實である。なほこれら産業の歴史は吾々に次の點を想起せしめる。即ち製造作業の最單調な部分を營む者の多くは、原則として上から下つて來た熟練労働者ではなくて下から上つて來た不熟練労働者なることこれである。ランカシア¹綿絲工場に作業する者の大多數は愛蘭の貧弱地域からそこへ來た者である。之に對してその以外の者は細民及び體格虛弱者の子孫であつて、これらの者は最も貧弱な農業地域——この地域では労働者の食物・住居は彼等が番をしてゐた動物よりも悪い位であつた——から十八世紀初頭にそこへ多數に送られたのである。更に北米ニウ・イングランド綿絲工場職工は一世紀前には高い文化標準を持つてゐたのに今は之を持たないといふ悲しみを聞くときは、吾々はこれら工場労働者の子孫が一層高い一層責任ある地位に進み、米國市民中の最能力者・最大富

豪の多くを出してゐることを記憶しておかねばならない。彼等の地位に代つた者は漸次地位を高めつゝある。彼等は主に佛蘭西系加奈陀人及び愛蘭人であつて、これらはその新郷國に於て文明の罪惡を若干學ぶことがあるにしても、なほその舊郷國に於けるよりも豊かな暮しをしてをり、彼等自身及びその子の高級才幹を發達せしめる上に大體に於て一層の好機會を持つてゐるのである。

米國農業家が有能な人々でありその子が急速に地位を高めるは眞である。併し一には土地が豊富であつて彼は一般に自己の耕作する農場を所有してゐるため、彼は英吉利農業家よりも良好な社會的條件を持つ。彼は常に自身のために考へ、又長い間複雑な機械を使用し修理せねばならなかつた。英吉利農業労働者は之と相争ふ上に多大の不利益を持つてゐる。最近に至る迄彼は殆んど無教育であつた。彼は著しく半封建的支配の下に立ち、この支配は決してその利益を持たぬ譯ではないが敢爲心を抑へ、或る程度迄は自尊心をさへ傷けてゐた。これらの壓縮的原因は除かれた。彼は今や青年時代に相當に良く教育される。彼は多様の機械の取扱方を學ぶ。彼は特定の大地主或は特定團の小作人の愛顧に從來程依頼しなくなつた。そして彼の作業は最下級の都市作業

等級よりも多様であり一層知性を養ふが故に、彼は絶對的にも相對的にも地位を高めやうとしつゝある。

七 特化熟練と特化機械とを比較する。外部經濟と内部經濟。

特化熟練と特化機械との使用の經濟的幅を全幅的に用いるに作業を要する

さて進んで、如何なる條件の下に於て分業から生ずる生産經濟を最も良く確保し得るかを考察せねばならぬ。特化機械或は特化熟練の能率が單にその經濟的使用の一條件に過ぎないのは明白である。他の一條件は、之を良く使役するに足る十分の作業を見出さねばならぬといふことにある。Babbageの指摘した通り、大工場に於ては『工場主は營むべき作業を種々の過程に分割し、その一々の過程に要する熟練或は力の程度がそれぞれ違ふやうにし、之によつてこの一々の過程に必要な熟練及び力の兩者の精確な量を精密に買入れ得る。然るに若しその全作業が一人の職工によつて營まれてゐるとすれば、その人は作業を分割した場合に種々の工作中的最困難な部分を營むに足る熟練と

最も苦しい部分を營むに足る力とを持たねばならぬ。生産經濟は、各人が狭い作業範圍内に絶えず仕事をすることを要求するのみではない。なほ各人が各種の仕事を担当する必要がある場合に、これらの仕事の各々は彼の熟練と能力とを能ふ限り多く要する如きものであるべきことをも亦た要求する。丁度之と同様に機械の經濟は、強力な廻轉施盤が特別に一種類の作業のために設備されてゐる場合に能ふ限り長く之をその作業に使役すべきことを要求する。そして若し之を他の作業に使役する場合が起るならば、その作業は旋盤を用ふるに價する作業たるべきであり、之より遙かに小さな機械によつても同程度に良く營み得る如き作業であつてはならないのである。

然らば生産經濟に關する限り、人間と機械とは茲では著しく同一の基礎に立つてゐる。併し機械は單なる一生産要具であるに對し、人間の厚生は亦た生産の終極目標である。機能が特化すれば一切の最困難作業も少數の人々によつて營まれるに至るのであるが、かゝる機能特化を極端に遂行することによつて果して全體としての人類は利益するか否か。この問題は既に吾々の取扱つた

併し人間の最も生産的の用途に自らは
因用して最要の生産に
人間的に用は
濟人的に用は
若し之に用は
身が之に用は
つて發達しよ
なれば空し

所である。以下三章の論旨は、各種企業經營形態をしてその環境によつて利するに最適者たらしめ又最も多く他に優勝せしめる原因は果して何であるかを探求することにある。併し同時に吾々は、これら諸形態がそれぞれ如何程迄その環境に福利を與へるに適してゐるかの問題をも心に留めておきたいのである。

特化熟練機械の使用上の經濟の中で、巨大工場が收めるものと通常見られてゐる經濟の多くは、個體工場の大さの如何に依存するものではない。或るものは附近一帯に於けるその種の生産總體量に依存する。他方或るものは更に主として全文明世界に於ける生産總體量に依存する。殊に知識の發達と工藝の進歩とに關聯するものに於てさうである。そこで吾々は茲に二つの術語を導き入れたい。

吾々は何れかの種類の財の生産の規模の増大から生ずる經濟を二類に分つていゝ——第一はその産業の一般的發達に依存する經濟、第二はその産業に従事する個々の營業の資力組織・經營能率に依存する經濟である。前者は外部經濟

外部經濟と
内部經濟と

external economies と呼び後者は内部經濟 internal economies と呼んでいゝ。本章に於て吾々は主に内部經濟を論じて來た。併し今や進んで極めて重要な外部經濟を検する。この經濟は類似の性質を持つた多くの小企業が特定地方に集中すること、即ち通常言ふ産業地方化 Localization of industry によつて往々收め得る經濟である。

第十章 産業組織 續論 特化産業の特定地方集中

一 地方化産業。その原始的形態。

初期文明階段に於ては、各地は各々自己の消費する重量商品の大部分については、偶々特殊の水運の便を持たぬ限り、その地自體の資源に待たねばならなかつた。併し欲望と慣習とは緩慢に變化した。之によつて生産者は殆んど自身交通せぬ消費者の欲望にさへ應ずることが容易となつた。又之によつて比較的貧しい人々も遠方からの少數高價財を買ひ得るに至り、これらの財が確かに一生涯或は恐らく二或は三生涯に亘つてさへ祭禮祭日の快樂を増すであらうと安心して之を買ひ得るに至つた。その結果衣料品、裝具等の輕量高價品は、一切階級の用ふる香味料及び若干種類の金屬具、その他富者が特別に用ふる幾多の物と共に往々驚くべき遠方から渡つて來た。その或る物は少數地に於ての

初期文明階段に於ては、
重量商品の輕量化
へ若干の輕量化
貴重品の輕量化
しは地方化

み生産され、或は一地に於てのみ生産されたものさへあつた。これらの物は歐洲全土に散布された。それは一部は祭市(1)と専門行商人との力により、一部は生産者自身によつたのである。生産者は財を賣り世界を見るために數千哩を徒歩旅行して彼等の作業を取替へた。これら堅忍不屈の旅行者は彼等の小企業の危険を自ら負擔した。彼等は或る種の財の生産を正しい途に向けて遠方の購入者の必要を満すに適するを得せしめた。又彼等は祭市或は自家の店頭で遠國からの新財を陳列して消費者の間に新欲望を創造した。或る地方に集中してゐる産業は通常——尤も全然精確とは言へぬが——地方化産業 *Localized industry* と稱せられてゐる(2)。

(1) 即ちケムブリッジ近くに開かれたストールブリッジ *Stourbridge* の市の記録には東方及び地中海沿岸に於ける文明舊地からの輕量貴重品が無限に多様にある。或る物は伊太利船によつて運ばれ、或る物は遠く北海沿岸迄陸路を旅したのである。

(2) 餘り以前のことではないが、テイロー *Taylor* を旅行した人は、イムスト *Imst* といふ村にこの風習の特徴ある奇妙な遺風が残つてゐるのを見出し得た。村民は何故かカナリヤ飼養上の特殊技術を習得してをり、若者は各々約五十の小鳥籠を天秤棒で

肩に擔つて鳥籠全部を賣り盡す迄歐洲の遠隔の地方を放浪したのである。

この初歩的産業地方化は機械的技術と企業經營任務とに於ける分業の近代的發展の多くに進む道を漸次準備した。今日に於てさへ吾々は中部歐洲の邊境の諸村落に産業が原始的に地方化し、その單純な商品を近代産業の最も繁劇な地方に迄も送りつゝあるのを見る。露西亞に於ては家族團體が一村落到一村落に膨脹することが往々地方化産業の原因となり、非常に多數の村落は各々單に一生産部門のみを營み或は單に一生産部門中の一部のみを營むものさへある(3)。

(3) 例へば五百以上の村は専ら木工作業の多様の部門を營んでゐる。一村は車輪以外には何物も作らず、一村は車體以外には何物も作らぬ等の如きである。之と同様の状態の證據は東洋文明史及び中世歐洲年代史に見出される。即ち例へば(Bogers, *Six Centuries of Work and Wages*, ch. IV) 一二五〇年頃に書かれた一法律家便覽のあつたことが書いてある。この書の中にはリンカーン *Lincoln* の猩紅布 *Scarlet cloth*、ブライ *Bligh* の毛布、バーベリー *Beverly* の地橋 *Barrett*、コルチェスター *Colchester* の赤楊田舎織 *Red willow cloth*、シャフツベリ *Shuttsbury*、リューイス *Lewes*、エイルズハム *Aysham* のリンネル、ウォーウィック *Warwick*、ブリッドポート *Bridport* の厚地織 *Thick cloth*、マーステッド *Marstead* のナイフ、ウィルトン *Wilton* の針、レスター *Leicester* の剃刀、コヴェントリー *Coventry* の石輪 *Stone wheel*、ドンカスター *Doncaster* の馬肚帶、チェスター

Chester・シールーズベリ Shrewsbury の毛皮・皮革その他のことが書いてある。
 十八世紀初頭に於ける英蘭の生産業地方化はディフォー Defoe, Plan of English Commerce, 85—7, English Tradesman, II, 232—3 に良く記述されてゐる。

二 その多様の起源。

地方化産業
 の多様の起
 源の
 外的
 的
 条件

産業地方化を生じたのは多くの多様の原因であつたがその主な諸原因は外
 界的条件であつた。氣候・土壤の性質・附近に或は水運又は陸運の便ある所に鑛
 山・石坑の存することの如きである。即ち金屬産業は一般に鑛山に近くあるか
 或は燃料の安價な場所にあつた。英蘭の製鐵産業は最初木炭の潤澤な地方を
 求め、後炭坑の附近に移つて行つた(4)。スタフォードシャー Staffordshire は陶器
 の多くの種類を産し、その一切原料は遠い地域から輸入されてゐるが、この地は
 安價な石炭を有し、重い耐火性粘土^セ陶器^カ即ち陶器を容れて焼く陶器を作るに適した
 優良粘土を持つてゐる。麥稈^セ眞田の主産地はベッドフォードシャー Bedfordshire
 であるが、この地の麥稈は丁度適量の硅酸を含んでゐて脆くならぬ程度に強靱
 である。又バッキンガムシャー Buckinghamshire の櫛はワイローム Wycombe の椅

子製造の原料を供し、シェフィールド^セ Sheffield の刃物業は砥石を作る優良の沙
 石に主として基いてゐる。

(4) 後に至り製鐵業は威斯・スタフォードシャー及びシュロプシャー Shropshire から蘇格
 蘭及び英蘭北部に彷徨して行つたが、之はベル卿 Sir Lowthian Bell が近時の交易・産業沈
 滞調査委員に報告した表の中に良く示されてゐる。同委員の Second Report, Part I, p.
 320 を見よ。

宮廷の庇護

もう一つの主な原因は宮廷の庇護であつた。宮廷に集つた富者群は殊に品
 質の高級な財を需要し、この需要は熟練職工を遠方から招致しその場所で教育
 する。東洋の君主が遷都した場合には——之は一には衛生上の理由によつて絶
 えず行はれてゐた——その舊都は宮廷の存在に起源を發してゐる特化産業の發
 展に逃げ道を求め勝ちであつた。併し治者が技術工を遠方から計慮的に招致
 し之を一團として定住せしめたことは非常に多い。即ちランカシャー Lancashire
 の機械的才幹はウィリアム征服王の時代にドループス Hugo de Lupus がウ
 オリントン Warrington に定住せしめたノルマン鍛冶工の感化に基くと言はれて
 ゐる。又綿絲蒸氣時代以前の英蘭の製造工業の大部分はフランダースその他

治者の計慮
 的招致

の技術工の居留地によつて諸針路を指示されてゐた。彼等の多くはブランドネット及びテュードル諸王の直接指揮の下に定住したのである。これらの來住者は吾々に羊毛糸の織物の製織を教へた(尤も吾々は長い間晒しと染色とのためには羅紗を和蘭に送つてゐた)。彼等は吾々に鱈保存法、絹絲製法、レース硝子紙の製法その他吾々の多くの欲望の資料を供する途を教へた(5)。

(5) フラー Fuller の言ふ所によると、フランダース人はノルウイッチ *Norwich* に羅紗及びファステイアン織の製造工業を興し、サドベリ *Sudbury* にベイズ織、コルチエスター・タinton にセル、ケント *Kent*・ダロースター・ニア *Gloucestershire*・ウスター・ニア *Worcestershire*・ウエストモerland *Westmorland*・ヨーク・ニア *Yorkshire*・ハント *Hants*・ベルクス *Berks*・サセックス *Sussex* に羅紗、デブシャー *Devonshire* にケルジー織、ランカシャーにレザント綿布の製造工業を興した。Smiles, *Huguenots in England and Ireland*, p. 109. なほ Lecky, *History of England in the eighteenth Century*, ch. II. を見よ。

併しこれらの來住民は如何にして彼等の熟練を習得したか。彼等の先祖は疑もなく地中海沿岸及び極東に於ける古の文明の傳統的技術によつて利益した。蓋し殆んど一切の重要な知識は遠い時代に迄長く深い根を伸してをり、こ

諸國民の産
業的發展は
社會的性格
とに待つ

これらの根は非常に廣く張つてをり又何時か活力ある生命の若枝を伸さうとしてゐたのであつて、若し高度熟練産業の發達が民族性格により社會的・政治的制度によつて助長されてゐたならば、幾多の優美な高級熟練産業は恐らく舊世界の如何なる部分に於ても既に早く繁榮してゐたかも知れぬからである。或る特定の偶然事は何れかの特定産業が何れかの一都市に於て繁榮するや否やを決定したこともあり、一國全體の産業的性質はその國の土壤・鑛山の豐饒性と商業の便宜とによつて大いに影響されたことさへもあつた。かゝる自然的利益はそれ自體自由産業・企業を刺戟したこともある。併しこの最後のものゝ存在こそは―それが如何なる手段によつて促進されたものであらうと―生活術の高貴な形式の發達の至高の條件であつた。自由産業・企業の歴史を粗描する際に吾々は既に附帶的に、世界の産業指導權が轉々として國から國へと地方化した諸原因を探つておいた。吾々は如何に外界的自然が人間の精力に作用するか、如何に人間が豊かな作業分野の開放に鼓舞されて大膽な冒險を行ふかを明かにした。併し吾々はなほ、人間がこれらの利益を利用することが如何に人間

の生活理想に依存するか、従つて如何に世界史上の宗教的・政治的・經濟的の絲が互に深く織り込まれて解き放ち難いものであり、他方これらが集つては重大な政治的事件により個人の強大な性格の影響によつて種々の方向に曲げられたかをも亦た明かにしてゐたのである。

諸國民の經濟進歩を決定する諸原因は國際貿易の研究に屬し従つて吾々の當面の視野の外にある。併し今暫く吾々は産業地方化のこれらの、廣大な運動から離れ、一工業都市或は人口稠密な一産業地域の狭い地域内に密集してゐる熟練労働者の集合體の運命を辿つて見なければならぬ。

三 その利益。 遺傳的熟練、補助生産業の發達、高度特化機械の使用、地方的特殊熟練市場。

一産業がかくの如く自身の所在地方を選定した場合には、恐らくそこに長く止まつてをり、同一熟練業に従事する人々が互に近隣から受ける利益はそれだけ大である。生産業の秘密はもはや秘密ではなくなり、言はゞ公然の秘密とな

地方化産業
の利益
遺傳的熟練

補助生産業
の發達

り、兒童は無意識にその多くを學ぶ。優秀な作業は正しく眞價を認められ、機械過程及び一般企業組織上の發明改良の美點は敏速に論議される。若し一人が一新着想を出せば、他の人々は之を取り之に自身の暗示を加味し、かくして右の着想は更に進んだ新着想の源泉となる。又やがてその近傍に補助生産業が發達して、右産業に工具・原料を供給し、その運輸を組織し、多くの點に於て右産業の原料の經濟を來さしめるのである。

高度特化機
械の使用

更に同種類の多大の總體生産の存する一地域に於ては、例へその生産業に雇用されてゐる個々の資本は左迄大でない場合に於てさへ高價機械の經濟的使用は時に非常な程度に達し得るのである。蓋し補助産業は各々生産過程上の一小部門に専心し、之をその隣人の多數者のために營むのであつて、最高度の特化的性質を持つ機械を間斷なく使用することが出來、例へ機械の原費を高く出してをり又その減價率は非常に速かであつても、その失費を償ひ得るからである。

地方的特殊

更に最古の經濟發展階段を除いて、一切發展階段に於ては、地方化産業は熟練

に對して不斷の市場を提供するといふ事實から多大の利益を收める。雇主は彼等が要する特殊熟練を持つ労働者の勝れた者のゐるらしい所ならば何處にでも向つて行く者であり、他面求職者は彼等の熟練を必要とする多數雇主がをり従つて良市場のあるらしい場所に自然に出て行く。一孤立工場の所有者は、例へ一般労働の豊富な供給を受ける便を持つ場合に於てさへ、往々若干の特殊熟練労働の缺乏に苦しみ、又之に雇傭されてゐる熟練職工も解雇された場合には安易な遁走所を持たない。茲に諸社會力と諸經濟力とが協同する。そこには雇主と被傭者との間に往々強固な情誼がある。併し何れの側も彼等の間に何等か不愉快な悶着が起つた場合に、双方反目の間柄を續けて行かねばならぬとは感じ度くないのである。双方とも若し從來の結合關係が嫌になつたらばこの關係を容易に斷ち切り得ることを好む。これらの困難は、特殊熟練を要しつゝも近邊に類似のない企業の成功にとつて依然一大障礙である。さりながらこれらの困難は鐵道・印刷機・電信によつて輕減されつゝある。

他面に於て若し一地方化産業に於て營まれる作業が主として一種類であり、

さりながら

時には地方
産業は一
種類の大
に労働需
要を過大
にする

例へば強壯な男子のみによつて營まれ得る如きものならば、地方化産業は一労働市場として若干の不利益を持つ。製鐵業地域には纖維工場或はその他女子小兒に雇傭を與へる工場のない地域があるが、かゝる地域に於ては賃銀は高く労働費は雇主にとつて高く、他方各家族の平均貨幣収入は低い。併しこの害惡の救済は明白であつて、その近邊に補充的性質を持つ諸産業を發達せしめることにある。即ち纖維産業は絶えず鑛業的産業・機械産業の近傍に集合する。或る場合には殆んど目に見えぬ程の歩みをもつて招致され、或る場合には例へばバロウ Barrow に於ける如く以前女子小兒の作業に對する需要が極く僅かしかなかつた場所に雇傭の多様性を生ぜしめるため計慮的に大規模に興されたのである。

若干の英國工業都市は雇傭の多様性の利益と地方化産業の利益とを兼有してをり、之が彼等の繼續的發達の一主要原因となつてゐる。併し他面に於て一大都市の中心敷地は商業目的のために價値を持つてをり、この價値によつて中心敷地はその位置が工場に價するよりも遙かに高い敷地地代を收め得るので

ある。右二様の利益の兼有を考慮に加へてさへさうである。同様の住宅地競争は商店使用人と工場労働者との間にもある。その結果今や工場は都市自體の中よりも寧ろ大都市の外廓及び大都市附近の工場地域に集合することになつた(6)。

(6) この移動は殊に繊維工業の場合に顯著であつた。マンチェスター・リー・Lancaster リオンは依然綿絲・羊毛・絹絲織物業の主要中心であるが、これらの地の名聲の基となつてゐた財は多くは今日もはやこれらの地自身が生産してゐないのである。他面に於て倫敦・巴里は世界最大の二工業市としての地位を保ち、フィラデルフィアは第三位に來る。産業地方化、都市及び都市生活習性の發達、及び機械の發達の相互影響は Hobson, Evolution of Capitalism によく論じてある。

主として一産業に依つて立つ地域はその生産物に對する需要の減退する場合、或は使用原料の供給の杜絶する場合に、極度の沈滞に陥り易い。この害悪も更に數多の明別された諸産業が強固に發達してゐる大都市或は大工業地域によつて大部分回避されてゐる。若しその諸産業中の一が一時失敗すれば、他の諸産業は恐らく之を間接に支持し、地方店舗をして失敗産業に従事する労働者

同一近隣地
の種々の産
業は互に他
の沈滞を中
和する

商店の地方
化

に引續いて助力を與へるを得せしめるのである。

以上吾々は生産經濟の視點から地方化を論じて來た。併しなほ顧客の便宜をも考察せねばならぬ。顧客は僅かな購入のためには最も近い店に行くであらう。併し重大な購入のためには彼はその都市の如何なる部分でも彼の目的に殊に好適な店があると思ふ所を訪ふ勞を取るであらう。その結果高價精選品を取扱ふ商店は一所に集合する傾があり、日常の家庭的必要を満す商店は集合せぬのである(7)。

(7) Hobson, loc. p. 114 参照。

四 交通手段の改善が産業の地理的分布に及ぼす影響。

英蘭近時の歴史からの例證。

交通手段が低廉化する毎に、遠隔地間に思想自由交換の新便宜が生ずる毎に、産業を地方化せしめんとする傾を持つ諸力の作用は變化して來る。一般的に言つて吾々は次のやうに言はねばならぬ。即ち財の水陸運賃が低落すれば各

交通手段の
改善が産業
の地理的分布
に及ぼす影響

地方はその所要物の一層の大部分を遠方から買ふ傾となり、かくて特定産業は特殊地方に集中する傾となる。併し他面に於て一の場所から他の場所へ移住しやうといふ人の熱心を増す事柄は總て、熟練技術工をして彼等の商品を購入する消費者の近所に於てその技能に精勤せしめる傾がある。これらの二反對傾向は英吉利人の近時の歴史によつて良く例證される。

一方に於て船舶運賃が着々安價となりアメリカ及び印度の農業地域から海岸に出る鐵道が開通し、又英蘭が自由貿易政策を採用したため、英蘭の土地生産物輸入高は大いに増加するに至つた。併し他方に於て海外旅行が安價、迅速愉快となつたため、英蘭の訓練ある企業家及び熟練技術工は他國に於て新産業への途を開拓しその國が從來英蘭から購入してゐた財の自製自給に助力せしめやうとしつゝある。英吉利機械工は世界の殆んど凡ゆる部分の人々に如何にして英吉利機械を使用するかを教へ、如何にして類似機械を製作するかをさへ教へ、英吉利鑛業者は鑛山を發掘しこの鑛山は幾多の英國生産物に對する外國需要を減退せしめるに至つたのである。

英蘭近時の
例證から

一國産業が特化に向つて進む運動の中歴史が記録してゐる時も顯著な運動の一は近時に於ける英蘭の非農業人口の急増である。さりながらこの變化の精密な本質は誤解され易い。又それはそれ自體としても、又前章と本章とに於て論じて來た諸一般原理の例證を供する點に於ても非常に興味が多いから、茲に足を止めてこの變化を少し考察するのも徒爾ではあるまい。

先づ第一に英蘭の農業的産業の實質的減退は一見して思ふ程大ではない。中世に於て國民の四分の三が農業者と計算されてゐたこと、最近の國勢調査に於て農業従事者が僅かに九人中の一人に過ぎぬと報告されたこと、又次回の國勢調査に於ては恐らく十二人の一人以上は農業従事者として報告されないのであらうといふことは眞である。併し記憶せねばならないのは、中世の所謂農業人口は専ら農業のみを營んでゐなかつたことである。彼等は今日醸造業者、パン焼業者、紡績業者、製織業者、煉瓦積工、大工、男女服裁縫業者その他多くの生産業者によつて營まれてゐる作業の大部分を自營してゐた。自足の習性は緩慢に死滅して行つた。併しその習性の多くは十九世紀初頭迄に殆んど影を没して

英蘭農業人
口の減少は
一見して思
ふよりも少
い

了ひ、恐らくその當時に於て土地に投ぜられてゐた勞働が英蘭の生産業中に占める部分は中世に比して著しく減少してはゐなかつたのである。蓋し英蘭は羊毛・小麥を輸出しなくなつたにも拘らず、その土壤から強取した生産物は大いに増加したため、英蘭農業者の技術上の急速な改良も殆んど收穫遞減法則の作用を阻止する用をなさなかつたからである。併し漸次多大の勞働は耕地を離れて農業目的のためにする高價機械の製作に向つた。この變化も、機械が馬によつて牽引されてゐた間は、農業者として計算される者の數の上に全幅の影響を及ぼさなかつた。蓋し馬を飼育し之に飼料を與へる作業は農業的作業と見られてゐたからである。併し近年になつて耕地に於ける蒸氣力使用の急速な發達は農場生産物輸入の増加と時を同じくして起つて來た。これら蒸氣汽罐に燃料を供給する炭鑛夫及びこれらの汽罐を製作し耕地に於て動かす機械工は、その勞働の終極目標を耕地耕作の促進に置くとは言へ土地の上に作業する者としては數へられてゐない。然らば英蘭農業の實質的減退は一見して思ふ程大ではない。併し農業の分布状態には一の變化が起つた。曾ては農業勞働

者によつて行はれるを常としてゐた幾多の仕事は、今は特化勞働者によつて營まれ、建築産業或は道路産業として、運送業その他に屬する者として分類されてゐる。又一にはこの理由によつて、農業従事者の數は急速に減退しつゝあつた場合に於てさへ、純農業地域の人口數は急速に減退すること殆んどなく、反つて往々増加したのである。

國內農業人口分布の變化

農業生産物の輸入が各種土壤の相對價値の變化に及ぼす影響については既に注意を呼んでおいた。この土壤の中で價値の低落が最も著しかつたのは主として小麥作による土壤であり、而かもその土壤は高價な耕作方法によれば相當の良作を産出し得るのではあるが、自然的には肥沃でない土壤である。かゝる土壤が多い地域は大都市に移住した農業勞働者群を割合以上に出した地域であり、かくて國內産業の地理的分布はなほ一層變化したのである。新運輸手段の影響の一著例は英王國の邊境の部分にある牧場地域に之を見る。これらの地域は特別急行列車によつて倫敦その他の大都市に酪農生産物を送り、同時に彼等自身の小麥所要量は遠く大西洋岸から或は太平洋岸からさへも之を得

てゐるのである。

併し次に、近年の諸變化は一見してかくもあらうかと思ふ程に工業に従ふ英吉利人の割合を増加せしめなかつた。英蘭の工業の産出高は十九世紀中葉に比すれば今日は確かに幾層倍してゐる。併し例へ英吉利農業作業の大部分を營む機械・農具を製作する者の數は工業者の數を増加せしめるとは言へ、各種工業に従事する者の人口に對する百分率は一八五一年に於ても一九〇一年に於ても同じであつた。

この結果の主な説明は、近年に於ける機械の威力の驚くべき増進にある。之によつて吾々は自國用及び輸出向の凡ゆる種類の工業品の逐増供給量を生産し得たのであり、而かも機械操縦者の數を著しく増加するを要しなかつたのである。従つて吾々は農業を離れた勞働を、機械改良の利益を殆んど受けぬ欲望充足に向つて主として傾注し得たのである。英蘭に地方化してゐた諸産業は機械の能率によつて、この能率がなかつたとした場合程に全然機械的とならなかつたのである。一八五一年以來英蘭に於て農業を犠牲として急速に増加し

農業から解
放された者
は製造した
でに入つた
ない工業

主として勞
働能率が餘
り増進して
ゐない諸産
業に入つた

た職業の中で著しいものは、鑛山業・建築業・賣買業及び道路鐵道による運輸業の外、中央地方の官職、一切等級の教育、醫藥業、音樂・演劇その他の演藝である。これらは何れも新發明から非常に多大の直接助力は得なかつたのであつて、これらに於ける人間の勞働は今日も一世紀前に比して左迄能率を高めてゐない。これらによつて充足資料を受ける欲望が吾々の一般の富に比例して増加するならば、これらの職業が産業人口を吸収する割合は絶えず増進するものと期待する外ない。召使は若干年間急速に増加し、召使の作業とされてゐた作業の全部量は従來よりも速かに増加しつゝある。併し今日はその作業の多くは、往々機械の助力を用ひて、一切種類の呉服商・ホテル所有者・菓子屋に雇傭されてゐる者によつて營まれ、又電話によつて註文しない限り食料品商・魚商その他からの註文取りによつてさへも營まれてゐる。これらの變化は産業の特化と地方化とを増進する傾があつた。

右は近代諸力が産業の地理的分布に及ぼす作用を例解するものであるが、右の例解を離れて吾々は再び吾々の探求に立戻らう。即ち種類の類似し

文章の題目
への移行

た小企業の多数が同一地方に集中することによつて如何程迄分業の全幅の經濟を收め得るか、又國の企業の大部分が比較的少數の富裕強大な營業の掌中に集合することによつてのみ、即ち通常言ふ大規模生産によつてのみ、如何程迄これら分業の經濟を收め得るか、言ひ換へれば大規模生産の經濟は如何程迄内部經濟でなければならず、又如何程迄外部經濟たり得るかの探求である(8)。

(8) 英王國に於て繊維産業に従事する人口の百分率は一八八一年の三パーセント三一から一九〇一年の二パーセント四三に減じた。その理由は一には彼等の營んでみた作業が半自動機械によつて甚だ單純となり、ために産業狀態の相對的に遅れた諸民族によつて相當良く營まれ得るに至つたことにあり、一には主要繊維品は三十年以前に比し否三千年以前に比しても殆んど同じ單純な性質を持つことにある。他方に於て鐵工業・銅工業(造船業を含む)は産出高の大きに於ても複雑性に於ても大いに増加し、ためにこれらに従事する人口の百分率は一八八一年の二パーセント三九から一その間これらに用ひられる機械方法は繊維産業に於けるよりも遙かに大進歩を遂げたにも拘らず一八九〇一年の三パーセント〇一に増加した。その以外の工業的産業は一九〇一年に於ても一八八一年に於ても略ぼ人口の同一百分率を雇傭してゐた。之と同時に大英國諸港を解纜した大英國船舶噸數は二分の一増加し船渠労働者數は倍加したが、海員の數は微かに減少した。これらの事實は一部分

は船舶及び船舶に關する一切裝置の建造に大改良が行はれたことによつて説明され、一部分は最近に至る迄も船員が荷役の幾分を行つてゐたが荷役に關する殆んど一切の仕事が船渠労働者に移されたことによつて説明されるべきである。もう一つの著しい變化は工業に於ける總體女子職業の増加である。尤も既婚女子の職業は減少したやうであり、兒童の職業は確かに激減した。

一九一五年に公刊されたThe Summary Tables of the Census of 1911はその分類法が一九〇一年とは幾多の點に於て變つてゐるため、近時の發達を安全に概観し得ない。併し右の『報告』の第六十四表及びジョーンズD. Carnudos Jones 教授の一九一四年十二月帝室統計協會の報告論文の示す所によると、一九〇一—一九一一年の發達とその前期の發達との相違は一般的性質の相違ではなくて寧ろ細目に於ての相違である。

第十一章 産業組織 續論 大規模生産

一 吾々の當面の目的のための典型的産業は工業である。原料の經濟。

大規模生産 Production on a large scale の利益は工業に最も良く現れる。吾々はこの工業の中に、原料を遠い市場に於ける販賣に適する形態に加工する一切企業を包括する。工業的産業が一般に大規模生産の利益を最も良く例解するのはその特徴によるのであるが、この特徴は工業的産業が企業場所を自由に選擇する力にある。即ち工業的産業は一面に於て農業その他の採收産業(鑛業、石坑業、漁業その他)の如く自然によつて地理的分布の決定を受けるものと對照をなし、他面に於て個人消費者の特殊必要と適應する物品の製作或は修繕を行ふ産業の如く消費者から一兎に角大損失なくしては—遠く離れ得ぬものと對照をなしてゐる(1)。

吾々の當面の典型的工業的産業の目的は、工業的産業の營業を營むるにある。

(1) 『工業』 Manufacture といふ用語は既に長くその本源的用法との聯絡を失つてゐる用語であつて、今日は手工作業を主とせずして機械を主とする生産部門に適用する。ロツシアは之を工場工業に反對する家内工業に適用して舊法に近からしめやうとしたが、今はかゝる事をするべく餘りに遅い。

原料の經濟

大規模生産の主要利益は、熟練の經濟機械の經濟及び原料の經濟である。併しこれらの内最後のものは迅速に他の二に比して相對的に重要性を失ひつゝある。工場に於ては集められ利用される多數の端物を一孤立作業者が往々棄て去るは眞である(2)。併しこの種の空費は地方化学工業に於ては、例へその工業が小工業家の掌中にあつても、殆んど起り得ぬことであり、又近代英蘭の如何なる産業部門に於ても農業及び家庭料理を除く外この空費は餘り多くない。疑もなく近年に於ける最重要の進歩の多くは從來屑物たりしもの、利用に基いてゐる。併し之は一般に化学上或は力學上の著しい發明に基いたのであつて、この發明の使用は元より微細の分業によつて促進されたものではあるが、分業に直接依存したものでないのである(3)。

(2) ベベーチの擧げた角工業の例を見よ。 Fabryge, Economy of Manufactures, ch. XXII.

(3) その類例は綿絲・羊毛・絹絲その他の纖維原料から生ずる屑の利用、及び冶金業、曹達・瓦斯製造、米國の石油産業及び肉類貯藏産業に於ける副産物の利用である。

更に何百組の家具或は衣服を精密に同一雛形によつて截たねばならぬ場合には多大の苦心を費して、板或は布地の截ち方を考案し僅かな切れ端だけを屑とするやうにするのが得策なのは眞である。併し之は本來熟練の經濟である。一の考案は幾多の仕事にも用ひられ、従つて優良・細心に營まれ得るのである。然らば機械の經濟に移つて行かう。

二 大工場の利益、特化機械の使用改良、販賣購入、特化熟練、企業經營作業の細分。

小工業家の監督上の利益。知識の近代的發展は著しく小工業家側に利である。

同一生産業部門の多數小工業が隣接地に集まる所に於ては、諸補助産業は小工業に助力を與へ得るのであるが(4)、その助力あるにも拘らず小工業は機械の多様性・高價性の増大によつて一大不利益の下に立つてゐる。蓋し大營業には

大工場の特
用機械の利
益の上

往々多くの高價機械があつて、各々特に一小用途のために作られてゐるからである。これらの機械の各々は明るい光線の場所を要し、工場の地代及び一般失費を巨額ならしめるものであり、利子と修繕費とは別にしても恐らく遠からず改良されて了ふ結果多額の減價償却を見積らねばならぬ(5)。従つて小工業家は、自ら特化機械を間斷なく作業せしめ得さへすれば之を用ひて一層優良・安價に仕事を爲す術を知りつゝも、多くの仕事を手或は不完全な機械によつて營まねばならぬのである。

(4) 前章三を見よ。

(5) 機械が他の機械に代られる迄の平均期間は多くの生産業に於ては十五年を出でず、或る生産業に於ては十年或はなほそれよりも短いことさへある。機械は年々その費用の二割を收得しない限りその使用は往々損失となる。五百磅の費用を要した一機械の營む工作が、この機械を通過する材料の價値に僅か百分の一しか加へぬ場合には——之は極端な場合ではない——この機械を用ひて少くも年々一萬磅の財を生産せぬ限り、この機械を使用するは損失であらう。

改良機械發

併し次に小工業家は常に必ずしも彼の目的に最も適する機械を熟知してゐる

明上の利益

ないことがある。若し彼の従事する産業が既に永く大規模に確立してゐるものならば、彼が市場に於ける最良の機械を買ふ餘裕ある限り、彼の機械が標準に達するのは眞である。例へば農業及び綿絲工業に於ては機械改良は殆んど全く機械製作者によつてのみ行はれてをり、兎も角特許權使用料を支拂へば何人も之を用ひ得る。併し之を用ひ得ない産業もある。未だ初期發展階段にある産業或は化學工業・懷中時計工業及び黃麻・絹絲製造の若干部門の如く急速に形態を變じつゝある産業に於てさうであり、又新欲望充足のため或は新原料加工のために絶えず發生しつゝある多數の生産業に於てさうである。

かゝる一切生産業に於ては新機械・新過程は大部分工業家自ら自用のために之を工夫する。一々の新機軸は一の實驗であつて失敗するかも知れぬ。成功する新機軸は自身の成功と他の新機軸の失敗とを償はねばならぬ。一小工業家は一改良への途を知ると思ふことはあつても、彼はこの改良を試験的に飽迄遂行し、多大の危険と失費とを蒙り又他の作業が著しく妨害されることを覺悟せねばならぬ。又例へ之を完成し得るとしてさへも、恐らく之を極力利用し得

小工業家は
住々實驗の
餘裕を持た
ぬ

ない。例へば彼は一新特殊品を案出し、この特殊品は世人の注目を受ければ多大の賣行を持つかも知れぬとしても、之を行ふには恐らく數千磅の費用を要し、果してさうならば彼は恐らく之に背中を向けて顧みぬであらう。蓋し彼にとつてはロツシアの所謂近代工業家の特徴たる任務を果すこと殆んど不可能だからである。その任務とは世人に何物かを示して新欲望を創造することである。世人は從來かゝる物を持たうとも考へてはゐないが、觀念が暗示されば直ちに之を欲するのである。例へば陶器業に於ては小工業は極めて試験的に行ふ場合の外新雛形・新意匠の實驗さへ行ふ餘裕を持たない。既に優良市場を持つ物の製作上の改良を行ひ得る機會は右の場合よりも多い。併しこの場合に於てさへ彼は其の改良の特許を受けその使用權を賣るか、或は若干資本を借入れて企業を擴張するか、或は最後に彼の企業の性質を變化してその改良を用ふる特定製造階段に彼の資本を傾注するかせぬ限り、彼の改良の全幅の福利を收め得ないのである。併し結局これらの場合は例外であつて、機械の多様性・高價性の發達は到る所に於て痛く小工業家を壓迫する。それは既に小工業家

を或る生産業から完全に驅逐して、又或る生産業からは急速に驅逐しつゝある(6)。

(6) 多くの企業は改良の一部少数のみの特許を受ける。これらの改良は多くの小段階から成つてをり、その一々の段階は別に取立て、一々特許を受ける迄もないやうなものである。或はこれら改良の主眼點は、或る事をせねばならぬといふことに注目した點にあることもある。之を行ふ一方法の特許を受けるは、たゞ他人をして之を行ふ他の方法を見出すために作業せしめることとなつて、之ばかりは特許も防ぐことは出来ない。若し一の特許を受けるならば、之と同一結果に達する他の諸方法の特許をも受けておいて、前者を『封鎖』する必要が往々ある。特許権者は自ら之を用ひやうとは思つてゐないが他人が之を用ひることを防がうと欲するのである。右は總て苦心と時間、貨幣の損失とを伴ひ、大工業家は彼の改良を自分の所に止めて置き之が使用によつて得られる福利を收める策に出る。之に對し若し小工業家が特許を受ければ彼は恐らく特許侵害に苦しめられ、自己防衛のための訴訟を起し、訴訟費用持で勝訴するとしても、その訴訟が度重なれば訴訟倒れとなるに違ない。改良は特許を受けると同時に之を公表するのが一般に公益である。併し往々あるやうに英蘭で特許を受けて他の諸國で特許を受けておかなければ、英吉利工業家はその特許前に自ら別に將に之を見出さん許りの域に近いてゐても之を使用せず、他方外國工業家は之を悉く知つて自由に使用し得るかも知れぬのである。

併し若干の生産業に於ては改良の工場が最も良き機械を用ひ得る

さりながら若干生産業に於ては、大工場が機械の經濟から收める利益は工場が中位の大きいさとなるや否や直ちに殆んど消滅し去るのである。例へば綿絲紡績及びキヤラコ製織に於ては比較的小工場も自己の地歩を保ち、各過程のためにも最も良く知られた機械に間斷なき作業を與へるであらう。故に一大工場は數多の平行的小工場を一の屋根の下に集めたに過ぎない。實に若干の綿絲紡績業者はその工場の擴張に當り、寧ろ製織部を増設するを最善とすると考へるのである。かゝる場合に於ては大企業は殆んど或は全然機械の經濟を收めない。その場合に於てさへ大企業は一般に建築特に烟突について、蒸氣力の經濟に於て、汽罐、機械の取扱、修繕に於て、何物かを節約するのである。大軟質財工場は木工部及び機械工部を有して修繕費を節減し、工場施設の事變から生ずる遲滞を防ぐのである(7)。

(7) 職工一人當りの所要資本は一般に小工場よりも大工場に大であるのを一般原則とするが、綿絲その他の若干繊維工場がこの原則の例外をなすは著しい事實である。その理由は次の點にある。即ち他の大多數の企業に於ては小工場に於て手で營んでゐる多くの事を大工場に於ては高價機械で營んでをり、ために産出高に對する負

銀支拂高の割合は小工場よりも大工場に小であるに對し、機械及び機械の占める工場空間の價値は大工場に遙かに大であるといふことである。併し纖維工業の諸單純部門に於ては小工場は大工場と同じ機械を有し、又小蒸氣汽罐その他は大なるものに比し割合上高價であるから、小工場の要する固定資本は産出高の割合に大工場よりも大であり、その要する流動資本も亦た恐らく割合上大である。

右最後の利益に似たもので、大工場が、否實に殆んど如何なる種類の大企業も、殆んど常に小企業以上に持つ多くの利益がある。大企業は多量の購入を行ひ従つて安價に買ふ。それは低廉な運賃を支拂ひ、幾多の點に於て運賃を節約する。特に鐵道引入線を有する場合にさうである。大企業は往々多量の販賣を行ひ之によつて煩勞を省き、而かも同時に良い價格で販賣する。何となれば大量の貯藏品を持つことによつて顧客に便宜を與へ、顧客はこの貯藏品中から選擇して直ちに多様の註文を發することが出來、他方大企業の聲價は顧客に信任を與へるからである。大企業は商業旅行人その他の方法によつて多大の廣告費をも費すことが出來、その代理店は遠方の地に於ける營業上人事上の事項について信頼するに足る情報と與へ、その企業自身の財は互に他を廣告するのである。

同一産業或は同業に於ける多數企業は現在巨大な單獨合同體への合同に向ふ傾向を持つてゐるが、右高度に組織化された販賣購入の經濟はこの現在の傾向の重要原因であり、又獨逸のカルテル及び統一産業組合等多くの種類の企業聯合の主要原因である。小企業家に作業を出して營ませる大資本家の掌中に營業危險が集中したのも亦たこれらの經濟が促進したのである(8)。

(8) 下記第四編第十二章三を見よ。

三

次に熟練の經濟についてである。大工場は高度特化機械を使用する餘裕がある點に於て利益を持つてゐるが、以上この利益について言つた事は一々高度特化熟練にも同様に當嵌まる。大工場は被傭者の各々をして彼の爲し得る限りの最困難の作業に間斷なく從事せしめ、而かもその作業の範圍を狭く限つて長い間の習練から來る熟達と優秀性との域に達せしめ得るやうに工夫し得る。

大工場の特
化熟練の長所
いての長所

大企業或は
企業聯合體
の販賣購入
上の利益

併し分業の利益については既に十分述べたから、吾々は一工業家が多數人を雇用することによつて收める一の利益に進まう。この利益は間接的ではあるが重要なものである。

大工業家は例外的の天性的能力を持つ人を引入れて彼の作業中の最困難の部分——彼の工場の聲價が主として繋つてゐる部分——を擔任せしめる上に於て小工業家よりも遙かに良い機會を持つてゐる。之は多大の趣味と獨創性を要する業例へば室内裝飾業の如きに於て、又例外的に冴えた職人性を要する業例へば繊細な機械装置の製作業の如きに於ては、單なる手技についても時々重要である(9)。併し大多數の企業に於ては之が主たる重要性は、雇主が之によつて有能老練な人物、彼の信頼し彼を信頼する人物を拔擢して職工長とし部長とする便宜にある。かくして吾々は近代産業組織の中心問題に逢着した。即ち企業経営作業細分の利害に關する問題である。

(9) 即ちポールトンは一七七〇年當時金屬技藝工及び髓甲・石・硝子・珐瑯職工として七百人或は八百人を雇傭してゐたのであるが、その年に著作をしてかう言つてゐる！

『私は田舎から出た儘の少年の多數を優良職工に訓練し來りなほそれよりも多數を訓練しつゝある。熟練と能力との徴を見れば何時も私は彼等を勇氣づける。同様に私は歐洲の殆んど凡ゆる商業都市と通信を開き、之によつて一般需要ある粗雑品の注文を規則正しく受け、それによつて私は多數職工を雇ふことが出來、その中から精巧作業部門に適する優れた技藝工を多分に得てゐる。かくして私は勇氣づければ、精巧品のみの生産に用ふるとしては慎重を缺く程の大装置を設置し使用してゐるのである』(Smiles, Life of Boulton, p. 128.)

四

大企業主は彼の業の最廣最基本的問題のためにその全力を留保し得る。元より彼は彼の支配人事務員職工長が適材適任なることを確めておかねばならぬ。併し彼はこれ以上細目について多く自分を煩はす要はない。彼はその精神を清新明快に保つて、彼の企業の最困難最致命的な問題を考へ詰め、市場の廣大な運動及び内外時事問題の未前の結果を研究し、又如何にして彼の企業の内部外部關係の組織を改善するかを工夫する。

この作業の多くのためには小雇主は例へ能力はあつても時間がない。彼は

企業経営作業
の細分
大工業家の
利益

彼の業をかく迄廣く通觀し得ず、かく迄遠い將來を見るを得ない。彼は往々他人の指導に追隨して満足せねばならぬ。彼は彼以下の作業に彼の時間を多く費さねばならぬ。蓋し彼が兎も角成功すべきならば、彼の精神は或る點に於て高級素質を持たねばならず又創始力組織力を多分に持たねばならないのであるが、なほ彼は多くの劃一作業を営まねばならぬからである。

他方に於て小雇主は又獨特の利益を持つ。主人の目は隅々に光る。職工長或は職工の横着もなく、責任回避もなく、部と部との間に半解の用向の押問答もない。彼は簿記の多くの部分を省略し、大工場の企業に必要な煩はしい引合せ制度を殆んど全部省略する。この源泉から生ずる利益は貴金屬その他の高價原料を用ふる業に於ては非常な重要性を持つ。

又小工業家は情報を求め實驗を行ふ上に常に一大不利益を蒙らざるを得ぬとは言へ、なほこの點に於ても進歩の大勢は小工業家の側に有利である。蓋し營業知識に關する一切事項に於ては外部經濟は不斷に内部經濟に比して相對的に重要性を加へつゝあり、又新聞紙及び一切種類の同業出版物・専門出版物は

小工業家の利益

絶えず彼のためにその欲する知識——少し前迄は遠方の多くの地に高給の代理店を置く餘裕なき者の求め得なかつた知識——の多くを採出し報道しつゝある。更に企業秘密は全體に於て減少しつゝあり、企業方法上の重要改良は實驗時代を過ぎれば決して永く秘密にされてはゐない。これ亦た小工業家の利益である。工業上の變化は單なる經驗的基準に依頼すること少く科學的原理の廣汎な發達に依頼すること多くなり、これら科學的原理の發見の多くは知識のため知識を追求する研究者によつて行はれ、社會全般の利益のために速かに發表される。これ亦た彼の利益である。従つて小工業家は進歩の競走の先頭を切ることは覺えないとしても、若し知識獲得上の近代的便宜を利用するだけの時間と能力とを有するに於ては、必ずしも先頭から餘り後れるを要せぬ。併し企業の微細ながらに必要な細目を忽にせずして之を行ひ得るためには、彼は例外的に強い人間でなければならぬのは眞である。

五 大規模生産の多大の經濟を與へる生産業に於ては

營業は急速に増大することがある。但し容易に商品
品を販賣し得るときに限るが、之は往々容易でない。

大規模の生産
の多量に於ける
生産を與へる
營業に於ける
急激な増大の

農業その他の生産業に於ては、人は生産規模の増大によつて餘り多くの新經濟を收めない。これらの産業に於ては、一企業は幾代には亘らずとも幾年かに亘つて略ぼ同一の大きさを維持することが往々ある。併し生産業によつては、大企業は小企業の到底及ばぬ非常に重要な利益を持ち得るのであつて、かゝる生産業に於てはさうではない。かゝる生産業に於て進路を開拓する新工業家は、自己の精力と順應性、自己の勤勉と微小細目に關する細心とをもつて、大資本と一層高度の機械・労働特化と一層大なる營業關係とを持つ勁敵の一層廣大な經濟に對抗せねばならぬ。その後若し彼がその生産を倍加し、舊賣價と大差ない率をもつて賣り得るならば、彼は利潤を二倍以上に増加したことになるであらう。之は銀行その他拔目ない資金融通者側の彼の信用を高め、更に彼の企業を擴張するを得せしめ、更に一層の經濟を收め更に高い利潤を收めるを得せしめ、

之は更に彼の企業を擴張せしめ以下之に準じて進むであらう。かくて最初は彼の止まるを要する點は何處にも劃されてゐないかに見える。そして假りに彼の企業の擴大に伴ひ、彼の才幹が以前の小事業範圍に順應してゐた如く大事業範圍にも順應するものとし、又彼が獨創性・多能性・創始力・忍耐力・手腕・好運を非常に長年月に亘つて保持するとする。すれば彼は彼の地域の彼の生産業部門の生産全量を掌裡に收めるかも知れぬ。又彼の財の輸送も販賣も甚だしく困難でないとすれば、彼はこの地域を非常に廣く擴大して、遂には制限的獨占到近い域に達するかも知れぬ。制限的獨占とは非常に高い價格が競争生産者を招致するであらうとの考慮によつて制限を受ける獨占である。

併しこの終點に達する遙か前に、彼の才幹は衰へぬとしても精力的作業愛好の念が衰へ、之によつて彼の進歩は恐らく停止するのである。若し彼が彼自身と殆んど同じく精力的な後繼者に彼の企業を引渡し得るならば、彼の店の盛大は長續きすることもある(10)。併し彼の店が非常に急速な發展を持続するには、同一産業内に殆んど並立せぬ二つの條件の存在を要する。多くの生産業に於

ては個人生産者は彼の産出高の増加によつて多大の「内部」經濟を收め得る。又多くの他の生産業に於ては個人生産者はこの産出高を容易に販賣し得る。とは言へ彼がこの兩者を兼ね得る如き生産業は少い。そして之は一偶然的結果ではなくして殆んど一必然的結果である。

(10) この目的のための諸手段及びこれら手段の實際的限度は次章後半に論じてある。

蓋し大規模生産の經濟が第一級の重要性を持つ如き生産業の大多数に於ては、販賣は困難だからである。疑もなく重要な例外はある。例へば單純一律で莫大の量を卸賣的に販賣し得る財の場合には、生産者は一大市場全體に近づく便宜を得ることもある。併しこの種の財の大多數は土地生産物であり、その餘の殆んど總ては鋼鐵レール或はキャラコの如き單純普通品であり、それらの財が單純普通品たることその事を理由としてその生産は之を劃一作業たらしめ得るのである。従つてこれらを生産する諸産業に於ては、如何なる店も、その本作業のために略ぼ最新型の高價要具を装置せぬ限り自己の地歩を保持し得ない。他面従たる工作は補助産業をして之を營ましめ得る。要するに大工場の

販賣の容易は
大規模生産に
なるとは
經濟的生産は
多量に
歸する營業に

併し特殊品
の販賣は困
難である

收める經濟と一巨大工場の收める經濟との間には非常な大相違は残らぬものであり、大工場が小工場を驅逐する傾向は既に大いに進行し、ために最初この傾向を促進した諸力の強さを消盡して了ふ迄になつてゐるのである。

併し收穫遞増傾向が強く作用する多くの貨物は多少とも特殊品である。或るものは新欲望の創造を目指し或るものは舊欲望の新充足を目指す。或るものは特殊の趣味に適應してゐて決して巨大の市場を持ち得ない。或るものは容易に試賞し得ない美點を有し徐々に世の愛好を求めなければならぬ。總てこれらの場合には、各企業の販賣は、該企業が高價を支拂つて徐々に獲得した特定市場に事情によつて程度は違ふが一限定されるのであつて、生産そのものは經濟的に非常に急速に増大するとしても販賣はさうはならぬのである。

最後に一産業の諸條件によつて新工場が新生産經濟を迅速に收め得る場合に、これらの條件そのものが一層の新方法を用ふる一層若い工場をして右の工場を驅除せしめる。殊に大規模生産の強力な經濟が新要具・新方法の使用と結びついてゐる場合には、一工場がその隆興し得た所以の例外的精力を失へば恐

營業を迅速
に隆昌せし
める原因は
往々その衰
微を早める

らく遠からず急速に衰へ行くのであつて、大工場の全幅生命は殆んど餘り永續しないのである。

六 大商店と小商店。

他種類の
大企業の利益

大企業が小企業以上に有する利益は工業に於て著しい。何となれば既に述べた通り工業は多大の作業を一小面積に集中する特殊の便宜を持つからである。併しその以外の多くの産業に於ても大きな店が小さな店を驅逐せんとする強い傾向がある。特に小賣商業は變形されつゝあつて、小商店は日々その地歩を失ひつゝある。

先づ大小賣店が小小賣店との競争上に於て有する利益を見やう。先づ最初、大小賣店は明かに一層良好の條件で購入しその財を一層安價に輸送することが出来、又顧客の趣味に應じて一層大なる多様性を提供し得る。次に大小賣店は多大の熟練の經濟を收め小小賣店主は小工業家と同じく、少しも判断を要せぬ劃一作業に多くの時間を投ぜねばならぬに對し、大商店主は、又或る場合には

小賣商業に
於ては右は
増加しつゝ
ある

彼の大番頭さへも、判断を用ふることに全時間を投ずる。小商店は、顧客の家に財を運ぶ上に於て、顧客の數多の趣味に應じて機嫌をとる上に於て、顧客を十分個人的に知つてゐて掛賣の形式により安心して資本を貸附け得る上に於て、大小賣店に勝る便宜を持つ。これらの便宜は最近迄一般に以上の大商店の利益を壓倒してゐたのである。

現金拂の發
達により

併し近年に至つて幾多の變化が起り、これらの變化は悉く大商店の側に有利となりつゝある。掛賣の風は廢れつゝあり、小賣店主と顧客との私情關係は愈々疎隔しつゝある。右第一の變化は大いなる前進の一步である。第二の變化は或る點に於ては悲しむべきであるが、必ずしも凡ゆる點から見てもさうなのではない。蓋しこの變化は一には富裕階級の眞の自尊心が増進して、彼等が從來要求して來た平身低頭の個人的優待を今はや意とせぬに至つた事實に基くからである。更に時間は愈々貴重となつて、人々は從來の如く買物に數時間を費すを惜しみ、今は往々詳細な多種の定價表から長い注文表を書いて數分の内に用を便ずるを好むに至つた。郵便注文、小包郵便その他の便宜が増したため、

彼等は容易に之を爲し得るやうになつた。又彼等が買物に出る場合には、往々手近に電車地方鐵道があつて彼等を容易・安價に近接都市の大中心商店に運んでくれる。總てこれらの變化は、食料品業その他非常に多様な在庫品を要せぬ業に於てさへ、小商店主にとつて自己の地歩を保つことを一層困難ならしめるのである。

併し多くの商業に於ては、貨物の多様性は際限なく増加し、又今日殆んど凡ゆる社會層を通じて有害な影響を及ぼしつゝある流行の激變があるため、小商人は更に一層窮狀を加へてゐる。蓋し小商人は在庫品を十分に置いて選擇上の多様性を提供し得ず、若し流行の運動に密接に追隨して行かうとすれば彼の在庫品の一部は流行の干潮によつて坐礁して、この坐礁する部分は大商人の場合に於けるよりも大だからである。更に衣料業・家具業その他の業の若干部門に於ては機械製品が次第に安價となるため、人は近所の小製造店・小販賣店に注文して之を作らしめず、大商店から出來合品を買ふに至つた。更に大小賣店主は工業家の派遣する商業旅行人を待つに満足せず、國內・國外の主要工業地に

又一般需要品の多様性による増加による

自身出張し或は代表者を出張せしめて、往々自身と工業家との間の仲介業者を無用ならしめる。中資本を持つ洋服商は最新の布地の數百の見本を顧客に示し、又恐らく電信注文によつて客の選んだ布地を小包郵便で取寄せせる。更に婦人達は往々直接製造家から布地を買ひ、殆んど資本を持たない婦人洋服商に仕立てさせる。小小賣商は常に小修繕業に於てやゝその地歩を保つやうに見えらる。又彼等は變質性食料品の販賣に於て相當に良くその地歩を維持する。殊に労働階級相手の場合にさうである。之は一には掛賣を行ひ少額の債權を取立て得るによる。さりながら多くの商業に於ては大資本を持つ店は、一の大店舗を設けるよりは寧ろ多くの小店舗を設ける策を取る。仕入を始め、生産を有利とするときはその生産も、本部の經營の下に集中され、例外的需要に對しては本部の豫備品をもつて之に應じ、ために各支店は多額の在庫品を置く失費を省きつゝ、多大の品元を持つことゝなる。支店支配人は専ら彼の顧客に注意を注ぎ得る。若し彼が活動的人物であつて彼の支店の成功に直接の興味を持つならば、彼は小小賣店の一大勁敵となるかも知れぬ。衣料・食料品に關聯する多く

の商業に於て見る通りである。

七 運送業。鑛山と石坑。

運送業

次に吾々は、作業の性質によつて地理的位置の決定を受ける産業を考察したい。

田舎運送屋及び少数乗合馬車屋は運送業に於ける小産業の殆んど唯一の遺物である。鐵道及び電車は絶えずその大さを増大して已まず、これらの經營に要する資本は更にそれよりも早い速度をもつて増大しつゝある。一大船隊が一經營の下に集れば、迅速に且つ責任に犯せずして各地の諸港に於て商品の引渡を爲す力を持ち、この力から利益を受けるのであるが、商業の錯綜性・多様性の増大はこの利益を大ならしめつゝある。又船舶自體についても時世は大船舶の側に與してゐる。殊に旅客運送業に於てさうである(11)。その結果運送業の若干部門に於ける企業國營論は汚物排棄及び水道・瓦斯その他の事業の類似企業を除いて、如何なる他の産業に於けるよりも強いのである(12)。

(11) 一船舶の輸送力は、船舶の體積の立方に伴つて變化し、水の抵抗力は船舶の體積の平方よりは少しく早く増加する。故に噸數に對する石炭の割合は小船よりも大船に少い。なほ大船は小船よりも勞働殊に航海勞働を要することも少く、他方旅客の安全・快適は大であり船友の範圍も廣く船醫等の手當も行届く。要するに大船を容易に入れる港と港との間に大船の船腹を迅速に充すに足る船荷があれば、かゝる港の間では、小船は到底大船と競争し得ないのである。

(12) 過去百年間の大經濟變化の特徴を示すものがある。それは最初の鐵道法案が通過した際に規定を設けて、公道或は運河に於ける如く私人が鐵道上に各自の運搬具を運轉するを許したことである。當時の人々はこの案を確かに實行可能のものと期待してゐたのであるが、今日の吾々は當時如何にしてかくの如きことを期待し得たかを想像するさへ困難である。

鑛山と石坑

大鑛山・小鑛山・大石坑・小石坑の抗争は左迄著しい傾向を持つてゐない。鑛山國營の歴史は甚だ暗い陰影に満ちてゐる。蓋し鑛業企業は支配人の廉直精力と一般原理及び細目に關する判斷とに待つ所餘りに大であつて、國家官吏の良く經營し得ない所だからである。同一の理由により、小鑛山或は小石坑も、他の事情等しい限り、大鑛山・大石坑に對抗して自己の地歩を保つものと期待して先

農業の場合
は後に譲る

づいゝ。併し或る場合には、深い墾坑、機械及び交通手段開設の費用が餘りに大であつて巨大企業に非れば之を負擔し得ないのである。

農業に於ては分業は餘り行はれず、巨大規模の生産もない。蓋し所謂『大農場』も、中位の大きさの工場に集められてゐる労働の十分の一も雇傭してゐないからである。之は一には自然的原因、季節の變化及び多大の労働を一所に集中する困難に基くものであるが、一には亦た土地耕作の多様性に關聯する諸原因にも基いてゐる。よつてこれらの總てに關する論究は、後に第六編で土地に關聯して需要供給を研究する際に譲るに如くはない。

第十二章 産業組織 續論 企業經營

- 一 原始的手工業者は消費者と直接に取引した。原則として有識自由職業は今も然り。

解決すべき
諸問題

以上吾々は經營作業を考察して來たが、主として工業企業その他多大の手工労働を雇傭する企業について之を考察して來た。併し吾々は茲では企業家が盡す機能の多様性を一層細心に考察すべきである。又これら機能が一大企業の諸主腦者の間に、更に近縁生産販賣部門にあつて協同する各種企業の間、配分される状態を考察すべきである。又之に附隨して吾々の探求すべきことがある。それは少くとも工業に於ては殆んど總ての個體企業は、經營良好な限り、大きくなればなる程強固となる傾があり、従つて吾々は即決的に大工場が多く、の産業部門から小競争者を完全に驅逐し去ると期待するかも知れないが、なほ事實に於てはさうならないのは何によつてであるかといふことである。

『企業』 Business は茲では廣く解して、福利を受ける對者から直接或は間接の報酬を期待して他人のためにする一切の欲望充足資料提供を含める。即ちそれは各人が自身のために自ら行ふ充足資料準備と對照をなし、又友情・家族的愛情から出る親愛的奉仕と對照をなすものである。

原始的手工業者は彼の全企業を自ら經營した。併し彼の顧客は少數の例外はあつても近邊の隣人であり、彼は極く僅かしか資本を要せず、生産方針は慣習によつて指定されてをり、彼は自身の家計以外に於て勞働を監督しなかつたのであるから、これらの任務は左迄多くの心性的緊張を伴はなかつた。彼は決して繼續的繁榮を享受したのでなく、戦争と窮乏とは絶え間なく彼と隣人とを壓迫し彼の作業を妨害し彼の商品に對する隣人の需要を斷たしめつゝあつた。併し彼は好運と非運とを恰かも快晴と雨天との如く、彼の力に及ばぬものと見るに傾いた。彼の指は營々として作業を續けた。併し彼の頭腦は殆んど倦まなかつたのである。

近代英蘭に於てさへ、村の技術工が原始的方法を固執し自己の計算に於て隣

原始的手工業者は消費取引した

原則として

有識自由職業は今も然り

人への販賣物を作り自身の企業を經營し企業は一切危険を負擔するのを時々見ることがある。併しかゝる場合は稀である。舊式企業方法固執の最も著しい例を示すのは有識自由職業である。蓋し醫師或は辯護士は原則として自身の企業を經營し企業は一切作業を行ふからである。この制には不利益がないではない。一流能力を持つ若干自由職業者は營業關係を築くに要する特殊の才がないため、多くの貴重な活動を空費するか或は之を極く僅かしか役立てゝゝゝない。若し仲介者のやうな者があつて彼等の作業を斡旋してやつたならば、彼等は一層の報酬を受け、一層幸福な生活を送り、世界のために一層の良奉仕を致すであらう。併しなほ大體に於て恐らく現に在る如き状態が最善である。彼等の奉仕は最高・最微妙の心性的素質を要するものであり、完全な對人信用があつて初めて全幅の價値を持ち得るものであつて、世間一般の本能はかゝる奉仕の供給に仲介者が侵入することを歓迎しないが、この本能の背後には健實な理由が存するのである。

併し技にさ

さりながら英吉利辯護士は、傭主或は企業者 undertaker の任は勤めずとも、なほ

へ例外がある

最苦痛の心性的緊張をもつて作業する最高層法職部門を雇ふ媒介者の任を勤める。更に青年教育者の多くは消費者に直接彼等の奉仕を賣らず、大學或は學校管理團體に對し或は消費者の購入を斡旋する校長に對して之を賣る。傭主は教師に對して彼の勞働の市場を供給し、又自身良判斷を下し得ない購入者に對してはその供給する教育の品質について一種の保障を與へるものと推定されてゐる。

更に各種の藝術家は如何なる傑出者であつても、往々何人かを使つて顧客との間を斡旋せしめるを利とする。他方それ程有名でない者は生きるために時に資本家的商人に依頼する。これら商人は自身藝術家ではないが如何にして藝術作品を賣るかを理解してゐる者である。

二 併し大多數の企業に於ては企業者といふ特殊階級の奉仕が介在する。

大多數の企

併し近代世界の企業の大部分に於ては、生産指導の任務—一定努力をもつて

企業に於ては、
企業者といふ
特殊階級に
奉仕が介在
する。

最も有効に人間欲望の充足資料を供給するやう生産を指導する任務—は分裂して、雇主或は一層一般的の用語を用ふれば企業家といふ特化集合體の掌中に歸してゐる。彼等は生産危険を『冒し』adventure 即ち『負擔』undertake する。彼等は作業に要する資本と勞働とを結合する。彼等はその一般方針を配慮し或は『規制』し、微細の細目を監督する。企業家を一視點から見れば、吾々は彼等を高度熟練産業等級と見てよく、他の一視點から見れば手工勞働者と消費者との間に介在する仲介者と見ていい。

若干種類の企業家は、多大の危険を負担し取引商品の生産者・消費者双方の福祉に多大の影響を及ぼしながらも、別に著しい程度に勞働の直接雇主とはなつてゐない。これらの種類の極端型は株式取引所或は物産取引所の取引商である。彼等の日々の賣買高は巨額であるが、なほ工場も倉庫も持たず、高々一事務所に二三の事務員を使用するに過ぎない。さりながら投機業者の行爲の良結果と惡結果とは非常に複雑である。吾々は今は、企業行政を最も重大とし微妙な投機形態を最も不必要とする企業形態のみに注意を注ぎたい。そこで一層

普通な企業型の若干例解を用ひて、危険負擔とその餘の企業家作業との關係を注視しやう。

三 主要企業危険は建築業その他若干生産業に於ては時に細目經營作業と分裂してゐる。雇主たらざる企業者。

建築による例解

建築業は吾々の目的に良く適するであらう。その理由は一には建築業が或る點に於て原始的企業方法を固執してゐることにある。中世末期に於ては一人が頭梁の助力を借りずに自身で住宅を建てることは極めて普通であつた。この風は今日に於てさへ全然消滅してはゐない。自身建築を企てる者は個々別々に一切職人を雇用せねばならぬ。彼は彼等を監視し彼等の賃銀支拂請求を附合せなければならぬ。彼は幾多の方面から材料を買はねばならぬ。彼は高價機械を賃借し或は之を解約せねばならぬ。彼は恐らく現行賃銀以上を支拂ふが、茲では彼の失ふ所は他の利する所である。さりながら彼は時間を非常

に空費する。彼は不完全な知識をもつて労働者と契約し彼等の作業を吟味し指揮するに費す時間を空費し、更に彼が各種材料の如何なる種類數量を要し何處に之を最も有利に求めるかその他を見出すに費す時間を空費する。この空費を避けるには細目監督の任務を専門建築業者に委ね、設計の任務を専門設計者に委ねる分業によるのである。

主要企業危険は建築業に於ては建築業の經營に於ては、時間的分裂してゐる。家屋がそこに往むべき人の失費によつて建築されず建築投機として建築される場合には、この分業は往々更に一層行はれる。之が例へば、新郊外地開設の如く大規模に行はれる場合には、賭けられた賞金は非常に大となつて有力な資本家を引付ける。これら資本家は非常に高級な一般企業能力を持つてはゐるが、恐らく建築業上の専門知識を多く持つてゐない。彼等は各種の家屋に對する將來の需要供給關係が何うなるかを判定するには自身の判断に依頼するが、細目の經營は之を他人に委ねる。彼等は設計者測量技師を雇傭して彼等の一般指揮に従つて設計せしめ、後この設計を實現するために専門建築業者と契約を結ぶ。併し彼等は該企業的主要危険を自身負擔しその一般方向を管理する。

四

織維業に於ても

良く人の知る通り、この責任分割は大工場時代の始まる直前に羊毛業に行はれた。購入、販賣上の投機的作業と廣大な危険とは企業者によつて分擔され、これら企業者は自身勞働の雇主ではなかつた。之に對して監督上の細目作業と確定契約履行上の狭小の危険とは小頭梁によつて分擔された⁽¹⁾。この制は依然織維業の若干部門に廣く行はれてゐる。殊に將來の豫測が非常に困難な部門に於てさうである。マンチエスター卸取引商は流行の運動、原料市場、財界貨幣市場、政治の一般状態その他來るべき季節に各種の財の價格に影響すべき一切原因の研究に専心する。必要あらば恰かも前の場合の建築投機業者が設計者を雇傭した如く、熟練意匠家を雇傭して自家の着想を履行せしめた後、如何なる財に資本を賭するかを決定し、これらの財の製作契約を世界の各部分の工業家に分けて出すのである。

(1) 第一附録一三参照。

家内工業に於ても

衣料業に於ては吾々は殊に『家内工業』house industryと呼ばれて久しい以前に織維業に行はれてゐたものゝ復活を見る。家内工業とは即ち大企業者が仕事を出して小屋及び極小工作場で仕事を爲さしめ、仕事を受けた者は單獨に或は二三家族員の助力を借りて作業し、或は恐らく二三の雇用助工を雇つて作業する制度である⁽²⁾。英蘭の殆んど凡ゆる郡の片田舎の村落には大企業者の代理者が巡回して來て、一切種類の財殊にシャツ・カラー、手袋等の衣料類の半製材料を小屋に配布し、完製品を受取つて歸る。さりながらこの制度が最も全幅的に發達したのは、世界の大都市、殊に古い都市—そこには性質、徳性や、劣等な多数の不熟練無組織勞働がある—に於てであつて、殊に衣料業—それは倫敦のみに於ても二十萬の人を雇傭してゐる—と安價家具業に於てである。工場制度 factory system と家内制度 domestic system との間には絶え間ない争闘があつて、時には一が強き時には他が強い。例へば丁度現在に於ては蒸氣動力によるミシンの使用が發達しつゝあるため製靴業に於ける工場の他位は強固となりつゝあり、他方工場と工作場とは裁縫業上に愈々地歩を固めつゝある。

他面に於て莫大小業は手編機械の近時の改良によつて家内工業に逆戻りしつゝあり、又瓦斯・石油・電気・エンジンによる新動力分配方法が他の多くの産業に同様の影響を及ぼすことも可能である。

(2) 獨逸經濟學者は之を『工場的』(Fabrikmässig)家内工業と呼び、『國民的』家内工業と區別する。後者は他の作業の餘暇(殊に冬季閑農期)を用ひて織維品その他の財を出す補助作業を營むものである。(シェーンベルン Schönböck の Emdlnuch 中氏の擔當項目 Gewerbe を見よ)。この後者の種類の家内工業者は中世に於ては歐洲全土に普通であつたが今日は山間及び東部歐洲を除いては稀にならうとしてゐる。彼等は作業の選擇に當つて常に必ずしも事情に通ぜず、その作る物の多くは工場に於て遙かに少い勞働により一層良く作り得る。ためにその物は一般市場に於て之を有利に販賣し得ない。併し彼等は大部分自用のため或は隣人用のために作るのであつて、之により幾多仲介者の利潤を節約するのである。ゴンナーの論文 Gonner, Survival of domestic industries (Economic Journal, Vol. II.) 參照。

或は兩者の中間に立つ制に向つて進む運動のあることがある。即ち主にシェフィールドの工業に採用されてゐる制に似たものである。例へば多くの双物工場はその作業の中の研ぎその他の部分を出來高價格をもつて勞働者に依

シェフィールドの工業に於ても

水運業に於ても

書籍出版業その他に於ても然り

この制には利益がある

併し悪用さ

頼し、これら勞働者は契約元たる工場から或はその以外の所から所要の蒸氣動力を賃借する。彼等は時には助工を雇傭し時には單獨で作業するのである。

更に外國商人は往々自家船舶を持たず、たゞ貿易趨勢の研究に心を潜め、自身その主要危険を冒し、他方彼の運送は之を他の人に爲さしめる。この後者は彼よりも一層の經營能力を要するが、彼程に貿易上の微妙な運動を豫測する力量を必要とせぬ者である。尤もこの者も船舶購入者としては獨特の重大・至難の營業危険を持つてゐるのは眞である。更に書籍出版の廣大な危険は出版者が恐らく著者と共同で之を負擔する。他方印刷業者は勞働の雇主であつてその企業に要する高價な活字・機械を供給する。之にやゝ似た制は金屬工業及び家具・衣料その他の供給業の多くの部門に於て採用されてゐる。

かくの如く購入・販賣上の主要危険を負擔する者は、彼等のために作業する者に住宅を與へ監督を加へる煩勞を多くの途によつて避けてゐる。これの途は總てそれぞれ利益を持つ。勞働者がシェフィールドに於ける如く、強固な性格を持つ場合には、その結果は大體に於て不満足ではない。併し不幸にして、この

種の作業に流入する者は往々労働者中の最弱階級であつて、資力最も少く自尊心最も少い者である。この制度の弾力性は企業者がこの制度を歓迎する所以ではあるが、實はこの弾力性を手段として企業者は彼の作業を營む者の上に望ましからぬ壓迫を加へやうと思へば加へ得るのである。

蓋し一工場の成功は大部分この工場に着實に固着する一團の職工を持つことに繋つてゐるに對し、自宅作業者に仕事を出す資本家は多數の人々を帳面に控へて置くのを利益とするからである。資本家は各自宅作業者に時々僅かの仕事を與へ彼等を操つて互に競争せしめたくなるのである。彼は之を容易に行ふことが出来る。何となれば彼等は互に相識つてをらず一致行爲を採ることが出来ないからである。

五 理想的工業家に要する諸才幹。

數多の別種
的機能は理
想的工業家
によつて兼

人が企業利潤 *profits of business* を論ずる際には、その利潤は人の心中に於て一般に労働の雇主と結び付いてゐる。「雇主」は往々企業利潤收得者と同範圍の

備されてゐる

用語と解せられてゐる。併し右に考察した諸例は次の眞理を例解するに十分である。即ち労働の監督は企業任務の一面に過ぎず往々最重要の一面でないことがあること、及び自己の企業の全危険を負担する雇主は、實質に於て社會共同體のために全然別個の二つの奉仕を致し二重の能力を要するものであることこれである。

彼に要する
諸才幹

既に述べた部類の考察に歸る(第四編第十一章四・五)。特殊註文に應ずるためでなく一般市場に向つて財を作る工業家は、商人及び生産組織者としての職の第一の職分上、彼自身の業に於ける物について徹底的知識を持たねばならぬ。彼は生産・消費の廣大な運動を豫測する力量を持たねばならず、實質的欲望に應ずる新貨物を供給する機會或は舊貨物生産方針を改善する機會の所在を察知する力量を持たねばならぬ。彼は周到に判斷し大膽勇敢に危険を負担し得なければならぬ。又彼は勿論彼の業に用ふる材料・機械を理解してをらねばならぬ。

併し第二に彼はこの雇主としての職分上、人間の天性的指導者でなければならぬ。

らぬ。彼は先づ助手を正しく人選し、後之を全幅的に信頼する力量を持たねばならぬ。彼は助手をしてその企業に興味を持たしめ、彼を信頼せしめ、苟くも彼等の裡に在る限りの敢爲心、創始力を引出す力量を持たねばならぬ。他方彼は自身一切事項について一般管理を行ひ、主要企業方針の秩序と統一とを維持して行く。

理想的雇主たるに要する能力は甚だ大であり、多數であつて、その總てを非常に高い程度に於て發揮し得る人は極めて稀である。さりながらこれら能力の相對的重要性は産業の本質と企業の大さとによつて同じくない。他方雇主によつて何れの素質に秀でゐるかも同じくない。二人の雇主がその成功を全然同じ長所の組合せに負ふといふことは殆んどない。或る者は高貴な素質以外には何も用ひずに成功するに對し、或る者は敏捷及び目的固執性以外實質上殆んど賞讃に價せぬ素質によつて隆昌する。

企業經營作業の一般本質は即ちかくの如きものである。吾々は次に各種階級の人々が企業能力伸張上に如何なる機會を持つか、又これらの人々が企業能

企業能力の
供給は企業
經營形態に
關聯して論

じていゝ

力を得た場合に之が發揮に要する資本支配力を得る上に如何なる機會を持つかを究めなければならぬ。かくて吾々は本章の初めに述べておいた問題にやゝ近いて、或る營業の數代に亘る發展の道程を検したい。この研究は便宜上、各種の企業經營形態の検討と結び付けていゝ。今迄吾々は殆んど排他的に一の形態のみを考察して來た。その形態とは全責任と全管理とが單獨個人の掌中に在るものである。併しこの形態は他の形態に壓倒されつゝある。この後者の形態に於ては最高權能は數人の共同出資者の間に配分され、或は多數株主の間にさへ配分されてゐる。私的共同出資體と株式會社協同組合と公共團體とは企業經營上に愈々多く參加して已まない。その主な理由の一は、これらが優秀企業能力を持ちつゝも多大の企業機會を相續してゐない人々を引付ける活躍地を供することにある。

六 企業家の子は多くの利益を持つて發足するため、企業家は世襲階級を作ると期待する人があるかも知

れぬ。この結果が生ぜぬ理由。

企業家の足
は良い発
点を持つ

既に企業に成功してゐる者の子が他の者以上の多大の利益を持つて發足するは明白である。彼は若い時から父の企業の經營に要する知識を獲得し才能を養ふ特殊の便宜を持つ。彼は父の業及び之と賣買關係を持つ業に於ける人間と態度とについて私かに又殆んど無意識に學ぶ。彼は父の精神を滿す多様の問題と心痛との相對的重要性と實質的意義とを知得する。彼はその業の過程と機械とについて専門知識を得る(3)。彼の學ぶものゝ一部は父の業以外には適用されぬであらう。併しその大部分は何れかの點に於てその業と近縁な業ならば如何なる業にも役立つであらう。他方判斷と智略、敢爲心と周到、頑強と禮讓の一般才幹は一業の大局を管理する程の者との接觸によつて訓練されるものであつて、殆んど如何なる他の業の經營にも彼を適せしめるに與つて力あるであらう。なほ成功企業家の子は、天性と教育とによつて企業忌避者となり企業不適任者となつた者を除き、殆んど何人も及ばぬ多大の物質的資本を持つて發足する。若し彼等が父の業を繼續するならば、彼等は確立した營業關係といふ地の利を持つのである。

(3) 工業家の子の中には、工場内に營まれる殆んど凡ゆる重要工作を十分に實習し、後年に至つて彼等の一切被備者の困難を察し被備者の作業について公平な判斷を下し得るやうにしてゐる者がある。既に述べた通り之は近代に於ける殆んど唯一の完全な徒弟制度である。

從つて企業家は一種の世襲階級を形成し、その子供達の間には主要な支配的地位を配分して傳承的王朝を建設し、この王朝は數代に亘つて或る生産業部門に君臨するかとも一見した所思はれるであらう。併し實際の状態は甚だ違ふのである。蓋し或る人が一大企業を興した場合にも、彼の子孫は、多大の利益を持つに拘らず同等成功を續けてこの企業を營むに要する高級才幹と特殊心情及び氣質とを發展せしめぬことが往々だからである。彼自身は恐らく強固な熱心な性格を持つ兩親の養育を受け、兩親の人格的感化により若年の頃の苦闘によつて教育された。併し彼の子供達、兎も角彼が富裕になつてから生れてゐる

併し企業家
は世襲階級
を作らぬ何
とすれば彼
等の能力と
趣味とは常
に必ずしも
承されぬも
か承されぬ

小供達及び如何なる場合にもその孫は、恐らく多く召使の養育に放任され、これらの召使は彼の教育に感化を及ぼした兩親程の強固な性格を持つてゐない。又彼の最高抱負は恐らく企業成功にあつたのに對し、彼の子孫は社會的或は科學的名譽に對しても少くも同等に執念するのである(4)。

(4) 最近に至る迄英蘭には常に學術的研究と企業との間に一種の敵對關係があつた。之は吾國の大きな諸大學の精神の廣大化と吾國主要企業中心地に於ける大學の發達とによつて今日は減じつゝある。企業家の子は大學に送られても一代以前程には父の業を忌避するに至らない。中には元より科學知識促進の希望によつて企業から拔去られて了う者も多い。併し心性的活動の高級形式即ちたゞ單に批判的たらずして構成的な形式は、正當に營まれる企業作業の高貴性を正しく尊重せしめやうとする傾がある。

元より暫くの間は總てが順調に進む。彼の子供達は堅固に確立した營業關係を持ち、又恐らく之よりも一層重要ことであるが、その企業に深い興味を持つ部下を持つてゐる。彼等は單なる勤勉と周到とさへあれば、店の傳統を奉じて長く協力して行くかも知れぬ。併し人生一代を経たとき、古い傳統がもはや安

全な指導者でなくなつたとき、又舊幹部を協力せしめた結束が破れたとき、その時はその企業の没落は殆んど避け難いのである。その間に新人が店の共同社員に引上げられてこの新人に實際上經營が移つてゐない限りさうなるのである。

併し大多數の場合には彼の子孫は一層近い徑路を辿つてこの結果に到達する。彼等は努力なくして入り来る所得を望み、單に不斷の勞苦と苦心によつてその二倍の所得が得られても之を採らない。彼等はその企業を個人或は株式會社に賣り渡す。或は彼等はその匿名社員となる。それは危険と利潤への參與ではあるが、その經營への參與ではない。何れの場合に於ても彼等の資本に對する業務擔當的支配權は主として新人の掌裡に歸するのである。

七 私的共同出資體。

一企業の精力を更新する最古・最單純の方案はその最有能被備者中の若干を拔擢して共同社員に加へる方案である。大工場或は大商店の專制的所有者及

暫くの後には、何等かの理由によつて、彼等は、その企業を個人或は株式會社に賣り渡す。或は彼等はその匿名社員となる。それは危険と利潤への參與ではあるが、その經營への參與ではない。何れの場合に於ても彼等の資本に對する業務擔當的支配權は主として新人の掌裡に歸するのである。

私的共同出資體による方法

支配人は、年を経ると共に、彼の主な部下に愈々多くの責任を嫁さねばならぬを知る。その理由は一には營むべき作業が愈々多くなることにあり、一には彼自身の強力性が従前よりも衰へるのにある。彼は依然最高管理権を行ふが、多くの事は部下の精力と廉直とに依頼せねばならぬ。そこで若し彼の子供達が十分成長してゐないか或は何等か他の理由によつて彼の双肩に懸る負擔を軽減し得ないならば、彼はその依頼する助手の一人を共同社員に引上げることには決する。かくて彼は自己の勞働を軽減する。それと同時に彼は彼の子飼の者——彼はこの者の習性を成型しこの者に對して恐らく恰かも父にも似た愛情を感じてゐる——によつて自己の生涯の事業が繼續されて行くとの安心を得るのである(5)。

(5) 最も幸福な生活ロマンズの多く、即ち中世から今日に至る迄の英吉利社會史上玩味して最も快いものゝ多くは、この種類の私的共同出資體の物語に關聯してゐる。多くの物語詩と物語とは、忠實な徒弟の諸困難と終極の勝利とを物語り、これらの徒弟が恐らく雇主の娘と結婚して遂に共同社員に引上げられたことを語つてゐるが、これらの物語詩と物語との感化により幾多の青年は發奮して勇ましい生涯に入つ

たのである。かくの如くして志ある青年の目標を形作るよりも深い感化を國民性格に及ぼすものは他にはないのである。

併し之よりも一層對當の關係に基く私的共同出資體が今も存し又常に存してゐた。それは略ぼ同じ富と能力とを持つ二三の人が資力を結合して困難な大企業に當るのである。かかる場合には往々經營作業の截然たる分裂がある。例へば工業に於ては甲社員は時に殆んど原料購入製品販賣の作業のみを専ら行ひ、乙社員は工場經營の責任を帯びる。又商店に於ては甲社員は卸賣部を乙は小賣部を管理するであらう。以上その他の途によつて私的共同出資體は非常に多様な問題に順應することが出来る。それは非常に強固であり非常に彈力的である。それは過去に於て重大な役割を勤めたものであり、今日も全幅の生命力を現してゐる。

八 株式會社。政府企業。

株式會社に

併し中世末期から現時に至る迄、若干種の生産業に於て公的株式會社 public

株主は危険を負擔する

取締役は支配人を取締る

支配人は細

joint-stock company と私會社 private company に代用せんとする運動があつた。前者の株式は公開市場に於て何人にも賣り得るものであり、後者の持分は一切關係者の許諾なくしては讓渡し得ぬものである。この變化の結果は、多くは特殊の營業知識を持たぬ人々を誘つて彼等の資本を彼等の雇傭する他人の掌裡に委ねしめた。かくて企業經營作業の多様の部分の新分擔が起つたのである。

株式會社の負ふ危険の終極負擔者は株主である。併し株主は原則として企業の規劃とその一般政策の管理とに業務擔當的に參與せず細目の監督には一切參與せぬ。その企業が一旦創立發起人の手を離れた後は、會社の管理は主として取締役の掌中に委ねられる。取締役は若しその會社が巨大であれば、恐らく全株式中の極小部分しか所有せず、又彼等の大部分は會社作業について深い専門知識を持つてはゐない。彼等は一般に彼等の全時間をこの會社に傾注するものとは期待されてゐない。併し彼等は廣い一般知識と健實な判斷とをもつて會社の政策上の廣大な諸問題に望み、同時に會社「支配人」が徹底的に職務を行ひつゝあるかを確かめて萬全を期するものと推定されてゐる(6)。支配

目を監督する

人及びその助手は企業規劃作業の大部分と監督作業の全部とに任ずるが、何等の資本をも出資するを要せぬものとされてをり、熱心と能力とに應じて下級の地位から上級に引上げられたものと推定されてゐる。英王國內の株式會社は國內で營まれる一切種類の企業の非常な大部分を營んでゐるから、企業經營の天性的才能を持ちつゝも何等の物質的資本或は營業關係をも相續しなかつた人々に對し株式會社は絶大の機會を提供する。

(6) バチオットの好んで論ずる所によると(例へば English Constitution, ch. VII を見よ)内閣大臣は彼の省の事務に關する専門知識の缺如により反つて往々利益する。蓋し彼は細目事項については常任書記官その他の吏員から報道を求めることが出來、又彼は彼等が得意とする事項については恐らく自身の判斷を捨て、彼等の判斷に従ひつゝも、彼の偏せぬ常識は公共政策上の廣汎な問題に於ける御役所風の傳統を征服するからである。同様に一會社の利益は、その企業の細目について最も知識を持たぬ取締役によつて時に最も増進され得るのである。

九

危険負擔者
は常に必ず
しも企業經
營の良否を
判断し得ぬ

株式會社は多大の弾力性を持ち、その目指す作業が廣大な活躍地を提供する場合には、無制限に擴大し得るものであり、殆んど一切方面に向つて勢を逞しくしつゝある。併し株式會社は弱點の一大源泉を持つ。それはその主要危険を負擔する株主側がその企業について十分の知識を缺いてゐることにある。大私會社の主腦者が企業的主要危険を負擔し、他方彼が細目事項の多くを他人に一任するは眞である。併し彼は部下が忠實慎重に彼の利益に仕へるか否かについて直接判断を下す力を持ち、この力によつて彼の地位は確保されてゐるのである。若し財の購入或は販賣を委任しある者が、相手取引者から媒介料金を取るやうなことがあれば、彼はこの瞞着を摘發處罰する地位にある。若し彼等が情實主義を現し自身の無能な親戚或は友人を重用するならば、或は若し彼等自身が怠慢になつて職を空しくするならば、或は若し彼等が初め例外的能力を持つ故をもつて重用されながらこの能力を現さぬことがあつてさへも、彼はその非を發見し之を匡正し得るのである。

併しこれら總ての點に於て株式會社の株主といふ大團體は、少數の例外の場合

この制度は

近代企業道
徳の發達に
よつてのみ
運用し得る

合を徐く外殆んど無力である。尤も大株主中の少數者は往々努めて會社の情勢を觀破し、之によつて企業的一般經營上に有效賢明な管理を行ひ得る。大株式會社の主腦役員が彼等の途上に横はる瞞着の非常な誘惑に陥ることが極めて少いのは、商事上の正直方正の精神の近時に於ける驚く可き發達を有力に證明するものである。若し彼等が不正行爲を行ふ機會を利用せんとして、初期文明の商業史で吾々が讀むやうな状態に近づきでもすれば、彼等がその受ける信任の悪用は非常に大規模になつてこの民主的企業形態の發達を阻止する程度になつてゐたであらう。吾々は次の點を希望する凡ゆる理由を持つ。即ち營業道德の進歩は、過去に於ける如く將來に於ても營業秘密の減少と凡ゆる形式に於ける公開性の發達とに助けられて續いて行くであらうし、かくて共同的民主的企業經營形態は從來失敗した幾多の方向に向つて安全に廣まり得るであらうし、又出生の利益を持たぬ者の運命開拓上に既に致して來た多大の奉仕を遙かに凌駕する功績を致すかも知れぬ。

政府企業

帝國政府、地方政府企業についても同様に言つていゝ。彼等も亦た多大の前

官僚的方法
の社會的危
禍

途を持つてゐることがある。併し現時迄では終極危険を負担する納税者は實效ある企業管理を行ふ上に一般に成功せず、私人企業に於けると同じ精力敢爲心をもつて作業に當る官公吏を得る上にも成功しなかつた。

さりながら政府企業の問題も大株式會社行政の問題も多くの複雑な論點を包含して茲に之を説き得ない。これらの問題は切迫的である。何となれば巨大企業は恐らく通常想像されてゐる程速かに増加してゐないにしても、近時速かに増加したからである。この變化は主として巨大資本なくしては營み難い工業・鑛山業・運輸業・銀行業に於ける過程方法の發達により、又市場の範圍機能と大量財取扱上の技術的便宜との増進によつて起つたものである。政府企業に存する民主的要素は最初は誠に生き生きとしてゐた。併し經驗の示す所によれば企業技術上及び企業組織上の創造的着想と實驗とは政府企業に於ては極めて稀であつて、私人企業に於ても長年月を経て大きくなつた結果官僚的方法に墮した企業には餘り普通でない。かくて小企業の活潑な自發性の活躍地たる産業分野は狭められて新たな一危険が生じつゝあるのである。

トラストと
カルテル

一切物の最大規模生産は主として北米合衆國に見られる。そこでは獨占的色彩を帯びた巨人的企業は通常『トラスト』と呼ばれてゐる。これらトラストの若干は一本の根から發達した。併しその大多數は多くの獨立企業の合併によつて發達し來つたものであつて、この合同に向ふ第一歩は一般にやゝ不堅固な聯合、即ち獨逸語を用ふれば「カルテル」であつた。

一〇 協同組合。利潤分配。

理想的形態
に於ける協
同組合は

協同組合制度は右二つの企業經營方法の弊害を避けることを目指してゐる。協同組合 co-operative society の理想的形態は今なほ多くの人によつて溺愛的に希望されてゐるのであるが、未だ實際上には極く僅かしか實現されてゐないのであつて、この理想的形態に於ては企業危険の負擔者たる株主の一部或は全部は彼等自身該企業に雇傭されるのである。被傭者はその企業の物質的資本を出資すると否とを問はず、その利潤の配當に參與し又總會に於ける若干投票權を持ち、この總會は企業政策の大綱を定めこの政策を實現する役員を任命する。

株式會社の
主要危険を
避けること
がある

即ち彼等は彼等自身の支配人・職工長の雇主であり主人である。彼等は産業規劃の高級作業が正直有效に行はれてゐるか否かを判断する相當の良手段を持ち、又その細目行政上の紀綱弛緩及び無能を探出する絶好の機會を持つ。最後に彼等は他の店に於て必要とする監督上の細目作業の若干を不要ならしめる。蓋し彼等は彼等自身の企業の成功に自身の金銭的利害と誇りとを持つのであつて、之によつて彼等は各々自身或は同僚労働者の職務怠慢を嫌ふやうになるからである。

それは企業
の任務を
上
の諸困難を
持つ

併し不幸この制度は特有の重大な困難を持つ。蓋し人間本性の現状に於ては、被備者自身常に必ずしも彼等自身の職工長或は支配人の絶好の主人ではないからである。叱責は嫉妬と不機嫌とを招き、之は複雑な大機械の軸承の油に混入する砂のやうに作用し易い。企業經營の最重任は一般に最も見榮のしなものである。手をもつて作業する者は企業規劃の最高作業に伴ふ緊張の強度を輕視し易く、之に對して他の企業に於けると略ぼ同様の高い報酬を與へることを惜しむ。事實に於て協同組合支配人は、生殘競争によつて淘汰された人

々、私人企業自由無掣肘の責任によつて訓練された人々中の最有能者が持つ敏速發明力變通力を持つこと稀である。一にはこの理由によつて協同組合制度はその全體性に於て實現されたこと殆んどなく、その部分的應用も労働者消費貨物の小賣の場合を除いて未だ著しい成功を收めてゐない。併し最近數年間に至り純眞な生産組合 *Productive associations or "co-partnership"* 成功の有望な兆候が現れて來た。

元より労働者中には強い個人主義的氣質を持ち精神が殆んど全く自己一身の事のみ集中してゐる者がある。かゝる労働者は小獨立「企業者」として企業を始めるにより或は私會社或は公會社に入つて地位を高めるによつて、恐らく常に最も速かな最も適當な物質的成功への途を見出すであらう。併し労働者中には社會的要素の方が強い氣質を持ち舊同僚と離れるを欲せぬながら彼等の指導者として彼等と共に作業したいと欲する者がある。かゝる労働者にとつては協同組合は特殊の魅力を持つ。協同組合の持つ憧憬は或る點に於てはその實際以上に高いこともあるが、この憧憬は疑もなく著しく倫理的動機

併しこれら
の困難の一
部の償つて
も發達する
ことある

に基いてゐる。真正の協同組合員は鋭い企業的知性と熱烈な信念に満ちた精神とを兼備する。若干の産業組合は心性的にも徳性的にも大天才を持つ人々によつて良好に営まれて来た。これらの人々は彼等の内にある組合的信念のために多大の能力と精力とをもつて又完全な方正を持つて盡瘁し、自己の計算に於て或は私會社に入つて企業支配人として受け得るよりも低い報酬に常に満足してゐる。この型の人物は他の職業に於けるよりも協同組合の役員中に一層普通である。尤も組合役員中に於てさへ彼等は非常に普通なのではないが、なほ真正の協同組合主義についての知識の深化普及と一般教育の増進とは、協同組合員中企業經營上の複雑な諸問題の處理に適する者を日に増加せしめつゝあるものと希望してゐるのである。

利潤分配

同時に協同組合主義の幾多の部分的應用は多様の條件の下に試みられつゝあつて、何れも企業經營の若干新生面を開いてゐる。即ち利潤分配案の下に於ては、私會社は無掣肘の企業經營を営みつゝ被傭者に對しては至幅市場貸銀率―時間拂によると出來高拂によるとを問はぬ―を支拂ひ、なほその上に規定最低額以上に得られた利潤の若干分を彼等に配當することを約する。之によつて會社は、軋轢を減少する上に、被傭者が比較的會社の大利益となる事以外に走らしめぬ心掛を強める上に、又最後には平均能力平均精勵以上の労働者を會社に引付ける上に於て、精神的報償のみならず物質的報償をも得ることを希望するのである(7)。

(7) Schloss, Methods of Industrial Remuneration 及 Gilman, A dividend to Labour 參照。

部分的協同組合

もう一つの部分的協同組合案は若干のオルダム Oldham 綿絲工場の場合である。これらの工場は實質は株式會社であるが、その株主中には斯業について特殊知識を持つ多數労働者がある。尤も彼等は彼等が部分的共有者となつてゐる工場に雇傭されるのを往々好まぬ風がある。又もう一つの案は消費組合といふ主腦體がその代理者たる協同卸賣組合を通じて生産機關を所有する案である。蘇格蘭卸賣組合に於ては労働者は労働者として工場の經營に若干參與しその利潤の分配に參與してゐるが、英吉利卸賣組合に於てはさうでない。

後の研究階梯に於て、吾々はこれら一切の多様の協同組合半協同組合的企業

形態を一層詳細に研究し、卸賣・小賣・農業・工業・商業等の各種企業に於けるその成功失敗の原因を探求しなければならぬ。併し今は吾々はこの探求をこれ以上續けてはならぬ。

將來の希望

既に述べた所は十分次のことを示してゐる。即ち世界は今漸く協同組合運動の高級作業に用意され始めたのみであり、従つてその多數の諸形態は過去に於けるよりも將來に於て一層成功を收めるものと當然期待してよく、又労働者に對して企業經營作業實習の好機會を提供し、他人の信頼と信任とを得て、漸次その企業能力を發揮する地位に進むものと當然期待してゐるのである。

- 一一 労働者地位上進の機會。彼は一見して思ふ程彼の資本の缺乏に妨げられぬ。蓋し貸附資金は急速に増加しつゝあるからである。併し企業の複雑性の増大は彼に不利益である。

労働者の地

労働者がその企業能力を全幅的に發揮し得る地位に上進する困難を言ふ際

位上進は一見思ふ程は、彼に乏しき資本の缺乏に妨げられぬ。

には、通常彼の資本の缺乏が主として力説されるが、之は常に必ずしも主要困難ではない。例へば協同分配組合は巨額の資本を蓄積して、この資本に高い利率を得るに困難を感ずる程になつてをり、これらの組合は困難な企業問題を處理する力量を示し得る労働者團に悦んでこの資本を貸すであらう。協同組合者は第一に高級の企業能力と廉直性を持ち、第二にこれらの素質が仲間の間の非常な聲望となつてこの聲望といふ「人格的資本」(personal capital)を持つに於ては、大企業のための十分な物質的資本支配力を得るに少しも困難を感ぜぬであらう。眞實の困難はこれらの非凡素質を持つことを周囲の多數者に信任せしめる點にある。一個人が企業開始に要する資本を通常の資金融通法で借受けやうと努める場合も之と餘り違はぬのである。

殆んど凡ゆる企業に於て有利な企業開始に要する資本額が増大して已まないのである。併し所有資本の自用を欲せぬ人々によつて所有されてゐる資本は之よりも遙かに急速に増加してゐる。これらの人々はこの資本の貸附口を熱心に求めるの餘り、利率が絶えず低くなつても之に甘んずるのである。

蓋し貸附資本は増加し、高金は於て求められぬ。雇用の熱心さが加はる。於ては熱心さが加はる。於ては熱心さが加はる。

この資本の多くは銀行の手に入り、銀行は企業能力と正直とについて信用をおく者に迅速に之を貸附ける。なほ多くの企業に於ては所要原料或は購入品を供給する者から信用を與へられるが、この信用は言ふ迄もなく、直接借入の機会も今は極めて多く、資本善用の聲望を得るといふ最初の困難に一度打克つた者にとつては、企業開始に要する資本額の中位の増加は何等重大な障害とはならぬ程なのである。

併し労働者の地位上進の障害としてかく目立たないながらに之より重大なのは企業の複雑性の増大である。企業の主腦者は今日は以前少しも頭を悩まなかつた幾多の事柄を考へねばならぬ。そしてこの種の困難に對しては工場内の訓練は恰かも少しも準備を與へてくれない。之に對抗するには労働者教育を急速に改善せねばならぬ。教育とは學校教育のみならず、之よりも重要なのは新聞により、又協同組合・労働組合の作業から又その他の方法による後年の教育である。

英蘭全人口の約四分の三は賃銀收得階級である。兎も角彼等が食足り適當

彼は著しく
企業の複雑
性に妨げら
れる

併し彼はこ

これらの困難
を克服する
ことがある

の住居に住み適當の教育を受けてゐる場合には、彼等は企業能力の原料たる神經的強力性を相當持つてゐる。彼等は方向を誤らぬ限り總て意識的或は無意識的に企業支配の地位を争ふ競争者である。通常労働者は若し能力を示すならば、一般に職工長となり、それから進んで支配人となり、雇主と共に共同社員の一員に引上げられることがある。或は僅かな貯蓄を貯へて今なほ労働者區域に存立し得る小さな小賣店の一を開き主に掛買によつて商品を仕入れ、妻は晝間店の番をし彼は夕べの時間をそれに充てることもある。これら或はその他の途によつて彼は彼の資本を増加し遂には小工場或は工場を起し得る迄になることもある。一旦好望に出立すれば銀行は熱心に彼に惜氣なく信用を與へるであらう。彼は時を持たねばならぬ。又彼は恐らく中年以後にならなければ企業を開始しないのであるから、強い生命と共に長い生命を持たねばならぬ。併し若し彼が之を持つてをり且つ「根才運」をも亦た持つならば、彼が死ぬ迄に多額の資本を支配するに至るは略ぼ確實である(8)。工場に於ては手をもつて作業する者は社會的傳統上之よりも地位が高いと見られてゐる簿記係

その他の多くの者よりも、支配的地位に進む一層の好機會を持つてゐる。併し商店に於ては違ふ。商店に於て營まれる手工作業は原則として少しも教育的性質を持たず、之に對して事務所の經驗は工業企業よりも商業企業の經驗に適する人間を作るに一層適してゐる。

(8) 獨逸人は企業の成功には『金・根・才・運』 Geld, Geduld, Genie und Glück を要すると言つてゐる。勞働者地位上進の機會は作業の性質によつて多少違ふ。細目についての細心の注意を最も重要として科學的或は世界的投機運動についての廣汎な知識を要すること最も少い業に於てはこの機會は最も多い。即ち例へば『節儉と實地細目についての知識』とは陶器業の通常作業に於ける成功の最重要要素である。その結果この業に於ける成功者の大多數は『ジョサイア・ウエッチウッド Josiah Wedgwood の如く職工のベンチから身を興した』のである(専門教育調査委員會に對するウエッチウッド G. Wedgwood の舉證を見よ)。シエフィールドの工業の多くについても同様に言へる。併し勞働階級の或るものは投機的危險を冒す才幹を發揮する。若し彼等が投機成功の指針たらねばならぬ事實についての智識を得る途があれば、彼等は往々彼等よりも高所から發足した競争者を排して進むであらう。魚類・果實等の變質性貨物卸賣商の最大成功者の或る者は市場人足から生活を始めたのである。

然らば大體に於て下より上に向ふ廣大な運動がある。勞働者の地位から雇

地位上進は

一代で行は
れず二代を
要すること
がある

併し之は全
然善利なき
い害惡ではな

主の地位に進む者は恐らく以前程に多くはないが、自分の子に最高の地位に進む好機會を與へるに十分な程地位を進め置く者は以前よりも増加した。完全な地位上進が一代で行はれることは左迄多くなく二代に亘ることが多い。併し上進運動の全部の大きさは恐らく未曾有に大である。又全體としての社會にとつても地位上進が二代に跨る方が恐らくいゝ。十九世紀初頭勞働者から雇主の地位に進んだ者は極めて多かつたが、支配的地位に適任な者は殆んどなかつた。彼等は殘忍・暴虐なことが餘り多かつた。彼等は自制心を失ひ眞に高貴でもなく眞に幸福でもなかつた。他面彼等の子は往々不遜・放埒・我儘であつて低級野卑な娛樂に富を濫費し、舊貴族の美點を持たずしてその最惡の短所を持つてゐた。職工長或は監督は、命令しつゝもなほ服従する地位に立つ者であるが、自ら地位を進めつゝある者であり又その子に更に高く地位を進めさせる者であつて、或る點に於ては小親方よりも羨望すべきである。彼の成功は之に比しては目立たないが、彼の作業は往々一層高級であり世界にとつても一層重要であり、他面彼の性格は一層溫雅で洗鍊されてをり而かも強さに於ても劣つて

のない。彼の子はよく訓練されてをり、若し子が富を得るならば恐らくそれを相当善用するのである。

さりながら茲に是認せねばならぬことがある。それは多くの産業部門に於ける巨大企業殊に株式會社の急速な發展は、有能節儉の労働者中子のために高い抱負を持つ者をしてその子を事務所作業に就かしめるに至る傾あることである。そこは彼等が手を用ひて營む構成的作業に附帶する肉體的活力と性格力とを失つて下級中産階級の平凡な一員と化し去る危険を持つ所である。併し若し彼等が彼等の力を損はずに維持し得れば、彼等は恐らく世界に於ける指導者となるのである。尤もそれは一般に彼等の父の産業に於ては、はたなく、従つて特に適切な傳統と性向との利益を持たぬのである。

但し單なる事務所作業の危険を避けるだけである

一二 有能企業家は速かに自己の支配資本を増加し無能者は一般に彼の企業が大なれば大なる程早くその資本を失ふ。これら二力は資本を資本善用能力

に適合せしめる傾がある。資本支配力を持つ企業能力は英蘭の如き國に於ては相應明確な供給價格を持つ。

有能企業家は速かに自己の支配資本を増加する

徑路の如何を問はず大能力者が一度獨立企業の主腦に立つた曉には、相當の好運を得て、やがて資本善用の力量を明證し、之によつて彼は資本を何等かの途によつて殆んど何程でも必要する儘に借入れ得るに至る。彼は多大の利潤を收めて自家資本を増加し、自家資本のこの増加部分は更に多額の借入資本の物質的擔保となり、他面之を自ら作つたといふ事實は資本融通者をして貸附の全額擔保を左迄強く要求せしめない。勿論運は企業に利くものであつて、非常な有能者も事態が彼に非となることもあり彼が損失しつゝあるといふ事實は彼の資本借入力を減ずることがある。若し彼が部分的に借入資本によつて事業を營んでゐるならば、之は債權者をして貸附資本の書替を拒ましめることさへあり、かくて彼は自家資本のみを用ひてさへぬれば一時の悲運に過ぎぬ事によ

つて倒れることもある(9)。彼は再び立つための苦闘に於ても多大の憂慮に満ち、悲運をさへ伴ふ破亂の生活を送ることもある。併し彼は成功に於けると同様非運に處しても能力を示し得る。人間本性は樂觀的である。又人の周知する通り、人は企業名聲を失はずして商業危難を切抜けた者に資本を豊かに融通したがるものである。即ち盛衰はありながらも、有能企業家は一般に彼の支配資本が結局に於て彼の能力に比例して増大するを見出すのである。

(9) 彼には丁度資本を最も要する際に債務を書替し得ぬといふ危険があるが、この危険は自家資本のみを用ふる者に比して彼を相對的に不利益の地位に置き、この不利益は彼の債務の單なる利子が表す所よりも遙かに大である。吾々は後に分配學說中經營收入を取扱ふ部分に入つて行くが、そこで明かになる通り、右その他の理由によつて、利潤 profits は純經營收入 net earnings of management 即ち當然企業家能力に歸すべき収入に利子を加へたものよりも以上の何物かなのである。

同時に既に明かにした通り、貧弱な能力をもつて大資本を支配する者は速かに之を失ふ。彼は恐らく小企業の經營には適任で彼の經營着手の時よりは之を強固にして後に残し得るし又残すこともあらう。併し若し彼が諸大問題を

大企業能力
を持たぬ者
は彼なれば
が大なる程
がなる程速
か失ふ資
本を失ふ資

處理する天才を持たないならば、企業が大なれば大なる程速かに彼は之を破滅し去るであらう。蓋し原則として、大企業は通常危険を斟酌すれば非常に低い收利率しか残さぬ取引によつてのみ維持され得るからである。迅速多額の運轉資本に對する僅少の利潤は有能者に豊かな所得を與へるであらう。そして性質上巨大資本の活用を許す企業に於ては、競争は一般に資本運轉利潤率を鋭く切下げる。一村商人は有能競争者よりも五パーセント低い資本運轉利潤を收めてもなほ水面に顔を出してゐられることもある。併し大工業企業・商業企業の中で収益の迅速な又直線的劃一作業を行ふ企業に於ては、全資本運轉利潤は往々非常に少く、ために競争者に比して極く僅かの百分率だけでも少い利潤を收める者も資本運轉毎に多額の損失を蒙る。他方大企業の中でも困難であり劃一作業に依頼せず眞に有能な經營に對して高い資本運轉利潤を與へるものに於ては、單なる平凡能力のみをもつて之を企てる者は何人も全然利潤を收め得ないのである。

これらの二

これら二類の力、一は有能者の支配資本を増加せしめる力と他は劣弱者の掌

力は資本を
資本に適合
する傾向を
あしめるが
能

裡にある資本を破壊し去る力とは次の結果を來す。即ち企業家能力と彼等の所有する企業の大きさとの間には一見してかくもあらうと思ふより遙かに密接な一致關係があるといふことである。この事實に加へて、天性的大企業能力を持つ人は私會社或は公會社に於て地位を上進する徑路があるのは既に論じた通りであるから、これらの徑路を總て考へ合せて、吾々は次のやうに結論していい。即ち英蘭の如き國に於て大規模作業を營むべき場合には如何なる場合にも、所要の能力と資本とは略ぼ確實に速かに現れ來るといふことである。

なほ恰かも産業熟練・産業能力が判断敏速・智略・細心・目的固執性等の廣汎な才幹——何れの一業にも特化してをらず一切の業に多少とも有用な才幹——に依存する所が日々増しつゝあると同じく、企業能力についても亦たさうである。事實に於て企業能力は下級産業熟練能力よりもこれらの非特化才幹を一層多く含んでをり、企業能力の度が高ければ高い程その適用も愈々多様である。

然らば資本支配力を持つ企業能力は、この能力の過剰な一業から企業能力に有利な機會を開く他業に極めて容易に水平的に移動し、又有能者は自身の業の

資本支配力
を持つ企業
能力は英蘭
の如き國に
關

於ては相應
な供給價格
を持つ

内部に於て高い地位に進み極めて容易に垂直的に移動する。故に吾々は、近代英蘭に於ては資本支配力を持つ企業能力の供給は一般原則としてその需要に適合し、之によつて相應明確な供給價格を持つと信ずべき若干の好理由を持つのである。吾々の探求のこの低い階梯に於てさへさうである。

最後にこの資本支配力を持つ企業能力の供給價格は三分子から成るものと見ていい。第一は資本の供給價格である。第二は企業能力・精力の供給價格である。そして第三は適切な企業能力と所要資本とを結合する組織の供給價格である。吾々はこれら三分子の第一の價格を、利子 interest と呼んで來た。吾々は第二をそれ自體として見たもの、價格を、純經營收入 net earnings of management と呼び、第二・第三を合せたもの、價格を、總經營收入 gross earnings of management と呼びたい。

純經營收入
と總經營收
入

第十三章 結論 收穫遞増・收穫遞減傾向の 相關關係

一 本編諸終章の要點。

本編の初めに於て吾々は、資本・労働の充用増加部分に對して自然の與へる土地生産物の收穫増量が、他の事情等しい限り、結局に於て如何に遞減する傾あるかを示した。本編のその餘の部分殊に最後の四章に於て吾々は楯の他面を見、人間の生産的作業力が彼の營む作業量と共に如何に遞増するかを明かにした。先づ第一に労働供給支配原因を考察して、吾々は一民族の肉體的・心性的・徳性的活力の一々の増進が、他の事情等しい限り、如何に彼等をして活力ある多數子孫を恐らく成年者に養育せしめるに至るかを示した。次に富の増加に轉じて、吾々は富の一々の増加が如何に一層の富の増加を幾多の點に於て前よりも容易ならしめる傾あるかを知つた。又最後に吾々は、一々の富の増加及び民族の

本編諸終章
對する關係

本編諸終章
の要點

數と知性との一々の増加が如何に高度に發達した産業組織への便宜を増加し、この産業組織が又逆に資本・労働の共同能率を著しく増進するかを明かにした。吾々は何れかの種類の財の生産規模の増大から來る經濟を精細に注視して、この經濟が二類に分れることを知つた——その産業の一般發展に依存するもの及びその産業に従事する個體營業の資力とその經營能率とに依存するもの、即ち外部經濟と内部經濟との二である。

吾々はこの後者の經濟が、特定營業に關する限りに於ては、如何に不斷に變動して止まぬかを明かにした。一有能者は恐らく若干幸運の機運に助けられてその生産業に強固な地歩を築く。彼は勤勉に作業し慎ましく生活する。彼の自家資本は速かに増大し、彼をして一層の資本の借入れを得せしめる信用はそれよりもなほ速かに増大する。彼は普通以上の熱心と能力とを持つ役員を周圍に集める。彼の企業が増大すると共にこれらの役員は彼と共に地位を上進する。役員は彼を信頼し彼は役員を信頼する。役員は各々適材適處に當つて精力を傾倒し、ために高級能力を簡易な作業に浪費することもなく、困難な作業

を不熟練者の手に委ねることもない。かくの如く着々遞増する熟練經濟に對應して、彼の企業の増大は特化機械その他一切種類の營業施設の同様の經濟を齎す。一々の新過程は速かに採用されて一層の新改良の基礎となる。成功は信用を齎し、信用は成功を招く。信用と成功とは舊顧客を引留め新顧客を呼ぶ助けとなる。彼の營業の増大は彼に購入上の多大の利益を與へる。彼の財は互に他を廣告し、之によつて彼の販路探出の困難を軽減する。彼の企業規模の増大は彼が競争者以上に有する利益を急速に増大し、價格—この價格ならば賣り得るといふ價格—を低減する。この過程は彼の精力・企業心、彼の發明力組織力がその全幅の強力性と清新性とを維持する限り進む。又企業と分離し得ない危険が彼に例外的損失を來さぬ限り進む。若しこの過程が百年間持續し得るならば、彼及び彼と同様の他の一・二少數者は彼の從事する産業部門の全體を彼等の間に分有するに至るであらう。彼等の生産の大規模なることは彼等をして多大の經濟を享受せしめるであらう。若し彼等が全力を擧げて互に競争するとすれば、公衆はこれら經濟の主要福利を受け、その貨物の價格は非常に

低落するであらう。

併し茲で吾々は森林中の若樹が、年長の競争者の息詰まるやうな暗い陰を抜いて成長の苦闘を營むことから教訓を學びたい。多くの若樹は半途で夭死し、僅かに少數のみが生き残る。これらの少數は年々強大となり、高さを増す毎に日光・空氣を一層多く得、遂に彼等は逆に隣樹を抜いて高く天に押し、恰かも永遠に成長を続け成長するに従つて永遠に強大ならんとするかに見える。併しさうでない。甲樹は乙樹よりも良く全幅の活力を維持しそれよりも大きくなるであらう。併し早晩年齢といふものが彼等一切の上に利いて來る。例へ高木は競争者よりも多くの日光・空氣を受けても、彼等は漸次活力を失ひ、一本一本と他の木—物質的強力性こそ弱い—が青春の活力を持つ他の木—に地位を譲るのである。

樹木の成長に於ける如く、巨大株式會社—之は往々行結まるが俄かに死滅しない—の近時の大發展以前に於ては原則として企業の成長も亦たさうであつた。今日はこの原則は決して普遍的ではないが、多くの産業・交易に於ては依然

行はれてゐる。自然は依然私人企業を壓迫する。それはその企業原創立者の生命の長さを限ることにより、又彼等の生涯中その才幹が全幅の活力を持続する年數を更に一層狭く限ることによる。故に暫時の後にはその企業指導の任は他の人々の掌中に落ちる。この人々はその繁榮について前者に劣らぬ熱烈な興味を持つてはゐるが、精力も少く創造的天才も少い人々である。若しこの企業が株式會社に轉化すればその企業は分業と特化熟練・特化機械との利益を保持することもある。それは資本の増加によつてこれらの利益を増加することさへある。それは順當な條件の下に於て生産作業上に永遠の須要な地位を確保することもある。併しその企業は恐らくその弾力性と進歩力とを著しく失つて了つてをり、ために新進の小敵との競争に當つてもはやこれらの利益は排他的に右の企業にのみ歸しないのである。

従つて吾々が富と人口との増殖が生産經濟上に及ぼす廣大な結果を考察しつゝある場合には、吾々の結論の一般性質は次の如き諸事實によつて餘り左右されないのである——その諸事實とは、これら經濟の多くがその生産に従事する

個體營業の大きさに直接依存するといふ事實及び殆んど總ての生産業に於て大企業は不斷に盛衰し或る瞬間に於ては若干の營業は上進しつゝあり若干は下降しつゝあるといふ事實である。蓋し平均繁榮の時に於ては、一方向に於ける衰微があれば必ず他方向に於ける發達が之と平衡を保つてなほ餘りあるからである。

同時に總體生産規模の増大は勿論直接個體營業の大きさに依存せぬ諸經濟を増大する。これらの經濟中の最重要のものは相關産業諸部門の發達から來る。これらの諸部門は相互に他を補助し、恐らく同一地方に集中してゐるが、何れにしても蒸氣運送・電信・印刷機が提供する近代交通便宜を利用してゐる。かくの如き源泉から來る諸經濟は、如何なる生産部門も享受するものであつて、獨りその生産部門自體の發達のみには依存するものではない。併しなほその生産部門の發達に伴つて必ず迅速着實に増大するものであつて、若しその生産部門が衰退すれば、これらの經濟は必ずしも總ての點に於ては、はななくとも若干點に於て必ず縮小するのである。

二 生産費は代表的營業に關聯して解すべきである。
 代表的營業とは、一定の總體生産規模に屬する内部
 經濟と外部經濟とを正常に享受する營業である。
 收穫不變と收穫遞増。

代表的營業
 に於ける生
 産費の豫
 論

これらの結果は吾々が一貨物の供給價格を支配する諸原因を論究するに際して多大の重要性を持つであらう。吾々は一貨物の正常生産費を一定總體生産規模に關聯して細心に分析せねばならぬであらう。又吾々はこの目的のためには右總體規模に於ける代表的生産者の失費を研究せねばならぬであらう。一方に於て吾々は若干の新生産者を選び出すを欲せぬであらう。その新生産者とは、今漸く企業に割り込もうとする者であり、幾多の不利を忍んで作業し暫くは殆んど或は全然無利潤に甘んぜねばなむぬ者であり、併し自ら關係を確立しつゝあり成功企業の建設に向ふ第一歩を踏み出しつゝあるとの事實に満足する者である。又他方に於て吾々は異常の一強大營業を取るを欲せぬであら

う。その強大營業とは、例外的に永續した能力と好運とによつて巨大企業と秩序ある尨大な工場とを併有し、この工場によつて殆んど一切競争者に對し優越權を持つ營業である。之に反して吾々の代表的營業は次の如き營業でなければならぬ。それは相當の長命と相當の成功とを持つものであり、正常能力によつて經營されるものであり、その總體生産規模に屬する外部經濟・内部經濟を正常に享受するものである。尤も生産財の種類、その販賣状態及び一般經濟環境を考慮せねばならぬ。

即ち代表的營業は或る意味に於て平均營業である。併し一企業に關聯しても『平均』といふ用語は幾様にも解釋される。そして代表的營業は特定種類の平均營業である。大規模生産の内部經濟・外部經濟が問題の産業と國とに於て如何程迄一般に普及せるかを見るために吾々が注視するを要する平均營業である。吾々は漫然と一二の營業を採つて注視しても之を觀取し得ない。併し廣大な測量を行つて後、吾々の判斷の最善を盡してこの特定平均を代表する一營業——私人經營によると株式經營によるとを問はぬ或は一以上ならばなほ

いし)を選び出すときは、吾々は相當良く之を觀取し得るのである。

本編の一般論究は次の點を示す。即ち何れかの物の總體生産規模の増大は一般にかゝる代表的營業の大きさ従つてその有する内部經濟を増大するであらう。又この増大は該營業が享受する外部經濟を常に増大し、之によつて該營業は以前よりも比例以下の勞働犠牲の費用をもつて製造し得るに至るであらう。言ひ換へれば吾々は、自然が生産上に演ずる役割は收穫遞減傾向を示すに對し、人間が演ずる役割は收穫遞増傾向を示すと概言するのである。收穫遞増法則は次の如く言ひ表していし——勞働資本の増加は一般に組織の改善を來し、この組織改善は勞働資本の作業能率を増進する。

從つて土地生産物の産出に従事せぬ諸産業に於ては勞働資本の増加は一般に比例以上の遞増收穫を與へ、更にこの組織改善は自然が土地生産物産出量の何等かの増加に對して與へる抵抗の増加を減少する傾があり或は之を壓倒する傾さへもある。若し收穫遞増法則及び收穫遞減法則の諸作用が平衡するならば收穫不變法則があつて、生産物の増加は丁度勞働犠牲の比例的増加によつ

收穫遞増法則

及び收穫不變法則

て得られるのである。

蓋し收穫遞増及び收穫遞減の二傾向は絶えず互に他を壓迫するからである。例へば小麥及び羊毛の生産について言へば、自由に輸入し得ない舊國に於ては殆んど全く後者の傾向のみが強く働く。小麥から小麥粉を作り或は羊毛から毛布を作る場合には、總體生産規模の増大は若干の新經濟を齎しはするが、左迄多くの經濟を齎しはしない。蓋し製粉業毛布製造業は既に大規模であつて、これらの生産業が收め得べき何等かの新經濟は恐らく組織改善の結果に非ずして寧ろ新發明の結果だからである。さりながら毛布業の發達が極く幼稚な國に於ては、この後者の組織改善が重要なこともある。この場合には總體生産の増大が丁度原料産出の困難を増加すると同じだけ製造の比例的困難を減少すること偶々ある。この場合には收穫遞増法則及び收穫遞減法則の作用は正に互に中和し、毛布は收穫不變法則に従ふであらう。併し之よりも精巧な工業部門——そこでは原料費は重大でない——の大多數と近代運輸産業の大多數とに於ては、收穫遞増法則は殆んど無抵抗に作用する(1)。

收穫遞増傾向と遞減傾向との相互牽引

(1) パロック教授はその論文 Bullock, The variation of productive forces, Quarterly Journal of Economics, 1902 に於て、收穫遞増に代へて『組織の經濟』(Economy of Organization) といふ用語を用ふべきであると提論してゐる。教授は收穫遞増を來す諸力が收穫遞減を來す諸力と同等級のものでないのを明白に示してゐる。かくの如く結果よりも寧ろ原因を記述し、又組織の經濟と收約耕作に對する自然の感應の非弾力性とを對照せしめこの差異を高調する方がいゝ場合のあることは疑ない。

收穫遞増は數量關係ではある

收穫遞増は一面に於て努力犠牲の或る量と他面に於て生産物の或る量との間の關係である。これらの諸量は精密に定め得ない。何となれば變化し行く生産方法は機械を要求し又不熟練勞働熟練勞働の新種類を新たな割合に於て要求するからである。併し廣大な視野を取れば、吾々は恐らく漠然と、一産業に於ける勞働資本の或る量の産出高は最近二十年間に恐らく四分の一或は三分の一増加したと言つていい。支出と産出高とを貨幣によつて測定することは心惹かれる取扱方であるが危険である。蓋し貨幣支出 money outlay と貨幣收穫 money returns との比較は資本利潤率の評定に滑り込み易いからである(2)。

(2) 收穫遞増の行はれる産業は同時に利潤の増加を示すとの一般原則はない。疑もなく活力ある營業は工作の規模を大にしその營業に特異な重要な(内部)經濟を収めるのであつて、收穫遞増と利潤率の上昇とを示すであらう。何となればその産出高の増加はその生産物の價格を著しく左右せぬからである。併し後に明かにする通り(第六編第八章一・二)、平織業の如き諸産業に於ては利潤は低下する傾がある。何となればこれらの産業の巨大な規模は、生産・販賣の組織を非常に進ましめ、殆んど全く副一作業を主とするに至つてゐるからである。

三 人口數の増加は一般に共同能率の比例以上の増加を伴ふ。

よつて吾々は産業擴張と社會福祉との關係を暫定的に要言したい。急速な人口増殖は往々人口過稠の都市に有害不健康な生活習性を伴つた。又時には急速な人口増殖は出立點を誤つて、民族の物質的資力を凌駕し、ために民族は不完全な要具をもつて土地に向つて過度の要求を發し、收穫遞減法則の結果を極小化する力を持たず、土地生産物に關聯して收穫遞減法則の峻嚴な作用を呼び起したこともある。かくの如く貧乏から始まれば、人口數の増加は進んでその

急速な人口増殖は或る條件の下に於ては害悪に於ける

餘りに頻繁な諸結果に突入することがある。それは即ち性格の虚弱であつて、之は一民族を高度組織産業の發展に不適當ならしめるのである。

これらは由々しい害禍である。併し一定平均の個人的強力性・精力を持つ一民族の共同能率は、彼等の數に比して比例以上に増進することもあるは依然眞である。若し彼等が輕微な條件で食物その他の土地生産物を輸入して暫く收穫遞減法則の壓迫を免れることが出来、若し彼等の富が大戦争に消費されずして少くも人口數と同速度で増加し、若し彼等が有害な生活習性を避けるならば、その時には彼等の數の増加する毎に彼等の物質財獲得力も之に伴つて恐らく暫くは比例以上に増進するのである。蓋し人口數の増加は彼等をして特化熟練特化機械及び地方化産業・大規模生産の多數多様の經濟を確保するを得せしめ、又彼等をして一切種類の交通便宜を増加するを得せしめ、他方彼等の近隣地が接近してゐることその事が既に彼等の間の凡ゆる種類の交易に含まれる時間・努力といふ失費を減少し、又凡ゆる形態の社會的享樂と文化快適品・奢侈品とを得る新機會を與へるからである。疑もなく孤獨と安靜とを求め、又新鮮な空

併し或る條件の下に於てはさうでない

氣をさへ求める困難が増加することを差引いて考へねばならぬ。併し大多數の場合には善利の方がやゝ多いのである(3)。

(3) 英吉利人ミルは美しい景色の中を獨り放行する快樂を説くに當つて彼にも似ぬ情熱を發してゐる(Political Economy, Book IV, ch. VI, §2)。又幾多の米國著述家は、森林居住者が自分の周圍に隣人の定住するを見、その森林部落が村となり村が町となり町が廣大な市となるに従つて、人間生活豐實性の増大することを熱心に記述してゐる。(例へば Carey, Principles of Social Science 及び Henry George, Progress and Poverty を見よ)。

人口密度の増加は一般に新社會的享樂の便宜を伴つて来る。この事實を考慮して吾々は、この叙述をやゝ擴張してかう言ひたい——人口増加が之に等しい物質的享樂源泉及び生産補助の増加を伴ふときは、恐らく一切種類の享樂の總體所得は比例以上に増加するに至るのである。但し第一に、多大の困難なくして土地生産物の供給を十分に受け得るとき、第二に新鮮な空氣・日光及び若年者の健全愉快な娛樂が缺乏して肉體的・徳性的活力を害する程の人口過稠の存せぬ場合に限る。

人口數の増

文明諸國の蓄積富は現在人口よりも速かに増大しつゝある。尤も人口が

殖の一般の結果には
伴ふ富の増
細心の結果と
ぬねに區別

かく迄速かに増加しなかつたとしたらば一人當りの富は之よりも幾分速かに増加するであらう。それは眞であるとしても、なほ事實の問題として人口増加は恐らく今後も依然物質的生産補助の比例以上の増加を伴つて行く。英蘭は容易に豊富な外國原料の供給を受け得るが故に、現在に於ては人口増加は日光、新鮮な空氣その他の必要以外の人間欲望満足手段の比例以上の増加を伴ふ。さりながらこの増加の多くは生産能率の増進に基くのではなく、人口増加に伴つた富の増加に基いてゐる。従つて人口増加は、この富に對して何等の取得分をも持たぬ者を必ずしも利益せぬのである。なほ英蘭が受ける外國土地生産物供給は他の諸外國の貿易規制の變化によつて何時阻止されるかも知れず、一大戦争によつて殆んど斷絶されるかも知れぬ。他方この最後の危険に對して相當に國を安然ならしめるに必要な陸海軍費は、英蘭が收穫遞増法則の作用から受ける諸福利を著しく減少するであらう。

附 錄

數學附錄

註解一〇 (二二頁,原著一四二頁—第四編第一章二註(4)) 註解一に於けると同様に推論して、一労働量 l の非利用或は非貨物を v をもつて表すとす。すれば $\frac{dv}{dl}$ は労働の限界非利用を測定する。本文中に掲げた制約に従つて $\frac{dv}{dl}$ は正である。

或る人の處分し得る貨幣即ち一般購買力の量を m とし、 μ を彼にとつてのその全部利用とし、従つて $\frac{du}{dm}$ をその限界利用とする。即ち若し彼をして労働 dl を爲さしめるために支拂はねばならぬ賃銀が w であるとすれば、 $\Delta w \frac{dm}{dm} = \Delta v \frac{dv}{dl} \frac{dl}{dm} = \frac{dw}{dl} \frac{du}{dm} = \frac{dv}{dl}$ である。

若し彼の労働忌避が固定量に非ずして變動量であると假定すれば、吾々は $\frac{dw}{dl}$ を m の一函數と見ていふ。すれば $\frac{dv}{dm}$ も $\frac{dw}{dm}$ も共に常に正である。

註解一一 (二二二頁,原著二四八頁—第四編第八章五註(5)) 若し鳥の何れかの種の所屬員が水棲的習性を採り始めるとすれば、足指の間の蹼の一々の増大は—自然淘汰の發動によつて漸次に起ると或は畸形として突變的に起るとを問はず—彼等をして水棲生活に一層の利益を見出さしめ、子孫を残す機會を一層蹼の増大といふことに繋らしめるであらう。故に若し t といふ時に於ける蹼の平均面積を $f(t)$ とすれば、蹼の増加率は或る限度内に於て

蹶の一々の増大毎に増加し、従つて $f''(t)$ は正である。さて吾々はテーラー定理によつて

$$f(t+h) = f(t) + hf'(t) + \frac{h^2}{1 \cdot 2} f''(t) + \dots$$

であることを知つてゐる。若し h が非常に大となる程に h が大ならば $f'(t)$ が小であり $f''(t)$ が決して大でなくとも $f(t+h)$ は $f(t)$ よりも著しく大となるであらう。十八世紀末及び十九世紀初頭に於ける物理学上の微分學應用の進歩と進化理論の勃興との間には表面的關聯以上のものがある。社會學に於ても、生物學に於ても、吾々は諸力の累積的結果を注視することを學びつゝある。これらの力は最初は弱い、自己自身の諸結果の増大によつて一層強力となるのである。かゝる事實は總て普遍的形態の一特殊體現であるが、この普遍形態はテーラー定理である。或は若し一時に一以上の諸原因の作用を考慮すべきならば、之に該應する數多の變數の一函數の表現である。一部のメンデル派の人々は、種屬の漸次的變化は個體が通有型から著しく離反するによつて成起すると暗示してゐるが、例へ今後の研究がこの暗示を確證するとしても右の結論は依然妥當するであらう。蓋し經濟學は人類の研究であり、特定國民の研究であり、特定社會層の研究であつて、例外的天才を持ち或は例外的愚學暴學を爲す人間の生活には間接に關するに過ぎぬからである。

索引

- I 件名索引……ローマ字綴による。
 II 地人名索引……原語の綴による。
 (編・章・節を掲げたものはその所に詳論あり)

件
名
索
引

I 件名索引

A

愛蘭

- 人口 113
 富の貯蓄 178
 コティアーの貯蓄 179

B

米國

- 經濟學者と作業快樂 11註
 最初の拓殖者の耕作 48-9
 人口増加 97, 113
 都市改良 174-5註
 富の増殖 184
 北米合衆國の財産報告 200
 北米合衆國の土地の價值 201
 農業家の使用機械 238
 米國式懐中時計製造 239-41
 農業家の社會的條件 252
 最大規模生産 329
 分業 division of labour 225
 —と能率(スミス) 206-7, 217-8, 236
 有機體に於ける—208,
 ヘッケル 208註
 シェフレー 208註
 —の利害 217-8

- 習練は完成を作る 226-30
 分業と機械 225 56 (第四編 第九章)
 ローダーデール 232註
 ゼノフォーン 232註
 細—235-6
 ボールトン 236
 ワット 236
 企業經營上の一 225, 237, 259, 289-91
 印刷業の一 242-7 (第四編第九章五)
 バベーチ 253-4
 参考-能率・特化
 分化 differentiation
 産業上の一 208
 物理學
 —上の微分學の應用と進化理論 364

A
|
C

C

- 賃銀
 労働の報償 192
 時間拂— 332
 出來高拂— 332
 —收得階級 336-7
 知識
 資本としての 4
 貯蓄
 —と生産者餘利 175-6

一の一条件としての保障 179-80 (第四編第七章四)
 貨幣経済と一 181-2 (第四編第七章五)
 一と家族的愛情 182, 183 5 (第四編第七章六)
 一力の源泉 185-7
 一と利子 192
 一の需要價格 193-4, 199
 一と報償 195-200 (第四編第七章九・一〇)
 チャイルド 196-7
 サーガント 197
 一願望 199
 一力 199
 中産階級
 結婚 92
 中世
 英蘭の人口 101-3
 一手工業者の熟練 140
 一の技術工 140, 155, 156-7
 生活ロマンス 321註

D

代表的營業 representative firm
 一の意味 352-4
 一の生産費 352
 大規模生産 production on a large scale 225, 276, 278-302 (第四編第十一章), 348, 358
 利益 278-89 (第四編第十一章一・三)
 工業 278-96 (第四編第十一章一・五)
 商業 296-300 (第四編第十一章六)
 運送業 300-1
 鑛山・石抗 301-2
 農業 292, 302
 最 329

代用 substitution 69註
 獨逸
 一人口と三十年戦争 104註
 専門教育 151
 貨幣購買力 202
 獨占
 制限的 293

E

營業關係 319
 自由職業者の一 305

F

フィジokrat Physiocrat
 人口論 80-1
 ケネー 81
 テュールゴー 81註
 不熟練勞働
 一者の結婚 92, 93註
 一者の能率 116註
 一といふ用語 140-2
 一者の家庭 144
 一の補充(ミル) 165註

福利
 未來一の割引 178註
 福祉
 物質的一と科學的勞作 161
 佛蘭西
 人口 99-100註
 長子相続法(モンテスキュー) 99註
 強制分産法(ル・プレー) 99註
 ルアッスールの人口分析 99-100註
 結婚年齢 113
 十八世紀農民の貯蓄 179
 土地の價値の増加 201
 貨幣購買力 202

富の増値(ダウネル, ルアッスール, ルロア・ボーリュール, ネイマーク, ド・フォギーユ) 205

G

限界 margin
 耕作一 of cultivation 36, 38
 有利支出の一 of profitable expenditure 36-7
 一收穫 70
 貯蓄の一 196
 限界 marginal
 一非利用 10
 一充用分一 dose 35, 36-7
 一收穫 35, 38

原始
 一時代の意匠家 156
 一的種族の將來豫想力 176-7, 182
 一的手工業者 303

技術工
 結婚 92
 近代一の素質 140, 157
 一家庭 144
 中世歐洲と近時東方の一 155
 一の補充(ミル) 165註

ギルド guild
 利己的排外性 103

H

配分
 一の觀念 67-71
 富の使用上の一 188-91
 發明
 劃世的大一 151
 非貨物 discommodity
 定義 7

勞働の一 8, 363
 非利用 disutility
 定義 7
 勞働の限界一 10, 363
 勞働の一 363

必要
 未來一 168, 182
 必需品
 生活一 120-1 122, 175-6
 能率一 121-2
 勞働一 122
 物質的一 123

本籍法 Settlement law 104-6
 スミス 105註

遺傳
 後得的素質の一 221-2
 ビグー 222註

印度
 ライヤットの農具(フィーア) 172-3註
 貯蓄 178

英蘭
 一農業の革命 56
 一人口史 101-14 (第四編第四章六・七)

一の教育 148, 158
 若干階級の空費 177
 富の貯蓄者 185, 185-6
 中世の土地の價値 201-2

貨幣購買力 202
 各地の富の變化(ローヂャース) 205
 英王國の富(ギッフェン, クラモンド) 204-5

農業家の社會的條件 252
 交通手段の安價と産業の地理的分布 270

農業人口の分布 271 7
 收穫遞減法則の作用 272

賃銀取得階級 336-7

J

地代 rent

—と餘剰生産物 40, 47註

負量の一(ウィックスティード) 54註

嶺山—と農場—64-5

敷地— 65 6

地代理論

—の特異性 22註

リカード 36註

—と餘剰生産物本質論 40-1

人口

—増減の原因 12-3

生産業間の一分布 13-4

—増殖の壓迫 61, 89

—増殖 75-114 (第四編第四章)

—問題 76

ロシア— 77

人口増加論 77-80

ベティ— 78

ケリー 78, 359

ウェークフィールド 78

チャイルド 78

ビット 78, 79註

アリストートル 78註, 84註

プラト— 78-9註, 84註

マイヤー 79註

ハリス 79註

ナポレオン一世 79-80註

ルイ十四世 80註

フィジョクラット 80-1, 82註, 82-3

ケネ— 81

テュールゴ— 81註

ステュアート 81-2註

スミス 82-3, 97註, 105註

共産主義 83, 84註

マルサス 84, 85-90 (第四編第四章

三), 97註, 98註, 99註

ワグナー 87-8註

ラーフェンシュタイン 90註

結婚率と出生率 90-101 (第四編第四

章四・五) 109, 111-2, 114, 133-4

オーグル 91註, 93-4註, 112註

コレジ 91-2註

ゴルトン 96, 101, 130註

自然増加 97, 109, 114

ダブルデー 97-8註

スペンサー 98註

ダーウィン 98註

ブース 98註

佛國—運動 99-100註, 113

モンテスキュー— 99註

ルヴァッスール 99註, 100註, 112註

113註

ル・プレー 99註

都市と田舎との出生率 98-9註

英蘭—史 101-14 (第四編第四章六・

七)

ハリソン 104註

イーデン 106註

—と農作 109

—と商業變動 109-12

ウィルコックス 112註

フッカー 112註

蘇格蘭 112-3

愛蘭 113

テュートン系諸國 113

スラヴ系諸國 113, 114

米國 113

ボーディオ 113註

オーストラレーシア 114

死亡率 114, 119, 120, 126註, 130-1

註, 134-5

—の健康と強力性 115-137 (第四編

第五章)

生命の長さ 119-31

人口と氣候 119-20

職業と死亡性 126註

都市— 128-9註

ウェルトン 130註

ヘイクラフト 131註

小兒死亡性 134-5

ルロア・ボリュ— 135註

實際的結論 135-6

英吉利各種産業— 270-7

—増殖と生産經濟 350

—數の増加と共同能率増進 357-360

(第四編第五章三)

自作農

—制と人口 96, 97

—静止状態下の一(マルサス) 97註

自由職業

—階級の補充(ミル) 165註

—の企業方法 304-5

熟練

—特化— 142, 241, 287-8, 350, 358

—遺傳的— 264-5

—の經濟 280, 296, 348

充足

—現在— 189

—延期— 189

需要

—法則と收穫遞減法則 42註

—實效— 42註, 210

—表 42註

—個人— 42註

—總體—表 42註

—經濟的— 213

—一般—の多様性 298-9

需要價格 demand price 42註

—貯蓄の— 193-4, 199

需要供給

—の一般關係 6-7

資本の—の一般關係 198-200 (第四

編第七章—〇)

充用分 dose

—資本勞働— 34, 37-8註, 41, 45-6

—註, 47註, 51註, 67-74 (第四編第

三章八)

—限界— 35, 36-7

—限界—(リカード) 36註, 38註

—最終— 36, 39註

K

株式會社

—企業 317, 323-7, 350

—危險負擔と經營作業の分擔 324-5

—の弱點 326

—巨大—の行詰り 349

價值

—實質— 45註

—土地の相對— 51-5 (第四編第三章

四)

—交換— 59

—自然美の直接貨幣— 62

—貨幣— 201

—名目— 201, 202

貨幣

—經濟 181-2

—所得 182

—價值 201

—購買力の變化 202

—收穫— 356

階級

—古代の一と近代— 214-7 (第四編第

八章七)

快樂

—現在— 192

—未來— 193, 195

件名索引

H
|
J

四

件名索引

J
|
K

五

家内工業 domestic industry
 一の害悪 126, 313-4
 一と生産要具 170
 一と企業者 311-2
 工場的— 312註
 國民的— 312註
 カルテル cartel 237 329
 活力
 一の條件 119-25
 經營收入 earnings of management
 342註
 純— net — 324註, 345
 總— gross — 345
 經濟 economy
 努力の— 173註
 貨幣— 181-2
 生産— 253, 269, 295, 350
 機械の— 253, 279, 280-7 (第四編第十一章二)
 外部— external — 255-6, 276, 290, 347, 351, 352, 353
 内部— internal — 255-6, 276, 290, 294, 347-51, 352, 353, 357註
 原料の— 279-80
 熟練の— 280, 296, 348
 組織の— (パロツク) 356註
 期望性 prospectiveness
 利子と— 193
 企業
 意味 304
 原始的—方法 304-5, 308
 一家 307
 雇主たらざる一家 307, 310
 一危険の負擔 307, 308-14 (第四編第十二章三・四), 324
 一般—能力 309
 一能力 316-7, 344
 一家の世襲階級 317-21 (第四編第十

二章六)
 一の没落 321
 一形態 321-34 (第四編第十二章七—一〇)
 民主的—形態 327
 政府— 327-8
 一の複雑性 336
 一の成功 337-8
 有能—一家と無能—一家 340-5 (第四編第十二章一二)
 一能力の供給價格 344-5
 企業經營 business management 303-45 (第四編第十二章)
 一作業の特化 225, 237, 289-91, 323
 一作業の一般本質 314-6
 企業者 undertaker
 自由職業者 305
 小獨立— 331
 機械
 高價—の時代 170
 一採用の條件 171
 高價— 171-2, 272, 281
 農業— 173註, 272
 一と人間生活の質 234-7 (第四編第九章三)
 一と分業 235-47
 一製—と轉換部分の時代 237-42 (第四編第九章四)
 時計製造業の— 239-41
 印刷業 242-7 (第四編第九章五)
 一と勞働苦 247 53 (第四編第九章六)
 一と單調作業 249-53
 特化— 253-5, 265, 280-1, 287, 348, 358
 改良—の發明 235註, 281 4
 一の經濟 (經濟を見よ)
 一の多様性と高價性 280-1, 283

一の生命 281註
 古代
 一の世襲階級 214-7, 219
 工業
 字義 279註
 一上の大規模生産 278-96 (第四編第十一章一—五)
 工業上の機械 (機械を見よ)
 大—と小— 280-96 (第四編第十一章二—五)
 近代—一家の特殊任務 (ロツジャー) 283
 理想的—一家の資格 314-7 (第四編第十二章五)
 工場
 一の收穫遞減 66註
 大—時代 310
 一制度と家内制度 311
 工場法 126
 穀物條例 Corn Law
 一撤廢 52
 耕作
 粗放— extensive 28
 收約— intensive 28, 49
 一限界 36
 良—の絶對的標準 55
 土地—の順序 55-9 (第四編第三章五)
 交通
 一手段の低廉化と産業の地理的分布 269-77 (第四編第十章四)
 雇傭
 一の多様性 267
 協同組合 336
 一と蓄積富 186-7, 335
 一企業 317, 329-32, 333-4
 一主義 332
 部分的— 333-4
 蘇格蘭 333

英蘭 333
 教育
 自由— 145-6
 専門— 146-9, 151, 160
 家庭— 144
 一般— 145, 148
 産業教育 138-67 (第四編第六章六)
 成人専門— 150-1註
 高等— 152
 藝術— 154-60 (第四編第六章)
 モリス 158
 英蘭 148, 158
 佛國 158-9
 一は國民的投資 160-2 (第四編第六章七)
 兩親の—費分擔 162
 勞働者— 336
 曲線 curve
 生産物— produce— 53註
 供給價格 supply price
 作業の— 12
 作業の—表 12
 利用の— 16
 土地に—なし 16, 17
 企業能力の— 344-5
 資本の— 345
 組織の— 345
 共產主義
 一的人口論 83, 84註
 ゴドウィン 84註
 救貧法 Poor Law
 一と人口 83, 106
 新— 107
 一と貯蓄 179-80
 N
 農業

—と機械 (モートル) 143註
—と高價機械 272
—上の大規模生産 292, 302

農場

大— 302
—資本 (資本を見よ)

能率

産業—の條件 115, 119-25
不熟練労働の— 116註
—と氣候 119-20
産業—の要素 142
高等教育と下層労働者の— 152
特化と—増進 230-4 (第四編第九章
二)
纖維業に於ける—増進 249-50註
—世紀間—増進せぬ労働 275
資本労働の協同— 347
人口数の増加と共同— 357-60 (第四
編第十三章三)

参考-分業・組織

能力 ability

特化— 143
一般— 143
天性的— 288
一般企業— 309
企業— 316-7, 344
企業—の供給價格 344-5

O

奥大利經濟學者
作業快樂 11註

R

利潤

資本—と蓄積源泉 186
企業— 314-5

—と經營收入 342註
資本運轉— 343
—率と收穫遞増 356-7註

利潤分配 profit-sharing

企業經營上の— 332-3

利率

負の— 191
負量の— (フォクスウェル) 191註
—と貯蓄 195-200 (第四編第七章九・
—〇)
チャイルド 196-7
サーガント 197

利子

—と待望 191, 192-5
資本の供給價格 345

利用 utility

—の創造 15-6
—遞減傾向 69註
限界—の均等 188-9
参考-非利用・非貨物

労働 labour

定義 3, 4註
—の非貨物 8
—の限界非利用 10
肉體的— 115-7
筋肉—と食物 122
高級—等級と食物 122
不熟練— (その項)
熟練— 141
手工—と機械 (機械を見よ)
—移動性 163-7 (第四編第六章八
ミルと—移動性 165-6註
賃銀—者の所得増加 186-7, 187-8
—供給支配原因 346

労働階級

—の生活程度 105, 109, 111
—の人口 (人口を見よ)
—の出生率 133

—に生れる天才 153
—出身の産業指導者 154

労働組合

労働階級中の能力者と— 157, 336

労働者

—兒童の内への富の投下 199
—地位上進の機會 334-40 (第四編第
十二章—)
—より雇主へ 338-40

S

作業

—の快樂 (ジェブンス) 10
—願意と報酬 11-2, 12-4
—の需要供給 10 4
—願意と自由 124註
單調— 249-53
劃— 233-4, 296, 343, 357註

産業

—能率 (能率を見よ)
—訓練 138-67 (第四編第六章)
—指導者 154
堅い手の— 166註
柔い手の— 166註
ミルの—等級別 165-6註
ギディングスの—四等級別 166註
—構造の變革 222-4
補助— 242, 265, 280, 294
地方化— (産業地方化を見よ) 259
—的發展の條件 262-4
世界の—指導權 263
—の地理的分布 269-77 (第四編第十
章四)

産業地方化 localization of industry

225, 255, 256, 257-77 (第四編第十
章), 276, 280, 358

原始的形態 257-60 (第四編第十章

—)

—の原因 260-4 (第四編第十章二)

利害 265-9 (第四編第十章三)

産業組織 industrial organization

第四編第八-十二章, 347

現代—の變形 222-4

平等な— 224

能率ある—の第一の條件 225

参考-組織

生物學

—と經濟學 207

—と社會科學 213, 364

進化理論と微分學 364

参考-有機體

正常

—價格 9

—生産費 352

生産 production

—要因 agents of production 3-6
(第四編第一章—)

人間と— 5-6

—消費の一般關係 6-7

—要件 15

—手段としての人間 75, 186

大規模— (その項)

生産物 produce

總— gross— 31

餘利— surplus— 39-41, 45-6註, 47註

—曲線 —curve 53註

全部— 54註

生産費 cost of production

代表的生産者の— 352

生産性 productiveness

土地の— 18

努力の— 194

生産要具

家内工業の— 170

英吉利小作農の— 171

印度農家の— 172-3註
 参考-機械
 生産要因 agents of production 第四編
 —の分類 3-5
 —としての土地の特色 68-9
 静止状態
 —下の自作農 97註
 —下の富の増殖 174
 制慾 abstinence
 利子と— 192-3
 マルクス 193註
 マクモーン 193註
 生存競争 75, 132, 215
 人間-史 (マルサス) 207
 動植物の— (ダーウィン) 207
 適者生残 209-14
 生残競争 209-10, 220
 社会
 —問題の討論 218-9
 —組織の變革 222-4
 資本 capital
 定義 3, 15
 —労働-充用分 (ジェ-ムス・ミル)
 充用分を見よ
 固定— 73
 流通— 73
 —測定法 73-4
 —の増殖 168-205 (第四編第七章),
 335-6
 補助 170
 —の需要供給の一般關係 198-200
 (第四編第七章一〇)
 職工一人當りの資本 285-6註
 大小工場の固定—の比 286註
 一家的商人 306
 物質的— 325, 329, 335
 人格的— 335
 —の供給價格 345

市場
 地方的特殊熟練の— 265-6
 大—を持つ商品 294
 特定— 295
 進歩
 —は緩慢なるべし 223-4
 自然 (土地を見よ)
 商業
 —上の大規模生産 296-300 (第四編
 第十一章六)
 職業
 —と健康 126-7
 所得
 貨幣— 182
 —統計 (ボーリー) 204
 集化 integration
 産業上の— 208
 收穫 return
 全部— total-31
 限界— 限界を見よ
 —表 —schedule 42註
 —の弾力性 43
 漁場・鑛山・建築敷地の—法則 62-7
 (第四編第三章七)
 貨幣— 356
 收穫不變法則 law of constant return
 354-5
 收穫遞減法則 law of decreasing re-
 turn 23-6 (第四編第三章四) 27-74
 (第四編第三章), 35, 354, 357, 358
 アーサー・ヤング 31
 工業上の— 66-7, 68
 キアナン 74
 テュールゴ— 74
 リカード 74
 英蘭 272
 バロック 356註
 参考-收穫遞増

收穫遞増
 土地の— 28-9, 30註, 32, 34, 48註
 —と收穫遞減との關係 346-60 (第
 四編第十三章)
 —法則 354, 355, 360
 バロック 356
 數量關係 356
 —と利潤率上進 356-7註
 手工業
 原始的—者 304
 宗教
 經濟と— 76, 101, 117, 178, 212,
 214, 264
 收入
 平均貨幣— 267
 組織 organization
 資本としての 4-5
 —の經濟 30註
 —と能率増進 206-14 (第四編第八章
 一・二)
 プラト— 206
 スミス 206-7
 社会—と動物の肉體— 207
 機能細分 208
 宗教的・儀式的・政治的・軍事的・産業
 的— 214
 自然的—の學說 218-24
 スペンサー 219-20
 國家— 221
 數學
 —的推理 74
 物理學上の—の應用 364
 蘇格蘭
 人口 112-3
 T
 待望 waiting 7, 72註, 191

利子と— 191, 192-5
 利率と— 197
 『他の事情等しい限り』 186-7
 土地 land
 定義 3, 15, 16
 リカード 16註, 21
 テューネン 16註
 —の基本屬性 16-7
 —の供給價格なし 16, 17
 —の生産性 18
 本源的或は自然的屬性 22, 23-4
 人爲的屬性 22, 23-4
 —の相對價値の變化 51-5 (第四編第
 三章四) 273
 『劣等』地 52
 —の價値の均等化 53
 生産要因としての特色 68-9
 個人的視點より見たる— 70
 社会的視點より見たる— 70
 —の貨幣價値の増大 201-2
 土地の地味 15-74 (第四編第二章・第三
 章)
 —の力學的・化學的條件 18-20 (第四
 編第二章二)
 —の變換 20-2 (第四編第二章三)
 —の測度 43-50 (第四編第三章三)
 —の絶對的標準 (リカード) 57
 統一性 unity
 物理世界と精神世界との— 207-8
 特化 specialization
 —熟練 142, 241, 253-5, 287-8, 350,
 358
 —能力 43
 企業經營作業の— 225
 —と能率増進 230-4 (第四編第九章
 二)
 —機械と—熟練 253-5
 バベーチ 252-3